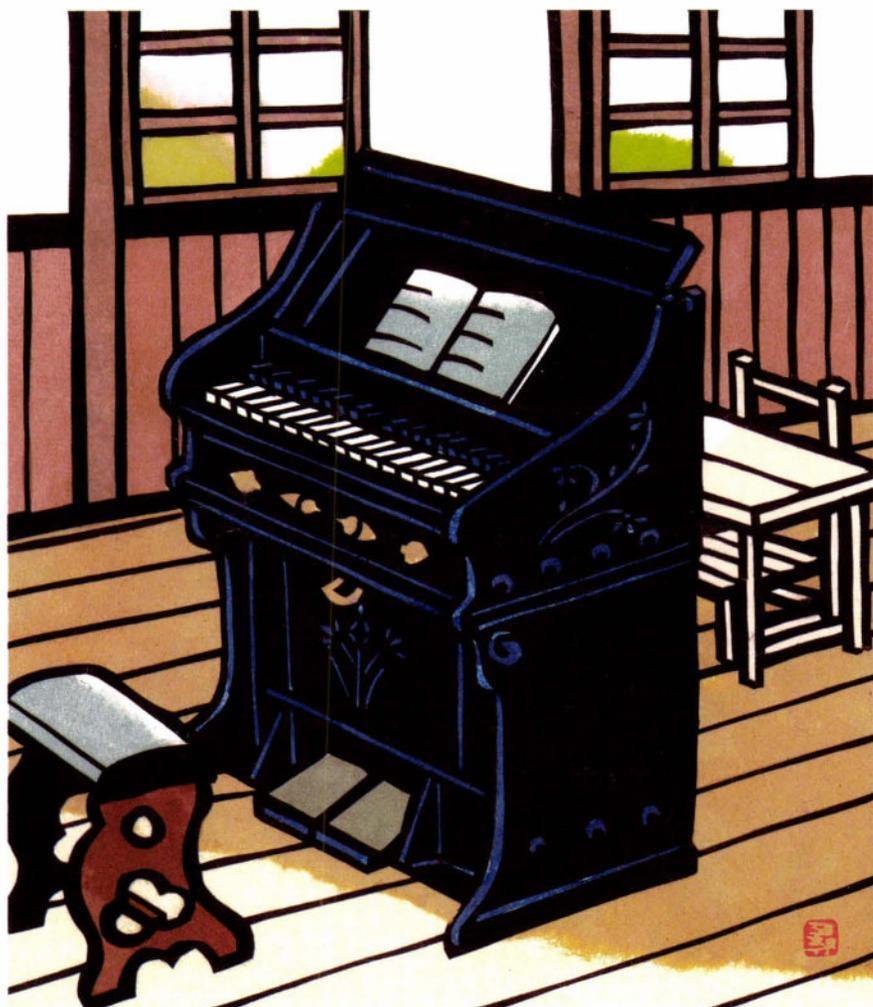


川柳塔

令和三年三月一日発行（毎月一日発行）
創刊大正十三年 通卷一 二六号



日川協加盟

No.1126

三月号

おりひめ☆ひこぼし川柳会

創立記念誌上大会のご案内

結婚 10 周年記念を機に句会を立ち上げることになりました。
北から南まで、多くの川柳人の参加をお待ちしております。

課題と選者（各題 2 句）

☆「親 友」☆ 松田 夕介（静 岡）

☆「手 紙」☆ 青砥たかこ（三 重）

☆「運 命」☆ 大家 風太（岡 山）

☆「思 い 出」☆ 木本 朱夏（和歌山）

☆「かけはし」☆ 新家 完司（鳥 取）

☆「阿 吽」☆ 土田 欣之（大 阪）

☆「感 謝」☆ 小島 蘭幸（広 島）

★★ 祝吟：上記7題と別にご参加の皆様から、
自由参加で1句祝吟を募集しております。

投 句 締 切 令和3年7月7日（水）消印有効

投 句 要 領 今月号に同封された規程の用紙（コピー可）
または、便箋可

参 加 費 1000円（切手不可・小為替等で）

投 句 先 〒573-0095

大阪府枚方市翠香園町
2-7

藤田 武人

TEL：072(395)5453



ギヤラリーR

小島 蘭 幸

川柳塔本社4月句会で、私は「色紙・短冊に書かれた川柳」と題してお話をする予定でしたが、コロナウイルス感染拡大を考慮して急遽誌上句会に変更になりましたので、その一部を紹介致します。

私の家の玄関、廊下には現在28の書、絵、写真を展示しています。この「ギヤラリーR」に今年仲間入りしたのが、ふあうすと同人で書家のみぎわはな氏の絵色紙です。「央ちゃんのつぶやき川柳」の中の5句と美しい絵が添えられています。私は央ちゃんに渡す前にA4用紙に縮小してカラーコピーしました。額に入れて玄関に飾ると他の作品と相俟って実にいいのです。色紙の真ん中に描かれた央ちゃんの着物姿が光り輝いています。

盃の順日本の祝いごと

不二也

昭和43年に竹原で開催された川柳大会に、ふあうすと同人だった故増井不二也氏は出席されておられ

ますので、この時に色紙に書いていただいたと思います。私が二十歳の時でした。この達筆の色紙にはエピソードがありますので紹介させていただきます。

かつて竹原駅には生花のコーナーがあり、生花と共に川柳の色紙を展示させていたのだいておりました。ある日、色紙を交換していると売店のおばちゃんが出て来て、「以前、(○)の順日本の祝いごと」という川柳があつたけど最初の一字がどうしても読めんけん、聞いといて……」とお客さんに頼まれているので教えて欲しいとのことでした。盃(さかずき)です」と答えると、おばちゃんはニッコリと笑って「川柳っていいネ」と言われました。

さて、ここまで書いて残念ですが紙面が尽きましたので続きは、本社句会でお話させていただきます。

2月13日深夜に福島・宮城で震度6強の地震が発生しました。被害に遭われました方々に心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧をお祈り申し上げます

川柳塔社

座右の句

正直は馬鹿を見るより宝物

(哲男)

私の句

病んで寝る妻の頬つべをそつと撫で 大西重男

川柳塔 三月号目次

題字・中島生々庵／表紙きり絵・前田 尋「伊賀市・旧小田尋常小学校」

- 巻頭言 ギャラリーR 小島 蘭幸 ……(1)
- 薫風句と国文学 水野 黒兎 ……(2)
- 川柳塔(同人吟) 小島 蘭幸選 ……(4)
- 川柳塔の川柳讃歌[㊦] 木津川 計 ……(38)
- 西尾葉句集「水鶏笛」 (39)
- 自選集 (40)
- 句集の森 小西 雄々 ……(43)
- 温故知新 (43)
- 水煙抄 川上 大輪選 ……(44)
- 英語 de Senryu[㊦] 吉村 侑久代 ……(62)
- エッセイ 住む地を詠むべし 木津川 計 ……(63)
- 誹風柳多留一三篇研究 7 (64)

薫風句と国文学

水野 黒 兎

青い葉は花よりすがし晶子の忌

「愛染」所載の薫風先生の句である。与謝野晶子は明治11年12月7日、昭和17年5月29日。業桜の頃が忌日である。この句は晶子の歌

清水へ祇園をよぎる桜月夜こよひ逢う人みなうつくしきを念頭においての句と思われる。このように国文学に対する深い知識を元に作句されたと思われる句がかなりある。それを列挙してみる。

惜しみなく愛は奪えと曼珠沙華

「或る女」「カインの末裔」などで著名な作家有島武郎の「惜しみなく愛は奪う」を引用しての句である。

雪見酒かの家持も呼んでやれ

万葉集の代表的歌人である大伴家持にはこの雪の消残る時にいざ行かな山橘の実の照るも見む

という歌があり、雪見の宴で詠んだ歌とも言われている。このように雪見の風習は奈良時代から既にあったようだ。

愛染帖……………新家完司選……………(66)

檸檬抄「呼ぶ」……………石橋芳山・古今堂蕉子共選……………(70)

一路集「机」……………石田隆彦選……………(74)

「アクション」……………藤澤照代選……………(75)

初歩教室「発見」……………高瀬霜石……………(76)

川柳塔鑑賞……………斉尾くにこ……………(78)

水煙抄鑑賞……………川端一步……………(80)

せんりゅう飛行船[㊤]……………新家完司……………(81)

インスピレーション・ナビ 印象吟……………大西泰世……………(82)

一月本社誌上句会……………(84)

各地柳壇(佳句地十選/鈴木いさお・上田ひとみ)……………(93)

三月各地句会案内……………(106)

柳界展望……………(108)

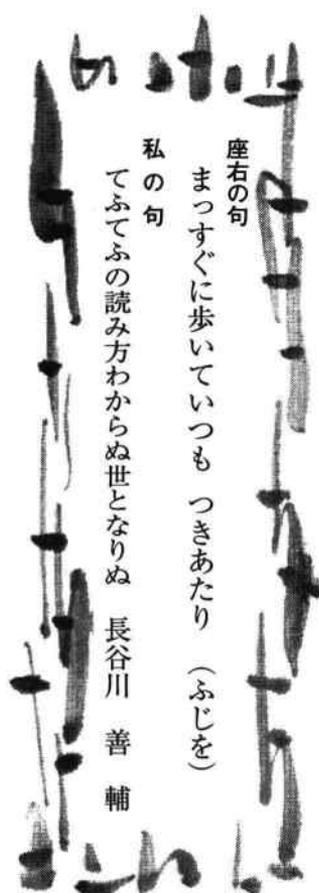
■編集後記(ひとこと/村上玄也)……………朱夏・勝弘……………(110)

座右の句

まつすぐに歩いていつも つきあたり (ふじを)

私の句

てふてふの読みわからぬ世となりぬ 長谷川 善 輔



十郎兵衛屋敷悲しや秋に満ち

人形浄瑠璃傾城秋の鳴門で娘お鶴を誤つて殺してしまふ藩士阿波十郎兵衛を詠んだ句である。この浄瑠璃題材の像が徳島市や大阪市天王寺区の善福寺にある。

柳暗やお染久松蔵の窓

柳暗は柳暗花明のことで柳が茂つて陰がほの暗く感じられ、花が色鮮やかに咲いている春の野の眺めのこと。浄瑠璃や歌舞伎で有名なお染久松の物語の主人公の塚が、大阪府大東市にある通称野崎観音の慈眼寺にある。句の蔵は久松が閉じ込められた蔵のことである。柳暗花明の四文字熟語の柳暗のみを句に入れたのは悲恋を暗示している。

勇の川白秋の川惹無きや

吉井勇の川とは祇園の白川のことであり、白川のほとりに勇の歌碑がある。かにかくに祇園はこひし寝るときも枕の下を水のながるる
この歌を踏まえた川柳である。また白秋の川とは北原白秋の故郷福岡県柳川市の水郷のことであろう。
ほかにこんな句がある。

太宰真似て頬杖をつく斜陽館

胃薬を買う漱石の札の顔

潮騒も晶子曼荼羅智恵子抄
賽の目にわたしもお島千太郎



小島蘭幸選

今一度自分探しの秋灯下

藤井寺市 太田 扶美代

靴だって好きなお人の横がいい

みかんを投げたのは愛してる証拠

ライバルとなる花を一本育てて

忘れてあげる空を見上げて雲を見て

秘密主義胸に溜まってきた涙

大阪市 平井 美智子

友も来ず電話も鳴らず失語症

百均で大人買いするおじいちゃん

規格外ですが優しい味がする

一月をリボン結びにしてあげる

魂の隙間に流し込む寝酒

ゆるゆると進もう冬を説き伏せて

米子市 吉田 陽子

日の丸がしゃんと立ってるお正月

笑い声もれる巣箱のあるお家

名前には随分助けられて来た

喜寿傘 米寿は同じ円のなか

ぐらりぐらりと七十代の姥盛り

どうか力をお貸し下さい 巨木抱く

大阪市 田中 ゆみ子

身の丈の暮らしに開く福寿草

コロナ禍の施設とてつもなく遠い

他人だから優しくなれることもある

本棚に並ぶ夫の夢の跡

A面が終った今日からがわたし

邪魔をして迷惑かけて生きていく

大阪市 谷口 義

運勢はノリと気合いで行けと出た

カイマナヒラ夜市川柳思い出し

何にもしない一日だった天仰ぐ

むつかしいことは考えておりません

味付けをしてからこんにちとはと言う

柿の種安定剤になっている

尼崎市 山田耕治

にっこりとしてくれました
句帳閉ずああ文学にほど遠し
一匹と一人が駅で待っている

球根と春の約束して埋める

ノラと言う名前の猫の無愛想

雪のニユース母の心配ひとつ増え

奈良市 大久保眞澄

寒風に顔を四角にして帰る

神に会えず牛の頭も撫でられず

老人は来るなどお寺の石段

ああこも密年末の墓参り

散らかったままでええねん放つとい

こないだって30年も前やんか

藤井寺市 鴨谷瑠美子

神様がいるとは思えないコロナ

どきどきとさせるひとから年賀状

三ヶ日繭にこもって過ごしたり

新しいこよみに歩幅整える

若水はベットボトルの中にある

追いつ追われつ僕もわたしも回遊魚

倉吉市 牧野芳光

野菜サラダにエスプリをしのばせる

満月になったら皆が見てくれる

想定外の壁を出られぬ哲学者

ピタゴラスの定理で解けぬ愛や恋

美人には飽きた善人にも飽きた

アイスクリーム トロツと落ちて夢終る

鳥取市 岸本宏章

雪子報憎らしいほどよく当たる

不要不急カラオケ行きを自粛する

松葉蟹を高嶺の花にした不漁

国境が海にもあつてややこしい

政権の批判するにも要る覚悟

末吉で終る人生それも良し

笠岡市 藤井智史

通気性抜群でしょう夫婦愛

疲れ癒やしてくれるラズベリーと棲む

大時化を乗り越えていく夫婦愛

焦らされる愛の初日の出が昇る

旅立った鶴呼ぶ夫婦愛

黙々と川柳部屋に籠る鬼

三原市 笹重耕三

帰省するなとんでもない正月

イチミリも狂わず元日が座る

夢を誘いに来る正月のお神酒

久し振りの雪に忘れていたコロナ

鍵穴の向こうで待っている全癒

俺は男だ平均寿命まで遙か

米子市 成田雨奇

三日めに看護師さんの序列知る

粥啜る横で寿司食う女房だ

愛妻と書いてみたいな続柄

酒飲みの気持のわかる主治医だな

今年こそ最後にしたい賀状書く

賀状来る美代ちゃんに孫いたなんて

西予市 黒田茂代

例会に行きたいをコロナが止める

要る人にかけて断捨離少しずつ

律儀にも十日で爪が伸びている

わたくしの居ない祈りは届かない

ステイホーム言うけどわたし忙しい

庭も花もあって巣ごもり感がない

寝屋川市 森 茜

迎陵頻伽かと氷上を舞う折り

きつと勝つコロナに人の和と英知

ふつくらと黒豆祖母にあるキャリア

ほこらしい裸身にマロニエの並木

ハイネ詩集恋に恋したお下げ髪

ほほえみを絶やさぬ君へ乾杯を

三田市 堀 正和

おでこにピツ今日も関所を通り抜け

充電はたっぷり待つはコロナ明け

断捨離もちよっぴり混ぜてどんど焼き

晩酌が待っておりませす一万歩

脳トレの筈が日課になるパズル

年男何かええことあるやろか

箕面市 中山春代

「もう良いかい」十日を過ぎて初詣で

一年の計はもちらん脱コロナ

初句会体温計が背を押す

自転車をやめて世界が狭くなる

故郷の雪をニュースで見ると炬燵

積ん読を均したただけの大掃除

鈴鹿市 小河柳女

心の窓開けてやさしくなつてゆく

人は去りゆく悠然と立つ山だ

地球は回る休みたい休めない

ビルが切り取る青空の淋しさよ

木の葉散る音にも心寄せている

敵味方きれいに混ぜて生きていく

松山市 柳田かおる

雲ゆきがあやしい視線合わせない

七合目グレーゾーンにさしかかる

暖色でわたしの秋を塗れますか

正確に自分を読んで辞めにする

もう声は聞けない儂いなあいのち

豪雪地帯に停電というニュース

岸和田市 岩佐ダン吉

流れには少し遅れてただ元氣
自然にも優しいなんて傲りだね
さり気なく空を見てるが隙がない
多数派の中で居心地悪くなる
御飯粒こぼす母さんじつと見る
雪害のニュースで会った捨てた村

松山市 栗田忠士

二人だけの正月餅だけは搗いた
非常事態シャッター街の夜のしじま
あっけらかんそこがあなたのいいところ
消し忘れ仕舞忘れがまた増えた
光る物つけないままの亡母だった
お日様は嘘をつかないから好きだ

尼崎市 藤井宏造

本物のビールの味を忘れてた
大根があるので今夜おでん鍋
錆びついた右脳を磨く電子辞書
孫となら食べてもいいなオムライス
飛ぶ前に孫よ助走を怠るな
大丈夫未来志向の妻がいる

奈良市 山本昌代

しゃべりたいだあれも来ないお正月
呆気なく話が終るマスク越し
目札に目札返すお元日

優しさに触れて馥郁たる命

泣いていた苦勞が香り立つ八十路
老いてゆく今が好きやと声に出す

今治市 永井松柏

自助共助するささやかな幸がある
好物の辛けんぴには菌が立たぬ
俯瞰的総合的に見てロコモ

フレイルにあらがう古稀の万歩計
ヘッドライト点けてひたすらウォーキング
老いらくの恋を邪魔だてするコロナ

鳥取市 田賀八千代

輝いた頃の帽子は持ったまま
タンポポが語ってくれた放浪記
レトルト食一人になると急に増え
出番ないヒールやっぱり手放せぬ
運命線知ると気になるから見せぬ
三密を避けて淋しい初詣

神戸市 斎藤隆浩

膝痛めテニスが出来ず句に励む
新年もマスク姿の七福神
コンビニのトイレを借りて無駄遣い
黄信号ダツシユ出来ずに老いを知る
健康茶飲むよりもっと歩いたら
カタカナ語コロナの所為で達人に

上尾市 中村伸子

他所の子が手を振る何故か暖かい
久しぶりですねと言われてもマスク
もう遠出しませんけれどいる愛車
忘れ物ないかと聞いてくれる夫
駅ピアノそれぞれにある生きる道

朝霞市 前田洋子

昨日とは変わらないけどお元日
里帰りできず孫子と節囲む
アパートは陽気な家主居る安堵
コロナ禍の箱根駅伝力わく
コロナ禍の店舗企業を思う冬

越谷市 久保田千代

羊羹を供え遺品の処理をする
相槌も仕事のひとつ誤解生む
こわれ行く主人見つめてなお寒し
鉛筆をも一度削り自己主張
肩にまだ少し荷があり老けられぬ

東京都 川本真理子

言い張っているが端からこぼれてる
人としてまだ笑ったり怒ったり
しわ深く刻んで笑うマスクの目
マスク取り地球の空気独り占め
寒の入りまだ人間が好き猫

八王子市 川名洋子

シンプルに鞆一つでひとり行く
コロナ禍に遙拝でする初詣で
コロナ後が見えずプランを立てられぬ
コロナ禍の正月きつと忘れない
おはようと言っても独り冬椿

横浜市 川島良子

マスクから覗く部位には派手メイク
願いごと一つ叶えば吉とする
川柳集創ってくれた息子に感謝
無駄だった いいえ自信に繋がった
片隅のホットな記事に救われる

横浜市 菊地政勝

真夜中のトイレにいつも腹が立つ
大胆な発想が出る無一文
こだわりの舌が銘酒を冷やにする
五分五分の仲裁だから出る不満
病んでみて他人の情けがありがたい

可児市 板山まみ子

来て欲しい来ないで欲しいお正月
屠蘇汲んで昼にはパンが欲しくなり
セリナズナ刻み甲斐ない一人粥
一月はこんなに寒い国でした
新型も超新型もあるコロナ

大山市 金子 美千代

手の届く範囲にしとく大掃除
年末年始熱出さぬよう出さぬよう
ひとりには慣れていくけどお正月
機嫌よく過ごす世のため肌のため
リーダーの熱量を問うコロナ危機

大山市 関本 かつ子

元旦に開いてくれた百合の花
マイナスの言葉が消える三ヶ日
感動をすると脳まで冴えて来る
深入りをしない友ほど長続き
喜寿過ぎてなるほど母と同じ道

愛知県 早川 遡 行

聞けば聞くほど腹が立つ支援金
外食もできずに籠る老いふたり
金配るだけでコロナは防げない
国民を十万円で黙らせる
政治家は無能コロナで右顧左眄

富山市 島 ひかる

一日のはじまり今日も眼鏡拭く
三度の食事考え作るのが仕事
砂糖と塩まちがった事ない不思議
家庭科の先生の顔ふと思う
献立を豊かにさせる日本海

神戸市 上田 和宏

何で忙しいのとみんな不思議がる
コロナ籠りコロナ疲れの年の暮れ
籠り酒若き日々日々走馬灯
寝ておこう明日は息子と戦する
ひとつジョーク足して話題について行く

神戸市 奥澤 洋次郎

年金の暮しになって得た自由
三途の川渡る演歌を唄いつつ
同い年お隣さんへ救急車
反則金のノルマへ今日もキップ切る
風の中あなたの声を待つ蕾

神戸市 敏森 廣光

正月はジイジの財布モノを言う
寒さと自粛外に出るのを止められる
ため息が向き合っている二人酒
我が家でも飲食は午後八時まで
ステイホーム家事の分担増やされる

神戸市 富永 恭子

ゼネレーションギャップ理由にして終える
びつたりの箱はそうそうないのです
派手に転びだいこも柿もわやにする
即完売母の粕漬には負ける
妹のセンスが売れる道の駅

神戸市 能勢利子

百歳は仕事ないかと聞きに来る
好き嫌いはつきりしてる笑ってる
寝る時間増えて食欲変わらな
テレビ好きコロナニュースはメモしてる
記憶力母と競争してる古稀

神戸市 松倉正美

ごちそうを用意したのに孫は来ず
爺婆は御上薦める寝正月
ここまで来たからには百も射程内
百歳で見える景色はどんな色
食べて寝て牛の姿に似てきたり

神戸市 山口光久

表札へ行つてきますと手をふつて
白髪の人間に過去を垣間見る
あの人の人間性が惹きつける
バーゲンでお隣さんと鉢合わせ
襲いかかる孤独を癒すのはお酒

神戸市 山口美穂

帽子めがねマスクで挨拶されたけど
こんなとき借りたい亡母の知恵袋
春を呼ぶように蠟梅香を放つ
蠟梅のやさしさ亡母がそこにいる
亡母編んだ帽子で散歩北風凌ぐ

神戸市 山崎武彦

切り株の新芽が僕の背を押す
おめでとう画面に注ぐ祝い酒
のんびりとするのも葉第三波
これも愛父の鉄拳よく効いた
泣き上戸きつと優しい人なんだ

明石市 梶谷和郎

告白にころろジグザグ揺れてます
丸より歪な人に惹かれてる
平凡に以上も以下もなく暮れる
百歳のしぐさ人っておもしろい
若き日の嫁の写真にちよつと照れ

芦屋市 竹山千賀子

興味津津子等はキリンの首になる
ワンクッション置いて聞いてたらええ話
簡単に命かけるて言わないで
もう少し生きてなさいと風の声
困つたら父の歩いた地図を見る

尼崎市 近兼敦子

あれこれと知らないほうが楽だった
病床もイキイキしてる五七五
笑顔でるそして私も癒される
リモートも姉妹ならばノーマイク
手料理にこだわるくせに無関心

尼崎市 永田紀恵

酒好きの医者は飲酒を咎めない
後の世のコロナ記念にアベマスク
納得す使わなければ溜まる金
割り勘負けした事が無い半世紀
百歳へ今青春の八十路かな

尼崎市 藤岡りこ

朝一番鏡に映る笑顔見る
おはようをごめんねに替え伸直り
仏壇のお鈴いい音恙無し
白髪とシミ品格のある人にする
本もテレビも飽きた夫婦で将棋指す

尼崎市 藤田雪菜

検査値が良ければ急に出る元氣
箱根路をタスキが語る泣き笑い
湯タンポの温みまとして夢枕
里から届く柚子風呂漬かり疲れとぶ
金メダル目差しスタート干支の牛

加西市 山端なつみ

喪中がき十一月に五〇〇枚
餅搗かず迎えた正月ただ静か
おめでとうなしで今年もよろしくね
年末も年始も墓へご挨拶
お寺への年始挨拶散歩兼ね

川西市 山口不動

初めての二人きりでのお正月
年玉をいつ渡すかと老い二人
紅白で時代の変化知る二人
四回転息飲む妻のユズル好き
亡き友はどこで見ている初詣

三田市 足立つな子

コロナ禍の早期終結鐘をつく
美容院いきそびれてのお正月
二の重の春を寿ぐ黒ダイヤ
いろいろあった また日は昇るおめでとう
新年の幕開けダイヤモンド富士

三田市 上田ひとみ

遠くなる灯やくそく守るから
外は雪ごころうさんと送り出す
心配はかけるまいただそれだけを
優しい子優しいままでしんどいね
強くなれ強くなりたい今度こそ

三田市 大西重男

GoToの中止でしほむ老いの胸
年賀状届かぬ友が気掛かりだ
あと何回おせち料理に合えるかな
孫成人振袖姿目が潤む
夜の静寂会話したくも相手なし

三田市 尾崎 一子

初雪で街を清めて晦日そは

コロナの禍こころ目出度く初日の出

どこよりもこの街が好き陽を拜む

マスクして家族揃ったお正月

たくましくみんないい顔いい家族

三田市 九村 義徳

人情がこぼれ出ている路地の裏

ライバルのセンスの良さに負けました

美意識が邪魔しジョークが分らない

脱皮して孫がますます遠くなる

断捨離にもったいないが水をさす

三田市 多田 雅尚

世界のポリス宣う国の民主主義

水張る下でメダカは生きていた

Gゴルフ古希で一番若い僕

大雪に呼んでも来れぬ救助隊

記録とは破るものだと知るコロナ

三田市 谷口 修平

リフォームは出来ぬ夫婦の隙間風

愛でられて命を繋ぐ実を残す

金欠を救ってくれた非常食

手遅れになった虫歯はよく磨く

外国の蛸が驚く三杯酢

三田市 福田 好文

スマホ手に拍手を打つ初詣

断捨離の度にふくれる収納庫

引きこもる術をニートに教え乞う

晩酌も七時までよと諭される

また二本赤線入れたクラス会

三田市 松本 ゆかり

一人用お節ラインで娘にみせる

初戎五十の娘巫女になる

怠慢と孤独手なずけ籠ります

菜園が夫婦の愛を呼び戻し

巴字になって二匹の猫眠る

三田市 村田 博

鶏に罪はないのに皆殺し

公園のドングリ熊に送りたい

自粛下に遊び心が目減りする

カレンダールの引き継ぎ式は済みました

今年こそ良い年だよと二重虹

高砂市 松尾 柳石子

友達もみんなマスクで目が笑う

有りがたくお節いただく三ヶ日

杖頼り歩ける老いに感謝する

食材も豊富ありがたい師走

しようが糖ほっこり寒を癒やされる

宝塚市 丸山孔一

空つ風温い便座にホツとする
脊椎菅狭窄症という悪魔

登山靴断捨離と決めそつと撫で

マスクして身を隠したかの気にもなり

菓籠りが変える市場の目玉品

丹波篠山市 北澤 稠 民

八十路きて回想すればお陰様

野良に生き焼耐旨く日々感謝

作物と会話がでる歳となり

トラクターお疲れ様と飾り付け

生きてきた昭和人情あつかった

丹波篠山市 酒井 健 二

凸凹の筆順君は知ってるか

鈍感をよそおいホンマ鈍になる

擲掬してもやっぱ投票行くつもり

反対に挙手する時は目をつぶる

真つ先に逃げる足腰鍛えとく

丹波篠山市 長谷川 善 輔

コロナ様右往左往の政府対応

年頭の挨拶の如寒波来る

正月やテレビの前で根が生える

成人式なし徴兵検査なしと思えば

講義する先生の前にカメラ一台

西宮市 緒方 美津子

年始めきり絵のべこも祈ります
梅匂うまだまだまだ寒うございます

御鏡も注連縄もない正月に

三密の良さありがたさ思う今

陽を浴びる大根よろし冬景色

西宮市 亀岡 哲子

厄神さんお礼参りはいたします

雪路越え独りおせちも無事届く

口喧嘩したも忘れていた姉妹

チャン付けの電話元カレ九十二

失敗もアハハで済ます歳となり

西宮市 西口 いわゑ

令和二年ひっそりとした師走なり

孫が来る鬼滅の刃見ておこ

コーヒーはブラック思考ゼロの午後

熱燗と今しあわせなタイムです

あの人も七草粥をよるこんだ

西宮市 福島 弘子

手術室へ向う老母の手そつと触れ

ガン告知知らせぬ老母の髪を梳く

ステイホーム胃袋元氣作り置き

顔見れば呼捨て通るクラス会

変異コロナ益益老いとどし込める

西宮市 福田正彦

繩のれん恨めしそうにうなだれる

三歩後歩いてた妻先に出る

人生の風化を恐れ磨く日日

酒友の所為にしてるが御満悦

大寒波コロナウイルス燥いでの

南あわじ 萩原狸月

義理チョコが本命になり今日華燭

花嫁の今日はいれしい泣きぼくろ

分校の寿命を延ばす移住の子

受けるのにまず遠慮するルーティーン

金バツつけてるうちはお殿様

奈良市 宇賀史郎

会幹事諦め続く過去最多

貯金残さびしコロナ禍の果籠り

爺むさい顔で明るい未来説く

酒煙草麻雀の付け手術台

手を焼いた子が悩んでる孫二人

奈良市 加藤江里子

帰省自粛個人差が出る危機管理

三が日猫と私は密になる

節料理力入らぬコロナの禍

逆転した箱根マラソン希望あり

地球儀をくると回し頑張ろう

奈良市 高橋敬子

いつも会う人だから出す年賀状

もう来ない亡友の賀状見る師走

一人お節後はいつものルーティション

手渡しの温みこだわるお年玉

正月間近気になり出して診てもらい

奈良市 辻内げんえい

目覚まし鳴るのを待つて起きる冬

3密を避けてGOTO過疎の里

SNS賀状文化を消していく

帰省せぬ孫にも賀状出しておく

新聞でネットの真偽チェックする

奈良市 米田恭昌

コロナ禍に寒い訓示を聞かされる

コロナ余波家族の絆太くなる

時短営業二軒目ウチで飲む梯子

民主主義地に墮したはトランプ氏

孫が去に元の無口になる二人

生駒市 飛永ふりこ

初日の出丑の粘りが蘇る

会えなくて上乘せしてるお年玉

お雑煮もそろりゆっくり喉撫でる

一筆にらしさ溢れる賀状です

どっかりの丑の構えを学ばねば

香芝市 大内朝子

世界史に残る事変のど真ん中
あれ以来笑い転げた事が無い
コロナ禍へ忍耐力を鍛えてる
また一つ昭和の星が消えました
よく笑うひとだね苦勞したんだね

香芝市 山下純子

10年日記緊張するわ一ページ
パソコンに向かい孫らとおめでとう
よそいきの半音高い電話口
楽しくてたまらんようにはしゃぐ孫
湯たんぽに二つの愛を閉じ込める

奈良県 安福和夫

変異種ありコロナの波はなお高し
芸人の楽屋話で盛るテレビ
イベントに安易に集う無神経
思慮足りぬ自国の民度こそ問われ
旧態依然続き支持率下がるのみ

奈良県 谷川憲

万華鏡知らぬ未来のヒントかも
コロナ禍にしみじみ響く除夜の鐘
初詣お正月避け温い日に
終い方さまざまにあり葬と墓
籠松明火の粉が払うコロナの禍

奈良県 中堀優

迷い坂越えて真っ直ぐ登る道
喜寿からの自分探しの独り旅
牛歩だが日に少しずつ前へ行く
コロナ禍の生贄探ししてないか
過去からのシガラミを捨て明日へ向く

奈良県 長谷川 崇明

不意の客忘れた振りの休肝日
令和三年平和願って買うジャンボ
人だけがいつも時計と勝負する
凍てた土割る球根にみるファイト
初雪に良い年予感松の内

奈良県 渡辺富子

あれやこれ捨ててほっこり日向ぼこ
想い出を語れば恋がしゃしゃり出る
地図のない老いの樹海へ迷い込む
明日を見る眼鏡はどこにありますか
幸せ芝居上手に演じ日向ぼこ

和歌山市 上田紀子

自粛中身辺整理しておこう
深読みをしすぎ私を見失う
嫁かず産まぬ才女が増える少子国
気分転換遊び心で句も跳ねる
ひとひねり水も湯も出るありがたさ

和歌山市 柏原夕胡

太陽になつて輝かそう家族

泣き虫の弟も還暦になる

一度でいい自分の顔を見てみたい

なぞなぞは解けないほうが魅力的

心という字は乱れていてフツ

和歌山市 土屋起世子

インターホン押さず大根置いてある

間隔をあけて二世帯仲が良い

年齢にブレイキかけておしゃれする

買物メモ持つて息子とデートです

言訳は止めた顔色読まれてる

和歌山市 古久保和子

これ以上話せば命瘦せてくる

レンジでチン罪悪感も少しあり

マスクマスク街はマスクに乗っ取られ

ニッポン人ですお箸一膳下さいな

絵手紙のリングは歯形付けてから

和歌山市 松原寿子

捻子を巻き心の余裕噛みしめる

花畑雑草だつて夢がある

買物にリュックサックが手離せぬ

ふるさとは空き家のままで雪に耐え

夢の欠片磨いて心癒される

岩出市 藤原ほのか

是が非でも意味ある年と想いたい

風をよみ立つ位置決めて歩きだす

新年は玉砂利を踏み折りたい

格付けをされて自分を振り返る

成るように成ると覚悟を決めている

海南市 小谷小雪

コロナ禍の次に来るのは福だろ

伊勢エビはないが仲良くお正月

雪国に住む子を案じ手を合わす

近頃は辛抱の字がはやらない

クリスマスツリーをしまい餅を搗く

紀の川市 山東日出男

文化財ごろごろ眠るおらが村

文化の日記取って歩くベレー帽

迎春へ椅子の足にもニューシユーズ

初詣で列もソーシャルディスタンス

あれこれ昨夜は何を食べたっけ

橋本市 石田隆彦

親バカで眠る才能まだ期待

期待には応えてくれぬ子の未来

単語のみ交わして暮す老夫婦

一言の返事に費やした三月

子を前に苦勞話の二つ三つ

京都市 清水英旺

第九聴けばめぐる一年の走馬灯

ベルトの穴に効果あつたかスクワット

独り言いつてる我に愕然と

ウイズコロナというけど敵さん甘くない

東京は何でも一番コロナまで

京都市 藤井文代

涙腺の奥の本音を覗きたい

マスクだらけのテレビ見ながら春を待つ

千支六度日々は牛よりかたつむり

正月の秤は乗らぬことにする

日々の感謝もそつと書いとく連絡簿

長岡京市 山田葉子

色どりに冬の帽子はかかせない

お洒落して出かけた先はクリニック

これ以上病気を探したりしない

やさしい風送ってくれた友が逝く

大声で歌った後は上機嫌

大阪市 磯島福貴子

日溜りにふくら雀が寄合いを

時間たつぷりされど句作り捗らず

会話スムーズ夫がついに補聴器を

句会の予定白紙のまんま時過ぎる

霜浴びた青菜の煮付け亡母偲ぶ

大阪市 井丸昌紀

かちかちのアップルパイは自閉症

嫌なこと部下に言わせて澄ましてる

聞いてないのになぜか理由を言いたがる

日曜日を言い訳にして無精髭

キャベツ刻む音逆らわへん方がええな

大阪市 岩崎公誠

信号で立ち止まって深呼吸

夢を抱く老いの仲間はよく笑い

テレビから新語拾って脳強化

雑魚だって数が揃うと形でき

右上りカーブが示すコロナの禍

大阪市 岩崎玲子

コロナ禍でこころ体も空っぽに

ステイホーム時間たつぷりあり疲れ

老体に日日のマスクはしんどおす

若者は略語ばかりの宇宙人

アナログがこの身に合って生きている

大阪市 内田志津子

当りクジ期限切れして夢おぼろ

雨しとど独りの余生立往生

ランドセル背負う小さな戦士たち

付き添いの廊下冷たい年の暮れ

墓じまい安堵の背と寂しさと

大阪市 宇都 満知子

分散でやって来ました里帰り
空想も瞑想も炬燵の中で
頰杖の目線はコロナ後の闊歩
買い出しはマスクにダウン ボアの靴
夕方のニュースは二人欠かさない

大阪市 江島谷 勝弘

あきらかにGOTO以後の第三波
完全に自粛しました三箇日
ロング缶一本だけの誕生日
早寝早起きが僕のスローライフ
遅刻する夢をまだ見る ああしんど

大阪市 榎本 日の出

元旦だお湯でしっかり顔洗う
下戸なのに三次会までお付合い
寝言では本当のことを喋ってる
青空へ二センチほどを背のびする
最近新幹線に乗ってない

大阪市 榎本 舞夢

老い二人近くの神社初詣
延び延びの挙式も済んでホッとす
のんびりにスイッチ入る締切り日
カルチャーの刺激あつての五七五
句会再開笑顔再会願って

大阪市 大川 桃花

コロナ禍の後にはきつと税の波
不器用に拍車がかかる老いの指
主婦病んでプラゴミ増える台所
病院のお節に胸が熱くなる
通天閣のピリケンさんも虎マスク

大阪市 大治 重信

時雨傘一本だけで恋が成り
汗拭いて忘れしままの冬帽子
鮫鱈は炊けているぞと鍋奉行
生きていて尚めでたい声で雉が鳴く
勉強をそつと覗いて汁粉だす

大阪市 奥村 五月

ワクチンで明るい世界少し見え
初めてや家族揃わぬお正月
老舗でもコロナで客が集まらず
命さえあれば何時かは福も来る
悪友もコロナで少し自粛中

大阪市 小野 雅美

煩惱が増えて鳥にはまだなれぬ
辛くても生きろ生きろと脈が打つ
戦いを終えた眉毛が垂れてゆく
とほけても神がしっかり見届ける
賽銭の見返り今日も待っている

大阪市 笠嶋 惠美

誕生日じつと手を見る足を見る
無理をせぬ首を大事にしたいから
家の中すべて私と生きている
ていねいに生きて笑顔で寿命まで
しみじみと勉強不足身にしみる

大阪市 金川 宣子

究極の百歳目指しスクワット
再診の結果を聞いて安堵する
新春のコーディネートは孫任せ
迷い道百人いれば百通り
四人部屋カーテンピタと閉めたまま

大阪市 川端 一步

梅の木にみくじを結び春を待つ
水仙が黄色い声で春告げる
もう一度聞きたい母の子守り唄
入園入学ひ孫に財布ゆるみがち
趣味一つ持って無聊など知らず

大阪市 古今堂 蕉子

まかせなさい大見得切ったのは昨日
ドンピシャの言葉浮かんだ置こたつ
牧草食む牛七草粥の我
簡単でない道だからまだ歩く
優しさが過ぎて負担にした悔いが

大阪市 近藤 正

虚偽のアベ拒否の스가さん無理無体
コロナ禍に泣きべそをかくえべっさん
ガースーは料亭通い自粛せず
支持率と株価気になる菅総理
核禁止肩身が狭い保有国

大阪市 坂 裕之

忙しい事が普通の日を過ごす
初詣時間ずらして密避けて
行ったこと無い道選び自転車で
白けてる場を盛り上げるのが好きで
枯れ葉舞う歩道にタバコのポイ捨てが

大阪市 高杉 力

帰るまで客来なかった予約席
橋越えてうどんを食べに二百キロ
同人誌まずは自分の句をさがす
もう何も問わずにおこう冬の海
隠れ蓑にさせてはならじコロナ禍を

大阪市 高杉 千歩

スケジュールぎっしり若き日の日記
メールでの約束反古にしてばかり
曇りのち晴今が幸せ車椅子
如月の生まれ鬼が好き豆が好き
この先はすべてお任せ九十五

大阪市 田中廣子

大阪市 平賀国和

太鼓橋無理して渡り腰痛に
リハビリで皆と出会えて元氣出る

山男腰をかがめて歩いてる

春はそこ七草粥で厄払い

トランプの二度弾効はなさけない

大阪市 津村志華子

心機一転ドーンと構えて生きて行こ

生きてたし花の四月は誕生日

今日も無事守られました仏さま

髪染めてチャッカリ齡の鯖読んで

押し車散歩氣取りのスニーカー

大阪市 寺本実

合唱はみな御詠歌のリズムにて

ワクチンの予約私はもう並ぶ

年末に自粛もせずに鬼が来る

初夢はワクチンうった戻り道

終活と言ってワクチン予約する

大阪市 原田すみ子

親切を意識しだすと動けない

定時にご飯当り前とはありがたい

例年どおりごまめ黒豆から作る

ニコニコとホコホコ孫と共に去る

隣の息子春が来たらし彼女来る

外出は控えなさいと子のメール

コロナ禍に年末年始静かなり

初詣で天神様は人まばら

励まし貰う友の賀状は宝物

己が道ゆっくり歩む丑の年

大阪市 宮崎シマ子

人の不幸まねく大雪などいらぬ

友難病見舞も行けず氣がもめる

ホームから出たのは正月から一度だけ

金欄緞子にマスクをつけた成人式

5センチ程もった雪なら愛でてやる

大阪市 山本加お里

のっそりと今年は牛歩マイペース

一日を生涯として日々過ごす

切実に会いたい人はもういない

風呂沸いた機械に全部知らされる

年ごとに歩幅が違う自然体

大阪市 横山里子

よう噛みや喉詰めなやと食む雑煮

母校の名消えて少子化現実

小池さんほどではないがマスク持つ

目に見えぬ敵が相手の去年今年

パーキングいつも空いてるベンツ横

堺市 今井 万紗子

妻の床屋はつさり切れ風邪を引く

茶柱立ったまずは新年お目出とう

新春にメダカの家族増えました

後悔はすまい時間がないのです

打てば響くなんてあなたは調子者

堺市 柿花 和夫

胸襟を開くと空が広くなる

升酒があふれて元氣くれました

九条を補強せねばと戦中派

人間の愚かさ地球音を上げる

百歳まで生きたいようで無いよう

堺市 源田 八千代

マドンナの名に惹かれ買う高いおみかん

大晦日元旦までも一人ぼち

成人して孫達くれるお年玉

どか雪の映像に心痛める

収束すれば日常取り戻せるのに

堺市 齋藤 さくら

美味そうに肉じゃが食べてくれる幸

倒産の心配が無い年金者

長生きの指切りしてるお父さん

孫の顔見ない正月味気無い

コロナ禍の先が見えないのが怖い

堺市 坂上 淳司

ドカ雪にあえぐ過疎地の老いふたり

豪雪の地を驚かす凄雪

家も車もすっぽり覆う雪布団

豪雨禍も雪禍も救う自衛隊

後手後手の施策を嗤う新コロナ

堺市 澤井 敏治

きょうを大事にあさつてを見つめてる

存問へ生きてまつせと賀状出す

積ん読を切り崩す幸ふゆごもり

受け継いだ儀式省略三が日

冬ざれの身にありがたい皮下脂肪

堺市 遠山 唯教

粥を煮る妻の気持にこたえねば

3密にどんと構えた妻の腰

ふるさとが捨てたふたりに温かい

ままならぬ老いの性根がもどかしい

晩年の捨てたふるさと想い出す

堺市 内藤 憲彦

玉砂利の音が清しい初詣

お雑煮を口にふくむと母の顔

安心だ心配性の妻が居る

ウイズコロナ走る方向変えてみる

政府からのジャブ都知事のストレート

堺市 矢倉 五月

年明けてコロナ肥りにモチ肥り
ホコホコの鯛飯しめに娘等帰す
もう爺が居なくて聞かぬ志
寒風の庭の雀へ餌をやる
娘等帰り正月四日の大あくび

池田市 太田省 三

幹事から三年先のクラス会
ほがらかな妻の財布は固結び
マスクせずのんびりあくび日向はこ
渦潮の間近まで来て船に酔う
交番を過ぎた途端に千鳥足

貝塚市 石田ひろ子

自粛して気晴らしに行く病院へ
還暦の嫁と度忘れ笑い合う
家事分担まだまだ老いを遠ざける
テレビからコロナの恐怖身を縛る
鈴の無いちよつと淋しい初詣で

河内長野市 大島ともこ

戦争を語り始めた生き証人
一匹の釣果で海にのめり込む
マイペースの僕にしっかり者の妻
優し過ぎる人に少々疲れ気味
愛犬が結ぶドラマチックな恋

河内長野市 梶原弘光

インプラント優しい声で奨めはる
仏壇のそうじはボクのテリトリ
お答えは差し控えると言うてみた
躓いた石を蹴飛ばし捻挫する
ひとり鍋ステイホームも乙なもの

河内長野市 木見谷孝代

白椿花多くして夫想う
コロナ禍がのんびりさせるお正月
友からの知らせさりと白血病
神様の試練はいつも無作為に
とがめる人居ずつついつい長電話

河内長野市 黒岩靖博

濁り湯に身を沈め聞く除夜の鐘
自粛して駅伝づけの三が日
帰国せぬ息子とライン一時間
不死鳥に肖りたいと歩む丑
孫が脈診る時までと待つ残花

河内長野市 辻村ヒロ

声だけは若いと言われ電話する
話すたび自慢の枝が伸びている
歳月が心のマグマ溶かしてる
コロナ禍で口寂しくて食べすぎる
同世代阿吽の空気感じ合う

河内長野市 中島 一彌
スマホ買い来たる後期へギアチェンジ

七十の手習いスマホとの苦闘
鬱が消え笑顔戻った妻愛し
妻の鬱消えて主夫業の返上
宿題を残しコロナと年を越す

河内長野市 藤塚 克三
令和二年の座右の銘の空しさよ

清澄な讚美歌聞いてコロナ消す
腰低く戦力外の我が定め
陽炎みたいに余生が揺れている
悩むより酒を叫べば青い空

河内長野市 村上 直樹
どしんどしん脳細胞の消える音

ガン細胞見事に消した魔法の手
お宝かもと悩む断捨離プラモデル
次から次へモデルチェンジの特殊詐欺
差別という心の壁が融けるまで

河内長野市 森田 旅人
寒風の中を歩こうもう少し

他人様と会いたくないの そろかしこ
新年の挨拶ごによごによごにと呑む
小雪舞う独り暮らしに籠る幸
合掌の絵手紙も来てお元旦

河内長野市 山岡 富美子
最近は富籤がある初詣

風花は舞っても春に届かない
豪雪にコロナ寒冷地をおも
友たちと和むコーヒー一杯で
パソコンで作る自慢のカレンダー

吹田市 太田 昭
磨く歯はあと少ししかありません

私まだ黄泉のアドレス知りません
寂しくて郵便受けを開けてみる
うしろ姿は嘘をつけないから困る
秒針がのろい私をおいてゆく

高槻市 片山 かずお
北風ビュー今夜は鍋に違いない

単なる風邪と言われ思わず笑みが出る
かわいい笑顔見せられガード甘くなる
霜柱ザクザクザクと冬の音
夫婦だけの暮し黙ってテレビ観る

高槻市 島田 千鶴子
致し方なく代参頼む初詣で

湯豆腐でほっこりしてる寒の入り
春告げる風の歌聞く散歩道
コロナコロナ虚しく時は過ぎていく
愚痴弱音何でも言える姉がいる

高槻市 初代 正彦

年新たスローライフヘギアシフト
飲む食べる伴のマスクも疲れます
優柔な私へ風の猫パンチ
自粛にもルーチン先ずは髭を剃る
巢籠りの暮しいよいよ長丁場

高槻市 富田 保子

還付金ちよっぴりだけど気が暗れる
胸中に未練のボエムひとしづく
シナリオはいろいろあるが祈るのみ
長生きを詫げる涙へ笑顔する
結論は出せないままに年暮れる

高槻市 原 洋志

マスクまで衣更えして冬を越す
消毒と言っては今日も缶チュー杯
しがらみを断つて静かに家族葬
うかつにもまた人混みの中にいて
GOTOの中止に嘆くカニとフグ

高槻市 松岡 篤

友達はすでに終活済んではる
物忘れしない自信は有ったのに
コロナ禍で失業しない年金者
昭和平成令和生まれが一つ屋根
短気さが僕にそっくりうちのボチ

高槻市 安田 忠子

コロナ禍で家族団欒良い事も
満腹にまだ入るのは酒と菓子
冷蔵庫人間の欲に悲鳴あげ
トランプさん名残したくて録画する
壊れ物私の身代りありがとう

豊中市 池田 純子

大小の手がせめぎ合うかるた取り
今はただ前後左右にあるコロナ
主婦業もポイント付けば出るやる気
孫娘亡母の面影持つて笑む
メールにて元気でいよう合言葉

豊中市 上出 修

喜寿夫婦暮らしの音も弱くなる
石頭らしい叩くと音がする
脱コロナオリンピックを待ち望む
高過ぎる血圧を見てまた測る
リズム良しボンと膝打つ自信作

豊中市 きとう こみつ

風呂屋さんの湯気爽やかな冬至の日
心拍数が上がる通天閣が赤
経済かコロナか私にも事情
どこでもドアあれば満足できますか
まだ吠えて頑張っているトランプ氏

豊中市 藤井則彦

ひよっとして病気は神の授け物
浪速人にはバカの壁よりアホの壁
負けん気を育ててくれた向かい風
覇気のない会社に多いイエスマン
昨日とは違う自分を探す日日

豊中市 松尾美智代

ラ・カンパネラゆらゆらと聴くレモンティー
癒されてます友から届く自然の美
一万歩三日続いて膝痛む
日向ぼこしながら句作渉らぬ
春の陽にコロナ終息待つ桜

豊中市 水野黒兎

紅白で歌える歌がもはや無い
新しい年新しい夢を見る
重箱は三ヶ日だけ忙しい
鈴の音に飽いたか神の七日粥
思いつきの雪はいまでは暖かい

富田林市 片岡智恵子

損得にかかると笑顔は別にある
燃えながら落ちる椿だから淋し
お陽さまが今日も笑った園児の絵
易の灯の言葉にまどう女たり
鮮やかな記憶を虹に亡母想う

富田林市 中村 惠

春色にわたし一人を染め上げる
二つ目の角を曲がってゆく風よ
押しピンでわたしの翼留められる
何気なくあの日のわたし語る傘
人間を観察なんて偉そうに

富田林市 山野寿之

百年の森を育てている植樹
リハビリの母と腕組み遊歩道
パースデー命がひとつ実る音
てにをはに基本問われている私
極上の刻食りに図書館へ

寝屋川市 伊達郁夫

鳥の名を知らぬが今朝も来てくれる
譲られた席をあなたと譲り合う
夢だから私諦めなどしない
メール見て私だけでは無い孤独
帰国する息子に少し身構える

寝屋川市 富山ルイ子

母の年百まで生きてみたいもの
もういいよ楽しく生きて日日うれし
お年玉娘夫婦に孫夫婦
お年玉渡しうれしい顔と礼
少しでもしてやれるなら生きる甲斐

寝屋川市 平松 かすみ

春ですよ自分にエール八十路坂
八十路坂どうにもならぬきつい坂

年末年始忙しかつた保険証

熱八度コロナの検査してくれる

加齢黄斑こわこわ注射してもらい

羽曳野市 磯本 洋一

牛井とステーキ食べて夜タンを

雪が来て牛の足跡ハート型

我が家主転た寝軒五合酒

ブランド牛ここ何年も睨むだけ

タンが好きさすが饒舌ひやかされ

羽曳野市 宇都宮 ちづる

人出ない氏神様へ初詣

十人で三密避けた墓参り

失せ物があつて思わぬ大掃除

揚げ物は外食にする老い料理

鏡開き静かに過ぎたお正月

羽曳野市 徳山 みつこ

マスクに手洗い胸張つて歩こう

黄信号今なら渡り切る自信

風呂敷をいつものばせエコぐらし

青春のアルバムカルピス飲みながら

数多のアルバムは我が家の絵物語

羽曳野市 藤原 大子

姉病んで小さい頃の事しきり

思い出して欲しく窓越しでも会いに

変化ない事が何より老い二人

狼少年を彷彿 コロナ禍の出入

丁寧すぎる説明ついていけぬ脳

羽曳野市 三好 専平

わたくしの生涯すべて無頓着

補聴器の電源切つて蜜柑刺く

五右衛門も遠くなりたりもみじの湯

十二色全部使つた子供の絵

なにもかも禅譲ですね菅総理

羽曳野市 吉村 久仁雄

おねだりに笑顔がきくと知った孫

とほけ顔じょうずでボケを悟らせぬ

正解がいくつかあつて前を向け

成り行きで生きてストレス溜まらない

性善説を信じ負け癖なおらない

東大阪市 北村 賢子

ウイズコロナの新年あたたかい日差し

生きている今日が一番新しい

炬燵ごもり三度の食事煩わし

世界を照らす太陽コロナ払拭す

ウイルスなんか負けぬ傘寿のから元氣

東大阪市 佐々木 満 作

七番の吉兆札を引く詣で

巢ごもりで終活かなり捗った

遺産分け揉めごと避けてあみだくじ

見てくれは悪いが極うまの中味

ああ二十歳一粒種の子が巢立つ

東大阪市 西村 哲 夫

仏壇へ春はぼた餅秋おはぎ

父からは憑依されたし自信なし

かたち無き水の如くに仕えます

ほとけさんたまには願い聞きまっせ

没句供養なぜなぜと読みあげる

枚方市 谷 英 也

自炊して好きなものだけ食べて痩せ

ああ忙しサンタの次はお年玉

巢ごもりで寝正月よとああ無策

憂さ晴らしコロナ忍者に無抵抗

八十路過ぎスマホトラブル悲劇です

枚方市 丹後屋 肇

復活祭熱い血潮が枯れていた

お目出たい長寿家族の渋い顔

送迎車へ頭を下げる要支援

カムフラージュのダウンを脱げば御老骨

週一のデイサービスで身が軽い

枚方市 栃尾 奏 子

良心は不在いまならあなたなら

二人きり不自由さえも愛おしい

突きとめた答えは不正解でした

速達で届く真つ赤な証明書

ときめきに襲われそうだ花吹雪

枚方市 藤 田 武 人

ストーブにおでん黒豆亡母の味

根菜は葉付きを選ぶ知恵袋

子が巢立ち豪邸になるウサギ小屋

振り返り輝く足跡を目指す

パワハラと言われぬように愛の鞭

枚方市 藤 村 亜 成

頼れる友がガニ股でやって来る

ウィルスが追い討ちかけている寒波

無人島に住むしか防ぎようないコロナ

腕組んで歩けば雪も温かろう

終着駅の僕の景色は未だみえず

枚方市 山 口 弘 委 智

少し濃き朝のコーヒードレミファソ

空缶に残る寒さを飲みこんで

米を研ぐ指より溶けるわだかまり

隣には風通しよき人がいて

土踏まず記憶鮮明冬の浜

藤井寺市 鈴木 いさお

リモートの句会をやるうではないか
三密の句会を今年こそきつと
やり直し出来ればもつと上手くやる

お辞儀が長いね聡太も羽生さんも
活字では僕の思いが伝わらぬ

藤井寺市 高田 美代子

たのしみは此の黒い土彫らむ日
何時迄のマスクよ春はゆるりりと
過ぎ去った時間の中にコロナ居る

例えばの話も聞いて置くことだ
令和より平和とつけてほしかった

藤井寺市 吉田 喜代子

御節買いわくわく感のない令和
万博のお誘いのある年賀状
暇なのに何故だか家事がおつくうで

ご近所の子供の声もなく静か
コロナ禍も過ぎれば歴史の一頁

箕面市 大浦 初音

軽いので誘われ深くなった趣味
コロナの波除けつつ進む昨日今日
匂いするまははははははははははは

大きな耳小さな口にやさしい目
真夜中にメモした文字は意味不明

箕面市 酒井 紀華

忘却と言う幸せもある認知症
ありがたい年金が餓死にはしない
持ち前の明るさきつと福を呼ぶ

何とかなる何とかなるに励まされ
風をよみ風を信じて孤立する

箕面市 出口 セツ子

何もできず自粛疲れの去年今年
お節も掃除も手抜きしてあける
惚け防止程度の仕事だけはする

元気ですか一筆添えてある温み
巣ごもりでゆったり過ぎてゆく時間

箕面市 広島 巴子

丑年に八重山牛車もう一度
年賀状個性豊かに愛あふれ
省エネに夫婦相和し暖をとる

新年もコロナ拡大ああ自粛
大掃除論吉顔出し念入りに

八尾市 寺川 はじむ

ホットな記事を見つけた朝のティールーム
ロボットが代理で済まぬ職奪う
咄嗟に好きと言われて返事見つかからぬ

松かさ拾い昔話に花咲かす
やっとかさ見つけた無口散髪屋

八尾市 村上 ミツ子

ペランダの蛇口に珍しく氷柱

七草を芹から言うとすらすら言える

巢ごもりのふたりコロナあろうとなかろうと

ささやかなことにおどろけるしあわせ

調子にはのるな波には乗れと言う

松江市 石橋 芳山

モザイクで生まれた風が狂いだす

青空がまぶしいすべて時効です

暗闇に浮んだ音を抱いている

コンピニにボンボン船が流れつく

コーンフレーク俺はやっぱり気が弱い

松江市 藤井 寿代

はずしてもキミを覚えているピアス

水平線遥かはるかな人想う

手を繋ぐ人もいなくて冬の貨車

かけがえない人だからケンカする

日溜りをくれた孫からお年玉

松江市 松本 知恵子

乾電池換えて正月ラジオ聞く

雪止んで少し翼が伸びて来る

豪雪が残していった母入院

母にまた会える日も来る面会日

これからが母の頑張り会う日待つ

出雲市 伊藤 玲峰

コロナ居坐り令和三年明ける

お正月明るいニュース拾い読む

成人式も感染防止でひっそりと

晴着にもみんなマスクで笑顔なし

経済の冷え込み生きる難しさ

出雲市 岸 桂子

何故情死分別哀し五十三

何故情死何も語らぬガムテープ

何故情死本望なるや手を合わす

逝った友追って渚の風に立つ

過ぎた日の友還らない海は風

雲南市 菅田 かつ子

同人の昼寝見守る紙とペン

雪の中雀しゃべりに来てくれる

若そうと言うからお洒落して出かけ

あの頃の話が好き炬燵守

亡き夫に似た面影へ振り返り

高根県 伊藤 寿美

歳月が洗ってくれた姑の影

命とや神はいずくぞトリアージ

フクシマで尚洗い続けている汚染

わたくしを焼けば何が残るだろ

三元号生きた老後のモノローグ

岡山市 大石 洋子

ドミノ倒しコロナウイルス好き勝手
入り口でみんな揉み手がうまくなる
カウントダウンまだ始まらずパンデミック
木枯らしのなかのポストのように待つ
お早うぐらい言わねば一日無口

岡山市 工藤 千代子

穏やかにそれだけ願う初詣
ご近所の氏神様へご挨拶
新聞紙ななめ読みして世を騒る
喪服脱ぎ小さな義理をたたむ午後
餅の数また減る夫と旅プラン

岡山市 丹下 凱夫

挨拶がとてもし上手なジョウビタキ
ふるさとの山川ばかり夢に見る
柚子風呂のユズと遊んで幸せかい
神様とつながる鈴を振っている
大丈夫雑煮五つを平らげる

岡山市 前田 恵美子

炬燵の中で冬眠をする熊になる
コロナ禍の世でも変わらずよく食べる
令和二年未消化のまま暮れてゆく
コロナ禍のない世だったら何をした
令和三年世界のみんな笑いたい

岡山県 高岡 茂子

駅伝にドツブリつかる三ヶ日
大相撲テレビ機敷で手をたたく
トリセツを読めなくなつて老い自覚
やさしさが画布にひろがる友の筆
友の絵にカサコソ落葉ふみ入る

岡山県 田中 恵

コロナにも風にも負けぬスクワット
裏ごしにすればあなたの味になる
節くれた指が得意に松を摘む
あるものでまかなう豆腐ハンバーグ
凍えた手にかすかに残る母の息

岡山県 藤澤 照代

ジャンプしてみよう今年は年女
おめでとう何より元氣祝い合う
令和三年うまい雑煮の匂う春
子の気持ちもらいほっこりお正月
カレーライス食べたくなると松がとれ

広島市 岸本 清

血税で富裕層だけGOTOへ
肘タツチのポーズに腕を組んできた
教育に悪い政府の為体
雪見酒こたつで第九聴きながら
サイレントナイトコロナ禍のクリスマス

竹原市 石原 淑子

さあ明日のヒント探しへ本の森
出来ること一人一人が渦の中
身の上のよく似た人にめぐりあう
温い心で厳冬コロナをのりきる
百一歳母とも慕う人逝かれ

竹原市 岩本 笑子

花を待つ心へ雪も降りしきる
美しく傘は咲いたが雪も降り
もう誰も助けてくれぬ進む道
葉だけはもらいコロナを避けている
餅二つ朝は味噌汁でよしとする

三原市 鴨田 昭紀

小心を笑う遙かな地平線
喜怒哀楽が行く人生の交差点
愛憎の糸を紡いでする介護
間髪を入れず妻から来る小言
納得がいくまで疑問符を煮込む

岩国市 上村 夢香

直筆で流れる文字は先生の
受験勉強強い味方は深夜便
曲がり角曲がれば背なは伸びている
リュック背に凍結の坂ゆるめると
この頃は仮面をつける目元だけ

宇部市 平田 実男

年賀状だけの絆もオツなもの
還暦は皆過ぎてる青年部
チャンスよりピンチで分かるお人柄
背は丸くなったが米寿まだ頑固
淋しさは杖の姿が板につく

防府市 坂本 加代

コロナ禍に安らいでいるこもりびと
説明を聞いて分からぬ難解句
哀愁の漂う顔に魅せられる
ふるさとの記憶ただよう明けの夢
その意地に感謝を足せば胸動く

鳥取市 池澤 大鯨

親が子に語るささやかな自分史
金額を決めて選んだプレゼント
差し入れて急場をすくい神つてる
雁首を並べて無能しまつに負えぬ
纒ちうまをしつかり結び流されぬ

鳥取市 奥田 由美

力作が豊穣祈る注連飾り
週二日の通院を書くカレンダー
大量の毛糸と遊ぶ冬ごもり
「どなた様」と夫に言いたい四月バカ
家族皆逝きても元氣水中花

鳥取市 加藤 茶人

かけ声のヨイシヨで立ってまたよいしょ

やれ検査済んだ済んだの寿司に肉

さて薬飲んだかメモが見当らず

東京の顔で受けてるインタビュ

ああ明日は休みか風呂はまあ良いや

鳥取市 岸 本孝子

餅とおせち自肅で頼もふつくらと

令和三年月日の流れ早すぎる

内輪だけのおせちどうにか整えた

赤い糸しつかり結びダイヤ婚

呆けたふりすると相棒うろたえる

鳥取市 倉 益一瑤

介護して愛の真結び固くなる

裏庭にわたしの涙埋めてある

曖昧なわたしに霧が深くなる

いらだつとききれいな花は咲きません

レールから外れてみるもおもしろい

鳥取市 田 中天翔

幼日の母屋の牛はいばっていた

日本一住みたい街に住む至福

困ったらスマホをググルいい時代

電動車幅を利かせる世が見たい

絵画展出しに歌友ランチ会

鳥取市 棚田 大

俺マスク友と出会うも知らん顔

サンタさん大雪に遭い困り果て

雪よ降れいや降るなよと勝手よな

あきらめぬそう言う奴の弱い声

喚く子もコロナニュースに震えだす

鳥取市 谷口 回春子

校庭にフォークダンスの影想う

気がつけば高齢五指の仲間入り

七輪の上でツイスト干し鰯

晩酌は孫と息子と婆と爺

会話遮るゴホンと一つ隣部屋

鳥取市 永原 昌鼓

豆大福疲れた心埋めてくれ

手放して自転車こいだその昔

騙されて来たと笑顔の嫁が言う

旨い物食べてお金を稼ぐ人

コロナ禍の箱根駅伝頼もしい

鳥取市 中村 金祥

過去最多いつまで続く闇の中

ふらつくと叱ってくれる我が愛車

濃厚な試練ウイルスから貰う

ジョーカーになったつもりかトランプ氏

脇役を固めヒーロー光り出す

鳥取市 副井 ゆたか

第三波孫に会うにも要る覚悟
突然の旅はスマホに助け乞う
巢籠りで減った交際交通費
沈黙し妻の叱責掻い潜る
里帰り気にする子らのいじらしさ

鳥取市 前田 楓花

モヤモヤを晴らす言葉が見つからず
弟は百均に行き暇つぶし
百均はすぐ買いやすく捨てやすい
自粛続きもやる気モードは絶やささない
コロナコロナどこに向かうか日本は

鳥取市 山下 凱柳

アウトラインばかりで中身ない政治
コロナ禍で平和の意味を噛みしめる
コロナ蔓延慶事できない世を嘆く
嘘に泣きコロナでも泣くのか桜
外出自粛初詣止め寝正月

鳥取市 吉田 孔美子

三十年待ってた小豆発芽する
やつと二枚葉啄みはさせないぞ
二十年振りミシンうれしそうだよ
つまびらかに成れば折っている両手
猫の目は六つ思いはひとつだね

鳥取市 吉田 弘子

八十路まだ古い殻脱ぐ輪の中で
慰めの様に聴いてる深夜便
病床の吉報クスリより効いた
蛍光灯より鈍い脳もてあます
足して2で割れば程よい娘がふたり

倉吉市 猪川 由美子

当たり前が当たり前でない世になり
国会答弁逃げや言い訳ウンザリだ
先見えぬ世精一杯今日を生きる
驚異の百歳元気で仕事寂聴尼
政治とカネ次から次とコト起こす

倉吉市 岡崎 美知江

おみやげは仏の好きな酒を買う
最終の旅の衣裳は決めてある
だんだんと牛の歩みになる歩幅
優しさに包まれ残り火が燃える
しみじみと過去にひたつて日が暮れた

倉吉市 田中 紀美恵

手を合わせ祈ってた母の灯が消えた
祈ってもかなわぬ恋だあきらめよ
川柳のごちゃませ講座好きでした
何もかもあんな任せと夫逃げる
商売がコロナ禍がきてどん底に

米子市 池田美穂

人間の特権だろうその笑顔
コロナ禍で大親友になるテレビ
お賽銭家族代表してチャリン
変身願望が強すぎるコロナ
いつまでも闘牛でいる覚悟です

米子市 伊塚美枝子

新雪に一步踏み出す心地良さ
雪かきをしながら聞いた除夜の鐘
凍てた朝ペンギン歩き子らの列
雪晴れ間見えた大山誇らしげ
太陽のぬくもりを知る冬の午後

米子市 後藤宏之

雨の日は雨の日らしい一人言
カタログを眺めておせち食べた気に
聞いているふりして今は小休止
なにもかも中止騒ぐ血を宥める
年金日翌日に孫やつて来る

米子市 後藤美恵子

八回目よくぞ歩いた年女
早とちり牛の咀嚼を範とする
同居ルールほどよい距離に波立たず
イヤリングの行方こたつに問うてみる
働き方地方を拓くチャンスかも

米子市 竹村紀の治

アルバムが邪魔して困る大掃除
独りっぺいいなと思うメロン切る
ゴールドを守って返す免許証
丑年の独り雑煮と年酒酌む
雪続く雪止む日まで鍋続く

米子市 中原章子

これまでの暮らし出来ぬと腹くくる
心身を磨いてみよう光るかも
笑ってるうちは疲れを感じない
訃報欄大切な友家族葬
一日を引くより足してゆく余命

米子市 野川宣子

うし年の娘も孫もマイペース
年始からがんじがらめの丑の年
切れ切れの頭にもやがかり出す
相棒を元氣にしたいほめ言葉
近づいてわかる温もり加齢臭

鳥取県 門村幸子

多数決ほんにこの世はままならぬ
産地擬装うなぎはやはり日本製
胸キュンの言葉貰って誕生日
わたくしがわたし鼓舞する十二月
嬉しいのスイッチ入り馬力出る

鳥取県 斉尾くにこ

初詣で明るい未来たのみます
朝の日の差し込むまでのとろみどき
マスクして見えない敵と戦って
白菜は虫のファミリーレストラン
会って話して触れ合い人は人が好き

鳥取県 細田裕花

ほかほかの部屋で読書の冬籠り
寒波予報食料だけは買っておく
怖いのは寒波が連れて来る白魔
明日への視野にコロナの影がある
少しずつ望み小さくして歩む

鳥取県 山下節子

鍋一つ茶碗二つのすべり出し
超人気鬼滅の刃見る八十路
はずしてホッ帰宅しマスク洗います
歌舞伎役者化粧いちばん濃厚だ
おろそかに出来ぬ先祖の遺品です

土佐清水市 辻内次根

冷え冷えと令和三年朝の顔
七回目の丑年眩しい初日の出
水仙が光る空気の中に咲く
珈琲の一杯啜る遅い朝
寝て起きて何か足りないものがある

東かがわ市 川崎ひかり

癖文字が直せないまま黄昏れる
出直しのチャンスの風に乗る翼
見直して無理を削除の予定表
会いたいと言えば仏間の灯がゆれる
上下無視前だけ向いて生きてゆく

松山市 宮尾みのり

誰も来ぬ法事済ませてデリパリ
よく見ればミニ盆栽にひそと春
何はともあれ生きていますと年賀状
外野席だから気楽に物が言え
箱根駅伝敗者に心寄せている

西予市 西田美恵子

この種が花咲く頃に会いたいね
心の隅に種火のような母が居る
本を読む心が乾かない様に
こんべい糖の角が泣いている妹よ
箸二膳老いの二人の朝が来る

北九州市 小松紀子

トンネルを抜ければ希望みえてくる
会話が笑顔になります仔犬飼う
思いこみ確かにここに置いたはず
外は雪ベッドにもぐり句を作る
口角をあげて寝るくせつけました

熊本市 杉野羅天

寒波到来晴れ間の青の高いこと

ハイビスカス真冬に咲かず莫迦らしさ

紅シクラメン一本寒に立つ不動

月天心白い涙を落とすべし

どう生きるコロナコロナという現

熊本県 岩切康子

お元日菓子箱貰う佳い年だ

アマビエをコロナが教えてくれました

声高に注意しされて夫婦仲

墓参り曾祖母の苦勞思いつつ

兄ちゃんよあなたの歳を越しました

唐津市 坂本蜂朗

自己主張ばかりしている遠い耳

遠い耳聞えていても知らぬ振り

妻倒れ子は日本の裏の国

妻入院兄弟あの世子は異国

楽あれば苦もある老いが面白い

唐津市 山口高明

アマゾンの奥まで布教宣教師

文豪の自決を知りし史料館

決断のむすめに敵う父は居ず

知恵比べ詐欺師一枚上をいく

真つ先に鯨きも掬う鍋奉行

札幌市 小沢淳

父の顔夫の顔で妻介護

市場でのバナナは旬を選ばない

コロナ禍に大学院が吹き溜り

政治家の話の裏を読みたがる

ゴミ置場だけが町内繁いでる

弘前市 稲見則彦

夏靴の恨み話が続く夜

馬鹿塗りと言われ自慢の津軽塗

財布から訳のわからぬメモが出る

アナタつて錆びた鋏と褒められる

のんちゃんが乗ってるような雲に会う

弘前市 今愁女

目と目だけの挨拶で済むスーパード

地球闊歩のコロナと対峙負けられぬ

冬晴れ間お岩木山の雪化粧

鳥居の上から鬼が出迎え鬼神社

春は桜 夏はネプタの弘前で

塩竈市 木田比呂朗

キャッシュレスなれどやつぱり熨斗袋

だとしても出番の多い吟醸酒

春なのに腰の湿布が離れない

削除だけスマホの操作上手くなり

国難も野党変わらず吠えるだけ

男鹿市 伊藤 のぶよし

ディスタンス保って守る老いの仲
失敗は葉じつくりと反芻
一喝で治らぬものに物忘れ
程々がいいな苦痛も幸せも
不漁には勝てぬサンマも鱈も

(前月分) 岩国市 上村 夢 香

孫誕生笑顔こぼれる友の声
真顔の師一言一句鬼気迫る
問題集も弾き語り聴く午前四時
ちびちびと飲んでコロナはどこへやら
当たり前と思う日常ありがたい

やまと番傘川柳社
創立70年記念 誌上川柳大会

宿題 (共選)

「作る」	}	古川 洋子	選選
「赤い」		笹倉 良一	選選
「音」		藤本 鈴	選選
「支える」		大楠 紀子	選選
		片岡 加代	選選
		徳小 政	選選
		森中 幸子	選選
		恵美子	

賞 各題秀句に秀句賞
投句料 1000円 発表誌呈
(切手はご遠慮ください)
投句用紙 所定用紙(コピー可)
締切 令和3年3月31日
発表 「川柳やまと」5月号
投句先 〒634-0831
権原市曾我町729-18
西澤知子 宛

問合せ先 阪本きりり
電話 090-1479-6025
主催 やまと番傘川柳社



(つづき)

出雲市 黒目 ひでお

次世代に明るい未来渡したい
オリジナル自分の色を出したくて
ウイズコロナ首脳も迷う舵取りに
世直しも花咲かすまで修業です

(前々月分) 仙台市 月波 与生

朝の青窓全開にしたくなり
マスクから我慢も漏れて息白く
雇用延長から箱の多い部屋
さみしさの隣に人偏を付ける

(前月分) 吹田市 岩口 のぞみ

会えないとなると余計に思慕がわく
どんな世も正月は来る明日もある
帰宅したダンナにお疲れ缶ビール
手むける果物ばかり買っている

お知らせ

4月7日(水)に予定の本社句会は
中止、誌上句会として開催します。
詳細は108頁ご参照ください。

川柳塔の

川柳讃歌

189

上方芸能評論家 木津川 計

一円安いいうてえらいならんでるやん

三好 専平

拙宅の真裏、壁一枚隔てて食品スーパーBができた。同様のスーパーAが道一つ向こうにある。仁義も何もあつたものでない。殴り込みをかけた後発のBには馴染みがないから買い慣れたAへ大方は足を運んだ。だがBは安いのだ。じわじわーっとBへ客は向かい始めた。ことに週一度の10%引きはえらい評判となつて大勢が詰めかける。かくて形勢はいまや逆転、終日賑わつている。経済大国が知らんけど、専平さん、庶民は安値に敏感です。

今日生きるほどのお金を持てばよい

門村 幸子

庶民はつましいから幸子さんも質素に暮しておいでなのです。私の「今日生きるほどのお金」は、毎日飲む第三のビール6本で七〇〇円、缶詰のマグロのステーキ二五〇円、これで三日持ちますから一日八〇円、合計七八〇

円なのです。朝は紅茶一杯、昼も紅茶に食パン(四つ切)一切、夜もほとんど食べませんから、まあ一日千円、一か月三万円で生きる安上がりの人間です。幸子さん、人生百年、これからもずーと暮しが守られますように。

じっくりと生きる百まで後四年

宮崎 シマ子

その百までシマ子さんは後四年になられたのです。日中全面戦争の始まつた昭和十二年、国民精神総動員が叫ばれた。やがて「パーマネットはやめましょう」が広がり、着物姿が消え、モンペ一色になった。「鬼畜米英」を殲滅するために「撃ちてしまん」の勇ましいポスターが貼りめぐらされ「勝利の日まで」が敗色のこの国で歌われた。シマ子さんが一番綺麗だつた時代である。だからシマ子さん、おしやれして「じっくり」と生きてください。

和室でも椅子がなければ暮らせない

辻内 げんえい

昭和とともにラジオ放送が始まつた。進展する文化に人びとは驚嘆した。しかし、あの時代、生活様式はまだ和風で文豪でも畳に座つて低い机に向かつた。いまそんな作家はいなかるう。すっかり洋風になつた。私の中学時代、「農業」という時間があつた。実習で郊外に出たとき、先生は肥料の肥だめに右手

の指を一本突つ込み、べろりと舐めて「丁度ええ具合になつとる」にびっくりした。げんえいさん、暮しは和洋折衷です。椅子でお楽に。

カウント九までには立つて見せる意地

岸 桂子

私がテレビで見るのはNHKのニュースと高校野球、マジックとボクシングである。他には見るものがない。高校野球は全力を尽す。マジックは騙しの手口を教える。ボクシングは倒れても立とうとする。この敢闘精神がいい。苦難の人生である。立ち向かわずして乗り越えられるか。どんな方も倒されてカウントを数えられる、そんな目に遭つたことがありだろ。桂子さん、ダウンはされたがカウントは始まつたばかり、負けてたまるか。

お笑いの大阪決めつけるテレビ

原田 すみ子

有名人が次つぎ大阪を決めつけた。菊田一夫が「がめつい」、村田英雄が「モーレッツ」、吉本晴彦が「どケチ」、テレビは「お笑い」と続いた。私はいま、毎週担当するNHKの「ラジオエッセイ」で、山崎豊子が「ど根性」一色に染め上げた大阪像を大修正している。商いの都市大阪は、気配りに気遣いを育て、優しいと人情を広げた。加えて、洒落ことはで笑ひあつた。すみ子さん、大阪は多様です。

西尾葉句集『水鶏笛』くいなぶえ

「ギブアンドテイク」

べんちやらを言い言い判取してしまい
先先月の半取をくるあわてよう
息子はんが来たという判取みせられる
判取をしいしい容態きいてくれ
セールスは譬え話をたんともち
どへんくつな親父やと集金戻つて来
得意先のボンボン抱いて泣かれたり
交渉はギブアンドテイクの肚でいる
操短の工場の上の揚雲雀
商売の方もコレストロールたまり出し
倒産へ悲力な親類ばかりより
開店の算盤一桁あわてたり
ひがんできけば機械の音も借金借金
或時は祈る心で受話器持ち
菜の花の中の工場は閉めてあり
「或る日」
ピンセットやっつつまんだ口になり

飛び乗りの今度は切符さがし出し
経節水晶の型にかかれたり
山部赤人立膝をして歌が出来
タイピスト部屋の隅から打ち出しぬ
踏切まできて鶏引き返し
一筆の富士は漢詩でうめ合わせ
御先祖は選挙が嫌い大嫌い
音痴今日詩吟を習うことにする
仮縫いのお世辞前から後ろから
かしわやの積んだ籠から刻をつけ
カレーライスばかりで今日の画家となり
どっちが生意気だと窓口言い返し
誰にきいても知らん知らんという缺
おまえ使っていたんかという缺
雨洩りの型ピカソともマチスとも
名曲のすんだ拍手へ目をさまし
中風を見送ればという遺産あり
挨拶のものをもらった声となり
家出の娘に叱らん説と叱る説

自選集

小島蘭幸

美少年はわたしで半世紀が経った
いいひとにされてしんどくなってきた
鬢にするかベレーにするか素でいくか
断捨離はしないお宝ばかりです
コロナ明けると妻がとなり立っていた

津守柳伸

健康は宝収束待つコロナ
両替えに長蛇の列を知る師走
睡魔とのいくさ欠かせぬ深夜便
新調は諦めざるを得ぬ米寿
納豆の粘りコロナを制覇する

都倉求芽

筋雲がびっしり正月を閉じ込める
お雑煮を祝うに食前食後薬
経文の音域微妙にありがたい
八十と九十こんなに違うもの
ボール蹴る子に正月の風騒ぐ

西出楓楽

孫嫁ぎ逝った息子の居ない春
一人また一人と欠けるいとこたち
ライン来ず電話も鳴らぬ日が続く
煮こごりといぶりがつこで昼済ます
聞く耳と忘れる脳を持つている

仁部四郎

春弥生十坪の庭で深呼吸
そうですな春の思い出英和辞書
あの人は春の思い出他人様
人事課へ春三月の末の頃
八十路なお春には春の花を待つ

富士慕情

トコトコと生きて傘寿へ辿り着く
仏壇で年を取らない遺影たち
家族写真みんな笑って楽しい日
ご先祖と私のために経あげる
雪しんしん津軽の夜はジャツパ汁

松本文子

傷ついた私を癒す流れ星
カタカナは混ぜて不思議なものにする
庭から仰ぐエリアで天を我がものに
厄払い天に届けと太鼓打つ
釣り上げた魚は皆んな外来種

三浦 強一

テレビで拝す日本各地の初日の出
コロナ禍の年末年始テレビ漬け
コロナ奴が変えた日本のお正月
蟹味噌を食べ脳味噌の補強する
年新たに良く食べ良く寝牛になる

三宅 保州

急わしないチャイム配達だとわかる
拭かないで下さいメッキ剥げるから
ほどほどに高い通天閣が好き
他人から見れば私も他人なり
三代の菌型が付いた火吹き竹

村上 玄也

毎日が天候以外変わりなし
句想する真っ先浮かぶのはコロナ
髭と爪しっかり伸びて背は縮む
立ち止まり聞き入っている駅ピアノ
丑年の躰き既に始まった

森山 盛桜

弧のままに落ちてゆくのは楽だけど
花あらし誰の心を攫うのか
突き当たりですよ櫓が見えてきた
激変の世に驚いた路の藪
幸せはこんなものです衣紋掛け

戻り坂

八木 千代

一心頂礼 杖を頼りに戻り坂
予定は未定四合目まで降りちゃった
蹠いた石も野に咲く花々も
懐かしい道だもと来た道だもの
もう少し休め休めと地藏様

山本 希久子

打つ手まだありそうだ対コロナ
曇りのち晴わたしの持ち時間
白少し混ぜ私のカラー出来上がり
作句に励みたし気持から回り
鎌の月老々介護の背が寒い

板尾 岳人

早朝の散歩の途中四股を踏む
猛妻えへいへいへいと逆らわず
大へんだ離婚するのは止めとこう
素晴らしい歳を重ねて飲むワイン
三月は恋の予感がするのです

居谷 真理子

ポケットの深さは男物コート
黙ったらきつと泣くからご陽気に
咳き込んで白内障がまた進む
年齢を書くたび積んでいく覚悟
アスナロはアスナロのまま倒される

川上大輪

高瀬霜石

可も不可もないからたぶん大丈夫
そのうちに役に立つよと無駄を積む
昨までの長さに何度迷ったか

万一の時に備える体脂肪

寝返りを打って明日を引き寄せる

北野哲男

体温が伝わる句会待ちわびる
生きている証に欠伸しています

脇見して寄り道もする好奇心

孫去んで疲れが残る春財布

下の句は閻魔の前で結びます

木本朱夏

ははの忌の寒月光の冷まじき

巣ごもりの大根一本持て余す

残り時間は金魚と遊ぶためにある

エゾリスに分けてもらった胡桃割る

老人の悲鳴コロナの棒グラフ

新家完司

締め切り日忘れうとうと日向ほこ

雨の日は雨を許してひとやすみ

放置した畑モグラのパラダイス

長い長い階段上りやっど喜寿

海鳴りが届く窓辺で逝くつもり

川柳を嘔じろうアンチ・エイジング
死んだふりしますコロナに出会ったら
ハートにも胃にも優しい茶碗蒸し
病氣・怪我・お迎え みんな順不同
妻ひとり子ひとりでした家族葬

竹治 ちかし

コロナ禍の中でお洒落をするマスク
恐ろしい未来少子高齢化

色気より食い気に弾む齢となる

九条を透かすと見える星条旗

最愛の敵と住んでる一つ屋根

麻生路郎語録

豆秋君の「みの虫のなんぼ匂うても壁だった」という句をよくよく味うて見るがよい。

それこそ川柳の壁は一生かかっても突き破れないかも知れないのだ。

私たちのうちで、誰がその壁を突き破るか、それは判ったものではないが、みんな川柳の壁へ向って匂うているのである。

(「川柳雑誌」NO・374より)



森の句集

『川柳塔誌寿古希記念句集』

小西雄々

名曲を保育器で聞きあくびする
 税務署は弱音を吐かぬ妻が行く
 母の忌を待つてたように花だより
 福を呼ぶ陰の努力を見てくれず
 桃源郷へ来てから特技芽が出ない
 コーヒーとパンでエンジンかける朝
 逆噴射できない妻を見守ろう
 嘘一つ背負う十字架おもすぎる
 葬儀屋の商才習う価値がある
 続編は騒ぐ血のあるうちに書く
 人間が怖いだまして金をとる
 弥陀の声聞きたく窓を開けて待つ
 逢うてきた赤いネクタイから余韻
 冗談へ心電図まで乱される
 茄子漬けの紫 亡母の三回忌

(平成6年7月27日 発行)

温故知新

田中正坊川柳句文集『ペンシル』から

茜雲 (一九八三—一九八六)

明日もまた無事の日つづけ茜雲
 黄昏でなく夕映えの日を希う
 手が四本ほしい男の台所
 カルテ書くペンの動きをじつと見る
 陰膳のように病食置かれてる

妻淑子逝く(五句)

おむつした娘におむつされる妻
 病床で誕生日迎える妻あわれ
 妻重態 日が経ってほしほしくなし
 妻危篤 十日目の朝白みゆく
 ときざむ時計 妻の生命刻む
 旅路から待つ人のなき家路つく
 ペンだこが支えた妻と二人の子
 一人生きる一合の米を研ぐ
 灯を消してから本当の僕になる
 眠れない眠らなければ明日は来ない

水煙抄

西出楓楽選

奈良市 東 定 生

牛だつてその気になれば走り出す

年寄りに雑煮のモチは凶器なり

通販のおせちの味に母をみる

孫来ると声裏返るジジとババ

おばちゃんは「知らんけどな」をよく使う

喜びも中途半端な春が来る

広島市 常 國 喜 好

ほけているくらいが君も楽しそう

うっかりが増えてますます元気です

いい調子楽に百まで生きれそう

過去ばかり美化して今日も日向ほこ

悪知恵を思い付くから大丈夫

不要不急だからどこにも行かれない

府中市 岸 田 武

神さまも頬笑む巫女のスニーカー

信ずべき道を歩めと初みくじ

御先祖に笑われそうな鏡餅

一票に託した人が被告席

決着がつかぬと前へ進めない

五七五の一行だけを初日記

和歌山市 佐 藤 ま き

自粛してコロナで消えた令和二年

日本の四季愛でる季節に家籠り

やっと来るワクチンそれも未だ試薬

出来れば私御免蒙るワクチンは

また異変今度大雪苦しめる

令和三年希望の年である様に

雲南市 永 見 安 子

墓参りうなずくように花揺れて

初まりも終りも同じよちよちと

忘れもの探して今日も日が暮れて

五七年夫婦はやはり他人です

一年をコロナ三字に悩まされ

頬なでる風が昔をつれてくる

和歌山県 三枝 眞智子

一たす一は二とはいかないむつかしき

耳もとで囁く噂蜜の味

父さんの言い訳悲し下手な嘘

真っ白で糊が効いてるボクのシャツ

秀才に育て侘しい核家族

昔なら父の一喝決定打

奈良市 仲西 賛郎

寒いだらうネコにも炬燵買ってやる

病にて飲めぬこの身の寂しさよ

プロ野球日程決まり希望湧く

三密で楽しみ皆消えて行く

お正月お年玉だけ値上げする

豪雪地帯よくもあれだけ降ることよ

豊中市 荒木 郁子

巢籠もりで体膨らみ心萎え

力抜き素直に歳と向かい合う

お互いを添え木のように暮らす日々

ステイホームテレビ三昧しんどいわ

気晴らしは散歩と読書甘いもの

呑気そうに見える娘のテレワーク

倉吉市 大羽 雄大

雪掻きも人柄見せる家の前

雪起し朝一番に開けて見る

赤バイク吹雪く中にも年賀状

牛の背に一步一步と八十路坂

マスクなく大笑いする年となれ

投函をしたら諦めつく投句

大阪市 中村 峰子

ため息にこれはいけないでもしかし

マスクして粹な帽子で出かけよう

負けて勝つつもりだったが負け続き

ぐっすりと夜が明けるまで眠りたい

過去はない昨日にした忘れてる

もう少し生きていたいなケチだから

三田市 幸田 厚子

カレンダー残る一枚謎の月

こっぼりの鈴の音遥か秋まつり

長期ステイ気を張る日々もつい欠伸

おめかしもごねてお手上げ七五三

呼びかけも届かず北の波が消す

鏡越しくすむ自分に笑み返す

和歌山県 北原 昭枝

冬の陽がゆらゆらゆれて水面映え

風雪に耐えて盆梅咲くいのち

台所今も昔もある戦

コトコトと炊いてふっくら鍋の音

冷える夜はコロナ気遣いひとり鍋

母さんの味が恋しい鍋の蓋

阿南市 小畑定弘

この人は優しい嘘のつける人
年明けてボクの余命が一つ減る
捨て石になれと大きな役がくる
寝て食べて川柳ひねり今日暮れる
後期ですあとは情性のベダル踏む

佐賀県 真島久美子

本物だ錆の匂いのする街だ
父さんが文字の掠れの上に立つ
振り出しのもっと後ろにある戦
虹色の雲を信じてみたくなる
簡単に笑ってくれた嗚呼春だ

沖縄県 禰モモト

三密を避け分散の初詣で
頑張れば何時か助ける神もいて
命懸け海の寶石マグロ釣り
医者いわくホルモン不足目眩持ち
雨の日はカラフルに咲く傘の花

黒石市 北山まみどり

行動と意思が一致しないまま
文明の利器がやる気起こしても
溶けるまで待つてください雪女
ようやくの晴れ間に軽くなる帽子
春までのもう一息があと何度

白河市 鈴木たけし

グーグルで偲ぶ家系の絶えた里
赤チンが消えた昭和がまたひとつ
駅伝の決着ついて事始め
新譜面描けないまま年明け
五十枚書いた賀状も今五枚

富士見市 中島通則

お年玉ラインペイでと孫が言う
堂々と寝正月した自粛した
歩きスマホ注意したいが止めておく
お財布に諭吉一枚あるゆとり
もみじ葉が手を振りながら舞い落ちる

東京都 高岡弥生

幸せも自分次第で寄ってくる
交際費使わなかったこの一年
賀状なしSNSでご挨拶
お正月主婦の負担はまだ続く
在宅で知りたくないよ電気代

横浜市 長島亜希子

コロナのお蔭も少しパンダいてくれる
パンダ誕生上野じゃないと騒がない
計測日楽しみになるジム通い
「ぼつんと一軒家」コロナ無縁のユートピア
冬眠ができたら感染止まるだら

岐阜県 喜多村 正儀

ケンカして時々愛を確める
生きている証貯金が減っていく
激流も死んだ後から分かる潮境
乗り越えた後から分かる潮境
知らん振りすれば何でもないものを

名古屋市 山本 三樹夫

不況下に株だけ上がる謎の影
昔総理心に響く声欲しい
さくらの会花はやっぱり黒かった
神様もコロナ不況で給付金
駅伝のタスキを繋ぐ汗涙

大阪市 石田 孝純

肩書が取れてなにやら背が縮む
せつかちは臆病者の着た鎧
のほほんとするみのむしとにらめっこ
正月もステイホームの耳そうじ
ざっくりと言えば幸せだと思ふ

大阪市 阪本 秀子

拘りをご破算にする初日の出
コロナ禍のトンネル経れば何処につく
巣ごもりの憂うつ逃がすシクラメン
早足の駅へとほしいロスタイム
仏前の父母とおせちの三が日

大阪市 柴本 ばつは

賞味期限信じてくれぬおばあちゃん
やっぱり歳昨日一昨日ややこしい
はた迷惑自動装置の孫の家
キヤッシュユレスなんてわたくし信じない
ジツと見ると笑うという文字わらつてる

大阪市 樋口 眞

朝刊で見たと学友から祝意
菊乃井のお節宅配大晦日
注連飾り侘しいことに減り続け
コロナ禍の疎の境内を寂しがる
賀状来ず良からぬ予感消え去らず

大阪市 森 廣子

真つ昼間のたつた一人の初詣
正月過ぎてこんなに美味いお味噌汁
Eテレの面白さ知る家籠り
底は嫌浮く事のみを考える
逼迫の医療を守る自己管理

池田市 上山 堅坊

コロナ自粛へ脚を鍛えるウォーキング
だんだんと狭まる歩幅やばいなあ
パソコンゲーム時々脳を遊ばせる
丸く生き敵を作らず来た米寿
物忘れの数ならボクは金メダル

池田市 倉本一弥

古希の友会話の返事すぐに来ず
二度手間も厭いませんよ惚け予防
階下の人三月ぶりに見安堵する
同い年の喪中はがきは辛すぎる
任しとき言ったが実は自信ない

泉佐野市 樫葉良子

心にも埃が溜まる閉じ籠もり
どうせまた嘘で固める首相でしょ
懐メロで昭和の匂い嗅いでいる
リモートで出来ない仕事あるのです
すぎ焼きで治る程度の喧嘩する

門真市 坂本星雨

クリスマスに浮かれ大手を振るコロナ
煩惱を消せないままに年を越す
初詣家で合掌して終える
自粛して屠蘇がいのちへ染みてくる
コロナ禍の絆をつなぐ長電話

堺市 羽田野洋介

ねらい目が外れ無念な負けゲーム
神頼み返してほしいお賽銭
コロナ禍を特筆大書令和史へ
いそいそとポストへ入れる自信作
なけなしの知恵を絞って策を練る

堺市 古川光雄

三つ聞きこんがらがって皆忘れ
ステイホームしゃべる相手は女房だけ
巣籠りで身嗜みさえ悪くなる
ポリ袋いると言ったら五円出せ
帰宅すぐマスク外して深呼吸

吹田市 岩口のぞみ

叫びたいコロナの馬鹿と大声で
必ずや人の叡知が勝利する
トランプの最後にババが残ってた
目だけ開きマスクの中で大あくび
子供らの未来の笑顔守りたい

高槻市 鳥居宏

開戦の日なり七十九年前
通帳を落としててんやわんやする
これからが思いやられるミス続き
あわてなや間違いしなやもう歳や
妻に倣いアロエ信者になりました

高槻市 三谷白黒

店よりも客に罰則必要だ
消毒で手がポロポロになりました
呑んべえが悪者になったコロナです
戦争と比べりゃコロナまだましだ
ワクチンも軍事大国早くでき

豊中市 齋藤 奈津子

苦を忘れてきた場所まで後戻り
映画の筋わからぬままに初デート

特売日鱈の照り焼き煙る路地

いいとこで割り込んでくるコマーションヤル
ステイホームつい電話するテレシヨップ

寝屋川市 川本 信子

丸一年ほったらかしの化粧品

旅はお預け取り敢えずスクワット

三密が怖い会釈で席譲り

干涸びた心に染みる笑い声

没頭の趣味が駆け込み寺になる

寝屋川市 廣田 和織

仮面取り今の私を確かめる

軽々と生きて時々踏む地雷

聞こえない振りにも慣れて軽い足

七色を揃えられない虹の鬱

GPSつけて本音を埋めておく

東大阪市 秀 爷

お年玉手元にあつて孫は来ぬ

加齢です治りませんでほっとする

新年は四月ですよと受験生

断捨離の決意はどこへ古写真

紅白に次いで五輪も無観客

大阪府 奥野 健一郎

前向きになれば自然に若返る
真つ当な決め方ですか多数決

ルーキーをいじくりまわし駄目にする

記憶力おちて部屋中メモだらけ
真打はしゃれた仕種で羽織脱ぐ

大阪府 高木 道子

ハズレ籤が胸算用を嘲笑う

同じ事聞かれて聞いて惚け試合

小半日を喋り倒してさようなら

年頭にまずゴミの日を書き入れる

マスクして世の半分を擦り抜ける

神戸市 青木 公輔

針の穴通すと見えて来る未来

ささやかな声を担保にしておこう

その先の話は煙消えてから

愛が揺れてる切取線のあの辺り

突っ込みを待ってるポケのタイミンケ

神戸市 青山 ひろし

マジシャンが浮かすは細身美女ばかり

勢力図昔トトロで今鬼滅

大吉のみくじ財布の奥に入れ

七転びして止めましたヨガ修行

娘っ子マスク選びに時間かけ

神戸市 みぎわ はな

尼崎市 清水 久美子

ゆれながらゆれぬころをたしかめる
サザエさんの明るさ学ぶ自肅日々
鬼滅の刃コロナウイルス滅多斬り
自動ドア開けたくはないコロナ奴に
内裏様マスクさせよかさせまいか

神戸市 山根 弘華

いろいろと話題残した年の暮れ
一灯を今日も守ってつつがなし
赤恥をいっばいかいて仲間入り
嫁いびり今は姑がいびられる
百歳を目ざした夫は先いそぎ

神戸市 米田 利恵子

非常時だ窓から拝す初日の出
出来栄も上々ごまめ光らせる
酒一合ほどは薬だ友達だ
富士登山はよそうゴロゴロ道らしい
忍耐の自分を褒めてやる今年

明石市 瀬島 流れ星

リモートで飲み会味気ない会話
痛いところ衝かれてからの低姿勢
遠くから来た甲斐あった初呼名
だんだんと親父の意見無視される
たれば愚痴ると更に逃げる運

コロナ禍に遭って長生き責める姉
絵と俳句辞めた途端に老いた姉
亡母に似て達筆姉の日記帳
姉の自負汚した認知症テスト
困ったら言いやと懐温い姉

伊丹市 延寿庵 野鶴

口出したばかりに役が付いて来る
入れ知恵をされて自分を見失い
ジグザグの道を歩んで今がある
凜と咲きいさぎよく散る寒椿
隠し味ちよこちよこ嘘もまぜてある

伊丹市 岡村 風琴

捨て石を投げて本気を確かめる
絵具箱描きたい夢がひとつある
肝心なところで迷う阿弥陀籤
沈丁花待ってましたと開花する
消しゴムの汚れの中にある秘密

宝塚市 太田 としお

日本を変えた世界を変えたコロナです
ご都合が悪くなったらすぐに呆け
日本の果ての果てまでパチンコ屋
老いました父母の苦勞が今頃に
忘れてはいけないものに義理人情

宝塚市 岸 田 万 彩

ディスタンス会話は全部ベルカント

断捨離の尻を叩いているコロナ

裏技を思いつかないコロナ危機

おじんだと紅葉マークで告知する

頻尿でつい想起する紙パンツ

丹波篠山市 藤 井 美智子

風流な雪も度が過ぎ命がけ

初春へ居座るコロナ嫌な客

賑やかさコロナが止めたお正月

エンジンがかからぬ老いの寒い朝

八十路坂牛歩でゆっくり恙なく

三田市 馬 場 貴美江

正月は外出自粛客もなし

孫からはスマホの便りおめでとう

デジタルはわかる日本語期待する

ワクチンに期待をしたい米寿です

卒寿まで現状維持でリハビリへ

和歌山市 西 川 千 鶴

年神と貧乏神が鉢合せ

初化粧ちよつと濃い目の紅を差す

スイッチが入り止まらぬ妻の乱

腹時計ロレックスより正確だ

真っ白な明日を抱いて床に就く

和歌山市 福 島 一 雄

年賀状出すか出さぬか惑う歳

商いは牛のよだれに教えられ

恵比寿さま牛の背に乗り来て欲しい

仏前と神棚まつり絶やさない

散歩する人人皆がマスクつけ

岩出市 村 中 悦 男

包丁研ぎも年のはじめの心意気

意見を聞かれ老いの血潮も熱くなる

旧カレンター楽しく裏はメモ用紙

新カレンター何時終息と書けるやら

冷え込む不安コロナ寒さが好きという

和歌山県 森 下 よりこ

家と畑と今日の歩いた六千歩

あつというまにコロナ騒ぎの一年に

コロナよそに他府県ナンバー行き来する

コロナ禍で変わる世界を見てやろう

コロナ禍もいつかは過去となるこの世

倉吉市 若 松 由 紀 子

ゆずられた席に腰かけ落ちつかぬ

試食品買う気ないのに食べてみる

追えば逃げ止まれば止まる老いの影

八十年寄り添う皺の手に感謝

着れもせぬ服捨てられぬ戦中派

米子市 川本 美津子

松江市 山根 邦代

スイッチを切り替えながらボケ防止
大山はお色直しの雪化粧

楽をする今日は出前の晩御飯

変わりなく日記帳には天気だけ

長生きを信じて5年日記買う

鳥取県 下田 茂登子

断捨離に嫁入り箆筒焼いている

今少し布団の中にいたい朝

同居して朝寝の出来ぬ八十五

風呂仲間新年逢えて安堵する

生きている証しの年賀出して来た

鳥取県 本庄 汪

選り好み最後はやはり罰当り

譲りたい大黒柱同居せず

払い過ぎお酒に化けた還付金

お祭りのごちそう泳ぐ池の鯉

遊ぶなど言っても効かぬうちのポチ

松江市 中筋 弘 充

拉致被害者の叫び遮る日本海

赤ちゃんに戻りそれから逝った義母

世間体気にすることはない傘寿

お年玉貰えることもある傘寿

要らないことは言わないようにする傘寿

お雑煮が元気をくれて歳もらう
賀状から元気をもらいやる気出る
叔母白寿元気の秘訣聞かなくちゃ
マスクなし大きな声で笑いたい
髪染めりやシワも隠せと言われても

安来市 原 徳利

シロップの滴る話盗み聞き

老々介護笑い袋にある埃

原稿の棒読みくらいできそうだ

汝愛せよ世界にひとつだけの貌

大好きな酒にむせたら嗤われる

広島市 松尾 信彦

校歌より寮歌が心青春譜

たかが酒されどルールも飲まされる

失敗もすぎに忘れて缶ビール

自分を逸れて見つけたマイウエイ

聞きながす大きい耳のイヤリング

尾道市 小畑 宣之

泣き笑いこれまでも又これからも

頑固にはなるまい近い認知症

嫌な話頷くけれど上の空

笑いたくなくても笑う宮仕え

泣き言を言わず笑顔で切り抜ける

瀬戸内市 宮宅 比佐恵

夢積んでつんで私の城たてる

悔いあまた抱いて人間らしく老い

止まり木の飲み屋つぶした新コロナ

黄泉路へは赤い服着てしやれマスク

津山市 高橋 由紀女

やりくりをしながら通る猫車

掛け声を貰いやる気になってくる

新時代期待を寄せる辛丑かのとうし

ウィズコロナ行方は未だ見つからず

美作市 岡本 余光

年新た進化目論む年男

行き摺りの鳥居に向かい手を合わす

衰えた五体気力に頼りきる

コーヒート本で闘う自粛戦

広島市 田桑 恵子

年一度顔思い出す年賀状

元旦はバラエティより春の海

しめ飾りもみ殻散らすスズメたち

雪の山小鳥の声の澄み渡り

尾道市 小川 道子

落ち葉焚きああ古きよき暖かさ

忘れたんじゃない思い出せないだけ

向かい風追い風きようは旋風

船を漕ぐ夢の続きが有るかぎり

竹原市 若年 幸子

若い頃ゆきつ戻りつ語る母

買い物へはてさてメモはどこいった

太い文字行間にある父の愛

案じてた友安心のマスク顔

竹原市 土井 輝恵

検査済孫達が寄り除夜の鐘

高価パン夫の口には合わぬらし

良く伸びて反っているのが白髪です

スマホより思い出すのが早かった

三次市 伊藤 寿子

どう生きれば良いのか不自由な体

手を合わす快食快便快眠も

四ヶ月の闘病ノラ猫待っていた

三日では恩を忘れぬノラと知る

松山市 大内 せつ子

限りなく消してあげると雪は降る

プランコが揺れる微妙な「なぜ」を乗せ

本物のページは海の底にある

追伸の一行だけは信じてる

松山市 郷田 みや

淋しいなあいつもと違うお正月

手水舎に消毒液が置いてある

今日中にする事決めてから起床

揺れる日は約束しないことにする

高知市 三谷 松太郎

沖繩県 宮 すみれ

年賀状辞退便りも二つ三つ

初春やG.O.T.の規制春霞

初春や両立願ひ濁り酒

年明けて上昇指向やめました

福岡県 本田 さくら

雪が降る遠い昔を連れて降る

コロナ禍というのに空のあの青さ

「紅白」を夫は昔なつかしむ

「ダーウィンがきた」こたつで世界旅をする

唐津市 岩崎 實

朝明けて夜戸締りがわが仕事

夜が明けて一歩も出ずに部屋ごもり

古い深め近所の子等の顔知らず

今日もあけ生かさされている有りがたさ

唐津市 前田 廣幸

悪いのは秘書がで徹す桜かな

御破算で願ひましたのでたさよ

政治家の腹に指切る針の山

捨てるのはいつでもというゴミの山

宮崎県 黒木 栄子

ゆつたりのはずの老後に子も同居

夜なべする母の苦勞を見て育つ

丸い背の媼に母を重ねみる

認知でもやさしいままの母が好き

母代わり姉は丑年お世話好き

わたくしをのぞき見してるひまな月

晴れ着とてモダンマスクとマッチング

ときどきはハート美人になれそうだ

黒石市 石澤 はる子

良い人になって塩分抜けてゆく

引き返す道を時々確かめる

血圧のせいかも知れぬ涙もろい

また明日へ軌道修正靴の向き

五所川原市 むらの ひとり

休刊日まるで私の休肝日

マスクして騒ぎを見てる鎌の月

口噤む子供一人に揺れる家

弁当を開けば山が覗き込む

弘前市 高森 一呑

豪雪にため息ばかり雪積もる

雪かきを朝からやって終らない

苦笑い倍倍返しの雪の量

融雪溝水があふれて冠水す

仙台市 月波 与生

ポマードをつけて謝罪へ行くところ

フレックスでいいさ生き急がぬように

丸い鼻何度転んで来たことか

マスク取ったら結婚してくれませうか

階段は外反母趾の鬼門です

ユーモアで家を明るく照らす孫

寒がりの夫の好きな一人鍋

夫酒妻は甘酒こうじ好き

横浜市 巖 田 かず枝

横浜市 加 藤 佳 子

会食を避けてコロナをやり過ごす

第一波なんてかわいいものだった

紅白は居眠り八分終わってた

まだやれる御節料理に安堵する

石川県 堀 本 のりひろ

ドクターが即入院と鬼の声

星が消え窓にちらちら仏みる

みつけるか拾う神です僕の妻

見つけたぞ浮び上がれよ細い糸

静岡県 渡 辺 芳 子

いやになる又さがしものしなくては

オリンピック見せて下さい九十一歳

コロナではぜったい死にたくありません

日本に生まれた私大吉よ

浜松市 中 田 尚

ねえ総理ステークよりも国でしよう

強風を抜けると春がスキップし

自転車で春を求めに野原まで

セーターをぬぐとひよっこりつくしんぼ

政治家は国民想い働いて

知る怖さ知らぬ怖さに皆生きる

なまじつか欲を出すから墓穴掘る

電子レンジ扉の向きを変えてみる

江南市 脇 田 雅 美

豊橋市 小 松 くみ子

雪ダルマもハラハラしてる雪の量

ふとん中くつ下アンカぬつくぬく

ぬくぬくと布団の中で猫となる

菜の花の色と香りに春を見る

豊橋市 西 郷 紀美代

カタカナ語増えて日本語消えていく

食欲が生への兆し物語る

コロナ禍にサンタ来るかと園児たち

代わってはやれぬ仕事に祈るだけ

八幡市 武 田 悦 寛

争奪戦ストープ陣地猫と僕

迷いなく絹の湯豆腐老い2人

僕の乱安く治まる缶ビール

いい歳を通り過ぎたが生きている

京都府 北 野 クニオ

少子化が日本の財布を減らしてる

神社寺分散参拝世の流れ

寒い日はコタツで一人酒を飲む

神仏にすがれる内は大丈夫

大阪市 東 敏 郎

老犬に手綱握られ散歩する
休校日妻の叫びは俺に向く
残された奥歯に滲みるかき氷
冷水を一気飲みして胃が凍る

大阪市 今 村 和 男

稲の穂に雀元気なお正月
開けたのに閉めていかないうちの猫
牛の目にあわてる奴がよく見える
何であれお先にどうぞ老い之道

大阪市 岡 田 恵 子

他人事なら笑ってすます事なのに
眉を描く昨日の私捨てました
目が合つて急に鳴りだす非常ベル
女らしくの「らしく」が逃げた非常口

大阪市 尾 崎 文 子

レジ前で聞かれなくとも現金派
大声でハイカンバイと言いたいな
菅さんの自肅要請ひびかない
安倍さんが「秘書が」と言つてまた逃げる

大阪市 近 藤 風 羅

たんぼの踏みつけられて春を待つ
リモートで母とことほぎ年あける
ステイホーム渡さずすんだお年玉
えいやつと顔を洗うも冬の朝

大阪市 降 幡 弘 美

私より医者代かかるうちの犬
年明けのママのおサイフ大寒波
子の前じゃ弱音は吐けぬ母だもの
体張る芸を笑うに笑えない

大阪市 前 川 善 之

餅搗きも機械で作る味が無い
初詣何処に行くかと迷う日々
コロナ禍で酒を飲むのも気が引ける
年末も年越そばもカップ麺

大阪市 松 田 聡

感染をくいとめるのは自助努力
ウイルスになんとヒト科はか弱いか
一年で地球こんな様子がわり
三ヶ日コロナの噂忘れたい

大阪市 宮 本 千 恵 子

朝のコーヒー香り確認安堵する
食欲落ちて粥と梅干し美味しい日
ブラジャーがなぜか上へと移動する
おせち食べても正月気分今ひとつ

泉 大 津 市 助 川 和 美

食卓に邪魔せず傍にあるみかん
コロナ禍で出かける事もなくテレビ
テレワークする娘はメイクして向かう
亡き母と対話しながら炊くおせち

茨木市 細田 マキコ

ラジオ出演ほんまに私出たんやで

寒波きてまとも渋滞自衛隊

巣ごもりにあきてきたけどいくとこない

初詣マスク姿で居酒屋へ

交野市 山野 双葉

ダイコンの皮もキンピラ母直伝

会えなくて気づいた私母さんっ子

群れとなり水仙海に春招く

寒波来て父のパッチを履いて寝る

河内長野市 穂口 正子

蟠り消えてリズムが戻り出す

コロナ禍で消えた出合いが口惜しい

あと十年持病手懐け遊べたら

有りのまま見せて生きれる歳になり

堺市 楠井 輝子

手作りマスクオンリーワンへ胸はずむ

ムチャできる歳戻りたや戻りたや

コロナコロナいけずせんと退散を

もう少し生きたく我慢ステイホーム

吹田市 西沢 司郎

うわさではコロナがマスクスポンサー

しわしわの札はばあばのお年玉

弁解にあの手この手で直隠し

字余りも詠んで指折り気分換え

豊中市 貝塚 正子

肉球をさわり食らった猫パンチ

木箱入りメロンは多分縁がない

割り勘の不都合がないライン飲み

生前葬終えて早くも七回忌

豊中市 松田 蟻日路

残高と睨めっこする月半ば

リハビリ室口は達者な人ばかり

柔らかい実の奥固い種隠す

胃薬が手ぐすねを引くお正月

寝屋川市 坂本 ミヨノ

白き息漏らす老人私です

落葉踏み掃除嫌やなのそつとにげ

しわの手相顔ながめ見て長命ね

毎日の柿みかん飽きチョコを食べ

羽曳野市 黒木 ひとみ

歳神を迎える作法忘れゆく

厳かに明けゆく日の出年新た

教え子の賀状終いの賀状受く

コロナ故来る人もなく本を読む

八尾市 田邊 浩三

スポーツ界若手ぞくぞく頼もしい

歳時記を台無しにする温暖化

デートには体温計を持参する

新聞もテレビもコロナに乗っ取られ

大阪府 大浦 福子

幸せは待つのではないよ探すもの
おまけを生きる日び大切に楽しんで
タガ外し小さな翼生えてきた
自分史を飾る出会いのあれやこれ

神戸市 石川 克美

健やかな五臓六腑にありがとう
コロナなどもー沢山と牛が鳴き
大夕日みるみる内に沈みます
早起きをしてさしずめ用もなし

神戸市 輿水 弘

友ら逝き次は誰かとボチに問い
狭庭に似合う花見のタネをまく
他愛ない約束果たし満ちる胸
無念の欠けら転がし笑い持ちネタに

神戸市 近藤 勝正

コロナ外ワクチン内と豆をまく
共存しコロナに馴れるのが怖い
出会いより別れの多い歳となる
掛け布団からみ離さぬ冬の朝

神戸市 田本 古鈴

初雪がドカ雪だった年の暮れ
スイーツが押し寄せてくる初夢だ
年の暮れ葉ボタン並ぶ店の先
もう少し生きて世のためな成そう

神戸市 櫻井 崇史

寒い朝懐炉がわりの缶コーヒー
節分のオニもマスクし吠えている
こつこつとポイント集めビール買う
趣味の欄やつと書く事でできました

芦屋市 新阜 義明

終活は日々快活でケセラセラ
古希迎えスタートライン爽快さ
かかとは歩んだ過去がにじみ出る
陰に陽に支えた妻でオレがある

尼崎市 山田 厚江

子育てし親を看取って一人立ち
運転が少しのろまになった夫
コロナ禍で何でこんなに株高に
内緒ですユーチューバーになった事

伊丹市 平井 富夫

冬日前寒さ準備で灯油買う
年賀状年に一度は生きてます
悩み聞き支援へつなくポラントエア
髪染めた中止になったクラス会

三田市 生田 えい子

忘年会嫁のタクトで寄る姉妹
厚化粧しみ皴見せぬ三面鏡
爆睡の父はかわいいブルドッグ
郷里には子供返りの母が居る

三田市 稲角優子

恙なく生きた命の初詣で
父の書架ほのかに香る柿紅葉
ひそやかに光と風と語る椅子
揺れながら春をつかんでいる柳

三田市 木村 マユミ

寒風に老いと向かつて背を正す
わくわくと竜宮帰還待ちこがれ
目と眉にメイクしつかり若作り
初暦夕日茜に照り映える

三田市 住吉 美和子

氏神にコロナ収束まず祈る
予定表早く書きたい各行事
片づかぬ今日も寒さのせいにする
身も凍る年明け早々事件事故

三田市 辻 開子

窓ふきを終わると今日の予定マル
道の駅捜し廻って柿暖簾
何となく以心伝心同居の娘
しんどけりゃ寝とりの言葉軽すぎる

三田市 東内 美智子

幼児でもコロナの言葉みんな知る
コロナ禍で老いた耳にもテレワーク
70代生きて感じるこの若さ
武庫川を渡り詣でる地藏尊

三田市 中山 昭美

初詣神様だけが頼りです
床の間の梅が咲いたと花便り
もう一杯妻に許され飲むお神酒
万が一ボケたらごめんよろしゅうに

三田市 森 玲子

この一年コロナコロナでもう師走
年末年始お札どんどん逃げて行く
孫の顔浮かべて入れるお年玉
夫より話し相手は猫二匹

丹波篠山市 澤 良子

シニアたち横文字いやとそっぽ向く
手加減をしない孫らのパンチ力
子育てにしつかり嬬と親子ハグ
今年もか空白続く手帳かも

西宮市 高瀬 照枝

泣きながらチカラに変えた本映画
さあ歩くまめに続けて股太く
そっと足入れたコタツはねこの寝間
打者入る手前で化ける変化球

西宮市 高橋 千賀子

密避けて年越す前の初詣
バック詰め入れ変えて済む節料理
ホームステイ静かに暮れる三ヶ日
アイボには亡夫の名前つけている

三木市 山口 ヨシエ

がんばろうそつと眩く鎌の月
滑つてはならじとそり雪の朝
厳寒に震えコロナになお怯え
懐かしむ牛が田を鋤く農繁期

奈良市 尾畑 なを江

出来る事スローテンポでこなす日々
だんまりを決めて愚痴言う風呂の中
ワタリガニ専門店でムカゴ飯
水分を日に2ℓとは母の言

生駒市 饗庭 風鈴

稲光り動体視力追いつかず
あと少し星のかげらに戻るまで
子育てもほほやり遂げた自由の身
神の知るいのちの果てを受け容れる

生駒市 児玉 規雄

年明けてコロナと寒波競い合う
深呼吸息止めて乗るエレベーター
言われれば不要不急の多い事
日課です句材を捜す散歩道

奈良県 室田 行久

困ったら左右が頼る自衛隊
ワクチンを嘲るごとく変異株
功労者引き際違え大汚点
強くなり優しくなれと説く鬼滅

和歌山市 倉橋 悦子

上京も帰省も出来ぬ時代とは
半分自由半分多忙丁度いい
春なのにコロナトンネルまた延びる
GOTOの騒ぎ炬燵で見てるだけ

和歌山市 定松 宏枝

来る人もないのに晴着三が日
食べて寝て体は嘘をつきません
サンプルの赤い口紅うふふのふ
緊張の文字も並んだ初日記

和歌山市 鍋嶋 澄子

新年も好奇心首キリンなり
忠臣蔵浪曲きこえ暮れ近し
我が体無視して本を読み耽る
面会もリモート五分せつないね

和歌山市 まつもと もとこ

右に夢左に屑を持つポツケ
針千本飲んで寝そべる涅槃仏
苦しくて儂くて「愛の不時着」
本能でジョーカーばかり引いている

鳥取市 上山 一平

鮮やかに揮毫したたる和紙の味
飲酒事故防止に牛乳で乾杯
急逝の友の賀状が怨めしい
煩惱の白髪が目立つ八十八

鳥取市 大前 安子

御籤吉力を入れて一歩出す

どん底を見ていた瞳慌てない

肩書きがなんだとコロナ透きを突く

コロナ禍へ始末と工夫甦る

鳥取市 山野 すみれ

箸置きが暇持て余す食いつぶり

記憶だけ僅かに残り遠くなる

ワンランク下げて聞こえる嘘ホント

世代別礼儀作法の違い

倉吉市 伊藤 嘉昭

年明けて夢と希望が姿見せ

喜寿なれどまだまだ未熟川柳も

にが笑いするよな川柳まだ遠い

天高くコロナ去りゆく夢を見る

倉吉市 堀 かずこ

しんしんと雪が降る夜はさみしいよ

平穏な日を願うはみんな同じです

訓練で足元踊る一歩から

世の中の平穏来るかコロナ禍で

倉吉市 宮田 風露

脳味噌がエンコしたのか閃かぬ

脳味噌よしっかりせいと喝入れる

寒波来てつるりそろりつるりそろり

田舎まで遠慮せず来る新コロナ

境港市 中井 虎尾

コロナ禍に寒波で寒い怖い日々

あついにコロナ禍世界大戦争

五輪の灯ゆらゆらの影コロナ見ゆ

皺の手を年輪だよと俺は見る

境港市 藤原 久直

コロナ禍で大きな声も出せぬ世に

高齢者ほっと一息年金日

複雑な世の中シンブルに生きる

のびのびと育てた猫が牙をむく

米子市 妹能 令位子

情報がたっぷりあつて溺れてる

水脈をたどればすべて大山さん

雪の下コンビニあつて生きている

百寿までたっぷり時間持っている

鳥取県 飯野 菖子

若い日の泣いた涙は宝物

生きている希望の朝がやって来る

コロナ禍が文化の花を散らします

生物はみんな平和を望んでる

松江市 相見 柳歩

縫うように天使がくれるメッセージ

祝福の心いただく仏から

引退の時期はルールにないけれど

コロナ禍でこころの距離は近づいた

(黒目ひでおさん、月波与生さん、岩口のぞみさんは37頁にあります)

英語 de Senryu ⑪

麻生路郎句集 『猿 人』

英訳 吉村 侑久代 Kim Horne

内閣が変わりや君まで大臣か

*the Cabinet changes
even you,
Minister*

風邪ひいて学者いよ、ジジむさし

*catching cold
scholar becomes
much disheveled*

the Cabinet 内閣 *change* 変わる *even* さえも *Minister* 大臣 *catch cold* 風邪をひく
scholar 学者 *become* ~になる *much* とても *disheveled* むさくるしい

～リバーウィローのため息～世界の詩歌 郡山直^{なおし}の詩歌活動②

一月号に続いて、郡山直先生の詩の原点であり先生の英訳による沖縄諸島の歌を紹介しましょう。私は世界会議や詩の学会で先生とご一緒させていただいた時に、沖縄の歌と踊りを拝見し、誘われて踊ったことがあります。特に1988年にミラノで開催された世界詩人会議では、会議の後にショッピング街でアラブ人の大道音楽家と出会い、先生はそのアラブの音楽に合わせて郷里の奄美の踊りを踊り始めました。「踊りとは宇宙の中で生命の力と喜びを表すことです。」「奄美踊りのステップを基礎にして、どの国のどんな曲でもうまく踊れる。」「奄美島の『ワイド節』聞けば立ち上がり調子合せて踊りたくなる。」と先生は語ります。「行きゆんにや加那節 *Are you going away, Dear*」の紹介をしましょう。

行きゆんにや加那 わきやうと忘れて 行きゆんにや加那
うたちや うたちやが 行きぐるしゃ スラ 行きぐるしゃ
むどてくよ 八月あしびや むどてくよ
しまぬ浜いじ 踊りんしよろ スラ 踊りんしよろ

"Are you going away? Forgetting about me, are you going away?"

"Though I'm all set to depart, I hate to go. Sure I hate to go."

Be sure to come back for the August Festival, be sure to come back.

We'll go to the village beach and dance together. Sure dance together."

住む地を詠むべし

立命館大学名誉教授 木津川 計

杉山平一の詩「私の大阪地理」である。

「その町の真中を流れる河の中州に／一
国最大の新聞社／国立銀行・国立大学／
官立図書館などを詰めこみ／停車場か
ら南北に／桜橋／渡辺橋／肥後橋／江戸
橋／京町橋／信濃橋／新町橋／四つ橋／
とつづき／東西に折れて／炭屋町／豊屋
町／笠屋町／玉屋町／鍛冶屋町／綿屋町
／竹屋町／問屋町／瓦屋町／とつづく／
大塩平八郎が何ものかに向って／その朝、
怒りを発したあたりは／空心町／紅梅町
／と呼ばれ／彼はこと破れ／八軒屋から
舟で逃れたが／私は少年のころ／そのあ
たりで巡航船を降り／マルキのパン屋で
ジャムパンを買い／谷町の坂をのぼって
学校へ通った／友だちの多くは／谷町の
洋服屋の子供であり／その多くは第二次
大戦に出征し／その多くはまだ還ってこ
ない」

あなたの住む地の地理をこのように
綴ってその地を特徴づけ、戦能集団の集
まったエリアを浮き彫りにしたあと、歴
史的人物の怒りを記し、ジャムパンを食
べながら学校へ通った友だちの多くが戦
場へ征き、その多くがまだ還ってこない、
といまも終らざる戦争を静かに告発する、
こんな詩を書くことができるか。

すぐれた文人が住む地への讃歌を詠ん
で後世に残した。岸本水府の句を挙げる。

千日前肩を叩くと連れになり
大阪に住むうれしさの絵看板

大阪はよいところなり橋の雨
道頓堀の雨に別れて以来なり

いずれも大正時代の大阪である。盛り場
千日前の賑わいを彷彿とさせ、芝居町たっ
た道頓堀の絵看板を偲ばせ、八百八橋の風
情を記した。

麻生路郎も大阪を詠んだ。

家出と追手道頓堀で別に飲み
友達をみんなだまして南に居
文楽人形みな寒むそうに寒むそうに
思い出の橋ばかりなり水都祭

水府と路郎の特徴がよく出ている。両者
を分けて私は、水府を文学的川柳、路郎を
川柳の文学と評したことがある。大野風柳
さんが「よく判る」と言ってくれた。

水府は三重県鳥羽、路郎は広島県尾道の
出身だった。共に長く暮した大阪を詠んで
往時を偲ばせてくれた。二人共ふるさとを
詠んではいたろう。同様にいま住む地を詠
まねば作家のレーゾン・デールドルがわか
らない。

私は「川柳塔」の同人句評を担当してい
るが、ほとんど住む地が詠まれない。言う
ならば、無国籍人ばかりが大阪の「川柳塔」
を支えているのである。

水府や路郎のような川柳家がなぜ後統
しないのか。ふるさとを石をもて追わるる
如く後にした啄木だったが、浜民村を謳い
続け、名もない村を文学史に残した。

現在の大阪を後世に残す。大仕事だ。そ
んな志の川柳家を私は待ち続けている。

〔川柳叢群 56号〕より転載

誹風柳多留一二三篇研究 7

高野 範雄・山田 昭夫
小栗 清吾・細井 龍夫
伊吹 和男
清 博美

51 本能寺寤耳へ土岐の音がする

高野 明智光秀本能寺の謀反。光秀は美濃土岐氏の分かれてである。関の声に掛けてある。万句合の前句「どこもかしこも」は光秀の軍が潮のごとく押し寄せた様。

得がたきハときと本能寺へしかけ

安七義5

土岐のかね寐耳へひく本能寺

六四18

小栗 賛。「寝耳に水」ならぬ「関の声」と。

伊吹 賛。小栗氏の補説必要だと思えます。

清 同。

52 から車引いてむすめを追ッかける

高野 荷車引きの若者は、女性を見るとにわ

かに息み出し卑猥な言葉を発し、女性が逃げて追いかけてくる。

から車面白かつておつかける

明七板3

車ひき女を見るといきみ出し

宝12智2

小栗 賛。さすがの車力も荷車が空でない

追いかけるわけにはいかぬ。

清 賛。

53 魚らん近所かと頼光聞給ひ

高野 雨譚注「綱は箕田^{みだ}出生」。

「魚籃」は、三田の魚籃坂にある三田山水月院魚籃寺の略称。魚籃観音を祀っている。

「渡辺綱」は、河原左大臣源融の子は源昇であるが、後、罪を得て武藏国箕田に流され源

充(源次)を生んだ。箕田に采邑を得て住み

つき、子、源五綱を生む。この系を箕田源氏、嵯峨源氏という。(絵入川柳妖怪譚)。

句意は、頼光にお目見時、生まれは武藏国

箕田……と、綱が名乗ると、頼光は「魚籃の

近くか」と、問われたであろうとの想像句

ひぢり坂近所とつなハ申上ケケ 安九板2

氏神ハ八幡と綱申上ケケ 二六14

小栗 賛。「頼光」と「魚籃」で綱を当てさせる趣向の句。

清 賛。

54 女房の留守みそつけをつかみ出し

高野 一旦女房が留守をすると、どこに何を置いてあるもわからず、酒の肴は味噌漬になつてしまふ。

女房の留守めし時のさだまらず 明四官3

女房の留守塩からでのもんで居る 安九梅2

小栗 賛。ではあるがどうなんだろう。女房

がいればそんなことをしないのに、留守だから仕方なく味噌漬へ手を突っ込む羽目にな

るという意ともとれるが……。

伊吹 糠に手を入れるのは、出来ることなら

したくないのが心情だと思ふので、小栗氏説

に賛。

清 小栗説賛。

55 鍋いかけ子にきん玉を見つけられ

高野 「鍋鑄掛」鍋や釜などの銅、鉄器の漏りを止めるため、しろめなどを溶かし込んで穴を塞ぐこと。またそれを業とする人（『川柳大辞典』）。

句意は、鍋鑄掛は、引用句のように引き出し付きの道具箱に腰を掛けて仕事をしている。その周囲には輪をおもしろがって見ている子供たち。しゃがんだ子供たちの目線の先に鍋鑄掛の股座が見える。

またの中から引出シをいかけぬき

安七智3

ちんほこへ火がはねるよといかけいひ

一四12

清 賛。昔は褌だったから……。それがゆるむこともある。

56 やたいほねよバリハ巻歩すてたやつ

高野 「屋台骨」は女郎屋。またその家の構えや部屋の作りなど罵倒語（『江戸語大辞典』）。「一步」は、もともとは一兩の四分の一の価を意味するが、川柳においては以下の物の値段を表す。①一分女郎の略。揚げ代一

分の女郎。（『川柳大辞典』）

雨譚注は「ふられた客」。

句意は、一分女郎を買ったが振られて女郎屋を罵っている遊客。

すさまじひやたい骨たとすけんをし

明三宮4

むりな事かさぬとやたいほねよばり

安六仁5

清 賛。

57 節句前敷医十疋二十疋

高野 「節句前」の「節句銭」は、五節句毎に家主が家に応じて借家人から徴収した銭（『江戸語大辞典』）。節句や盆暮に借家人から家主へ付届けをする金品（『広辞苑』）。「十疋」は一兩〇四分、一分〇百疋、一疋〇十文。十疋は百文。

敷医者への薬礼の支払い時期と金額詠んだ句であるが、盆・暮とすると半年に百文。

敷医者薬礼は少ないものだ。

いきたのといしやのかぞへる節句まへ

安四亀3

節句前敷医四百と二百とり

萬四28

山田 賛。ですが「盆・暮」とすると半年に百文」とはどういう事ですか。主題句は、あち

らで十疋、こちらで二十疋といっているだけでしょう。

小栗 同右。医師の診療代はピンキリでしょうが、百文単位はいかにも安いという感覚だと思ふ。

清 同。

58 今迄の事を湯にするやかましざ

高野 「喧しい」は、①騒々しい。②煩わしい。面倒臭い。うるさい（『江戸語大辞典』）。「水にする」は、①空しくする。無にする。②無かったことにする。ご破算にする（『江戸語大辞典』）。雨譚注は、「水にせぬの也」。

下女は孕む、水に流すのも拒むし、中宿から怖いのも来るし、ああ、どうしよう。現代風に解釈すれば、「示談に応じず、和解不成立、これから裁判か、煩わしい事だ」。

小栗 賛。「水にする」を「墮胎」とすれば、

礎説のようなことになろうし、単に「水に流す」を「湯にする」ともじっただけなら、一

般的なもめ事の句となる。今迄の事を」という言い方は、孕んだことではないようにも思える。

伊吹 一般的なもめ事に賛。

清 同。

愛染帖

新家 完司選

(投句275名)

時々はやさしい人の真似をする

丹波篠山市 酒井 健二

(評) やさしい人でないと、やさしい人の「やさしさ」が分からない。真似をしているうちに「本物のやさしい人」になるだろう。

家族では大が一番いい血筋

香芝市 山下 純子

(評) 我が家系を辿っても町人とかせいぜい雑兵止まりだが、愛犬は「国際公認血統証明書」という厳めしいのを持っている。

カタログの写真と違う熱れ具合

土佐清水市 辻内 次根

(評) 美味しそうな通販のカタログを見て注文したが、届いたのは「食べ頃は五日後」。誕生パーティーに間に合わないではないか。

こげついた頭のような鍋みがく

岡山市 田中 恵

(評) 焦げつかせてしまった鍋をタワシで磨きながら「私の頭もこんなの？」と自省でも、焦げた頭だって磨けばまたピカピカだ。

手も足も温めて投句整える

津山市 高橋由紀女

(評) 手足が冷え切っているとハートまで萎んでしまう。身体を温めて珈琲でも飲んで、ゆったり寛げばほんわかとした名句誕生！

了見が狭くてにはよくいじる

唐津市 仁部 四郎

(評) 僅か17音の文芸では助詞一つでニュアンスが違ってくる。「了見が狭い」は「謙遜」重箱の隅に拘るのも川柳の面白いところ。

書き出してみよう家族の良いところ

東京都 川本真理子

(評) 身近に居るからアラが見えてしばしば愚痴が出る。それぞれの長所を書き出してみれば「うーん、みんな結構いい人！」。

一円も負けてくれないレジスター

鳥取市 奥田 由美

(評) 昔馴染みの八百屋さんは端数など切ってくれた上にオマケまでくれた。だが、マーケットのレジは一円も負けてくれない。

「知らんけど」足して安全圏にいる

大阪市 島田 明美

(評) どうでもエエ話の後にくつつける大阪のおばちゃん得意のオチ「知らんけど」。言った方も聞いている方もフツと軽くなる。

葬式と墓のCM目立ちすぎ

堺市 村上 玄也

(評) テレビでも折り込みのチラシでも葬儀

社や霊園の広告が目につく。高齢化社会の故か自分が適齢期になってきた所為なのか…。

堺市 坂上 淳司

銀幕を諦めさせたのは鏡

黒石市 北山まみどり

武器として相手に向けてやる鏡

八王子市 川名 洋子

誰も来ぬ正月ゴモも出てこない

奈良県 安福 和夫

来客なし気楽極楽寝正月

大阪市 高杉 千歩

鉛筆を削る新春の初仕事

岡山市 大石 洋子

元旦というのにファスナーひっかかる

岩国市 上村 夢香

雪道を踏んで大吉初詣

米子市 伊塚美枝子

お賽銭はずみましたと神だのみ

豊中市 水野 黒兎

松過ぎて消化に励む残り物

河内長野市 穂口 正子

双眸が陰しくなつて老い本番

今治市 永井 松柏

サルコペニア一歩手前の鬼瓦

川西市 大坪 一徳

ほんとうの自分がわかる歳になり

唐津市 坂本 蜂朗

新しい病つきつき老いに入る

宝塚市 丸山 孔一
外出時先ずはトイレという日課

神戸市 富永 恭子
横風を受けて氏神さま参り

熊本市 杉野 羅天
気が合わぬ血液型の所為でしょう

奈良市 尾畑なを江
おにぎりのみかん小さな方が好き

明石市 梶谷 和郎
金ないが金庫の鍵は掛けてある

米子市 吉田 陽子
言うことを聞く妹が好かれてる

仙台市 月波 与生
藪椿咲いてますとも言わないで

豊橋市 小松くみ子
人生の放課後芋の焼け具合

松江市 石橋 芳山
牛の背に羽が生えても似合わない

大阪市 古今堂蕉子
同じとこいつも掻いている風呂の中

大阪市 丹下 凱夫
粋がって見たがへつぱり腰である

岡山市 丹下 凱夫
ランボーもロッキーマも歳取っちゃって

転ぶなよ言いつつ走るバスが来た

うしろ見る癖が未だに直らない
かかりつけ医に川柳を褒められる
元旦の血圧なんと180

三田市 上田ひとみ
ほんやりとしたくてしてる訳じゃない

神戸市 上田 和宏
「つまり」から急に目線が高くなる

豊中市 きとうこみつ
鈴蘭の清楚な香り私向き

生駒市 饗庭 風鈴
誰ぞネジ巻いてくれぬかもう一度

佐賀県 真島久美子
三人の距離になるからややこしい

札幌市 三浦 強一
湯豆腐と熱燗で聴く雪予報

奈良県 渡辺 富子
百薬の長かなるほど出る元氣

大阪府 石田 孝純
ころばずに戻った夫ほめておく

逃げていく若さを追ってこきました

一万歩疲れた分の得をする

誕生日プラスひとつの面白さ

奮闘の末に係を呼ぶセルフ

おいしいもん食べよかと弁当を買う

絆創膏に主婦歴を笑われる
京都市 都倉 求芽
かあちゃんに供える黒豆梅昆布茶
好きなもの並べひとりの祝い膳

倉吉市 岡崎美知江
再検査行きはオロオロ帰途ラララ

今もなお泣きつく膝にされている

尼崎市 山田 耕治
閻魔さん忘れてはるか沙汰がない

豊中市 松尾美智代
午後の部はお酒が出ます分科会

誘い水かな論吉さま居るお賽銭

往復は車でさつと初詣で

大阪府 高木 道子
マスクして世の半分を擦り抜ける

年頭にまずゴミの日を書き入れる

鳥取市 上山 一平
ドカ雪悲劇右も左も高齢者

凍った道赤信号もうわの空

権原市 居谷真理子
絶頂の頃の写真の計報欄

弘前市 高瀬 霜石
青春デケデケ 祭壇のギター

大阪府 平井美智子
パソコンの海に溺れて午前二時

わびさびは忘れIT進化する
富田林市 片岡智恵子
かわく喉病室に嘘おいてきて
大阪府 内田志津子
体温が上がったままで恋終わる

香芝市 大内 朝子
新コロナ正月気分搔つ攫う

宝塚市 岸田 万彩
現代の酒池肉林を断つコロナ

美作市 岡本 余光
脳までも自粛暮らしにどつぷりと

神戸市 みぎわはな
自粛日々欠伸の数を数えてる

大阪市 坂 裕之
自粛すら守れない人うろうろと

鳥取市 副井ゆたか
すぐに見る車ナンバー登録地

岩出市 村中 悦男
自粛中五七五とよく遊ぶ

米子市 後藤美恵子
ステイホーム手抜き目につきウツ募る

大阪市 樋口 眞
鐘撞いて自粛の憂さを解き放つ

河内長野市 山岡富美子
すきま風いいえソーシャルディスタンス

三原市 鴨田 昭紀
嫌な人と保つソーシャルディスタンス

神戸市 近藤 勝正
声はずむ帰省できぬと嫁の声

米子市 竹村紀の治
コロナ禍に賽銭箱のひとり言

寝屋川市 富山ルイ子
マスク作り日日の無聊をなぐさめる

越谷市 久保田千代
手作りのおしゃれマスクが面映い

防府市 坂本 加代
マスクしてコロナ対策目で握手

箕面市 出口セツ子
世を映し変わり難みでするマスク

熊本県 岩切 康子
散歩終えマスクを捨ててお茶にする

芦屋市 新早 義明
GOTOのキャンセル料は医療者へ

堺市 矢倉 五月
先ず体温計デコに当てられいらっしやい

河内長野市 黒岩 靖博
成人式非常事態で引き裂かれ

羽曳野市 宇都宮ちづる
コロナ禍で覚えた単語エビデンス

鳥取市 永原 昌鼓
コロナにも負けぬ若人箱根越え

浜松市 中田 尚
取組もフェイスシールドしましょうか

東大阪市 北村 賢子
テレビ釘付け根が生えてくる家ごもり

河内長野市 中島 一彌
巣ごもりがもたらすテレビショッピング

大阪市 岩崎 玲子
電車バス乗り方忘れそうな日日

高砂市 松尾柳右子
感染者どんどん増える冬の底

羽曳野市 徳山みつこ
アマビエも覚悟しました長丁場

松山市 郷田 みや
成り行きに任せることに慣れてきた

鳥取県 山下 節子
咳止めをのんで会議に出席す

岡山県 藤澤 照代
ペーパーレス判子の命掠め取る

三田市 堀 正和
気がつけば師匠も医者も歳下や

松山市 柳田かおる
文春に撮られないようランチする

高槻市 片山かずお
門扉越しで話を済ますお付き合ひ

岡山市 永見 心咲
金魚のフン期限付きです反旗まで

神戸市 奥澤洋次郎
鈍臭いそれは私のリズムです

黒石市 石澤はる子
胸のつかえ丸投げしたい沈む陽へ

弘前市 福士 慕情
アクセルをぐっと踏み込む黄信号

大阪市 小野 雅美
若者が基準だろうか徒歩五分

大阪市 平賀 国和
心も弾む男女合同趣味の会

和歌山市 松原 寿子
両頬に罰あたりそう初いちこ

神戸市 松倉 正美
口が寄るなみなみ注いだ新走り

堺市 澤井 敏治
濁り酒冬には冬の味がある

豊中市 松田蟻日路
行きつけの飲み屋と医者が並ぶ街

横浜市 川島 良子
成人式済めば待つてる一気飲み

鳥取市 岸本 孝子
盃で乾杯すれば飲み干せる

三原市 笹重 耕三
雪国を唄いたくなるひとり酒

尼崎市 永田 紀恵
まあええかちよとだけよと休肝日

大阪市 今村 和男
こぼれ酒水飲み鳥になって飲む

南あわじ市 萩原 狸月
上爛にほどよく酔うてよい夫

米子市 野川 宣子
飲めぬ日が来るから今は飲みなされ

羽曳野市 吉村久仁雄
酒に浸すとすぐに心に艶が出る

広島市 岸本 清
ビアグラスの泡が溶かした蟠り

藤井寺市 鈴木いさお
とり皮はやはりタレより塩でしょう

三田市 村田 博
飲む相手無くてつまらんお正月

米子市 成田 雨奇
居酒屋に行かなくなったこの一年

池田市 倉本 一弥
家飲み飽きた酒にややつぱり友がいる

美面市 広島 巴子
リモートでお神酒お屠蘇に般若湯

高槻市 松岡 篤
飲み忘れ薬はするが酒はせず

鳥取県 斉尾くにこ
飲まないでいても楽しい酒の席

西宮市 福島 弘子
下戸ながら濃い粕汁の今日の冷え

松江市 中筋 弘充
泌尿器科の備品となった紙コップ

晋屋市 竹山千賀子
丈夫な骨作る料理に骨おれる

大阪市 栃尾 奏子
ちらし寿司まだ義母遠しいや近し

大阪市 東 敏郎
戦中派ふたの飯粒先に喰う

鳥取市 田賀八千代
ひと波が引いて茶碗の山洗う

倉吉市 牧野 芳光
自己嫌悪脳がヌメリに包まれる

松山市 大内せつ子
涙って正直 我慢しなくても

東大阪市 佐々木満作
妻負傷見様見真似の割烹着

大阪市 谷口 義
おばあさんにはご老体とは言わぬ

三田市 北野 哲男
ボヘミアン誘い上手な風になる

鳥取市 倉益 一瑤
おんな母姑だんだん強くなる

弘前市 稲見 則彦
始末書の書き方指南しましょうか

米子市 妹能令位子
ふと思う亡夫の失敗責めたこと

大阪市 井丸 昌紀
後出しジャンケン得意な人に敵わない

岡山県 高岡 茂子
残高の合わぬ家計簿つけ続け

福井市 伊藤 良一
年金と妻にすがって生きている

松江市 梅瀬みちを
楽無し苦なしの年金丁度いい

大阪府 大浦 福子
その昔惚れたあなたと競う惚け

寝屋川市 廣田 和織
この命使い切るのに二千万

三田市 尾崎 一子
先頭に立てないけれどついてゆく

堺市 今井万紗子
白いページ何時かはきつと華咲かす

米子市 池田 美穂
うずうずときつと桜も待っている

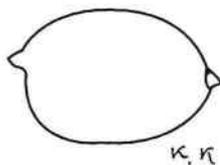
共選欄

檸檬

抄

(薫風書、カットとも)

(投句352名)



K. K

「呼ぶ」石橋芳山選

別々に呼んで言い分聞いてやる
西予市 黒田 茂代
主呼ぶ仔猫の声のコケティッシュ
大阪市 石田 孝純
呼ばれるまで待とうご飯もワクチンも
橿原市 居谷真理子
呼ばれても返事が出来ぬうら事情
神戸市 山根 弘華
おいお茶この頃熱く苦くでる
塩竈市 木田比呂朗
幸運を呼ぶはずだったベアリング
大阪市 小野 雅美
放課後の土手にトランペット響く
岡山市 永見 心咲
フルネーム自分で呼んで入れる喝
黒石市 石澤はる子
木枯らしかもしや貴方の呼ぶ声か
河内長野市 木見谷孝代
旅ごころ遠い太鼓が呼んでいる
生駒市 饗庭 風鈴
耳馴れた声で呼んだね不意の蝶
河内長野市 大島ともこ
類は友を呼んで群れ咲く蛇苺
島根県 伊藤 寿美
呼んでない奴がとなりで飲んでる
米子市 竹村紀の治
番号で呼ばれ掻き消される個性
富士見市 中島 通則

「呼ぶ」古今堂蕉子選

友が友呼んでコロナのクラスター
倉吉市 牧野 芳光
ネット茶会にお呼ばれをして背広着る
羽曳野市 吉村久仁雄
流水へクリオネ泳ぎ春を呼び
伊丹市 延寿庵野鶴
柴犬のタロー今夜も帰らない
三田市 上田ひとみ
客よ来いコロナ持たずにわんさ来い
南あわじ市 萩原 狸月
番号で呼ばれ掻き消される個性
富士見市 中島 通則
見てみるとママを呼んでの逆あがり
三田市 生田えい子
こっちこっちと閻魔三途の向こう岸
奈良市 大久保眞澄
呼び出され受付行けば傘が待ち
伊丹市 岡村 風琴
風が呼ぶ雲が走った俄雨
奈良市 山本 昌代
呆然と燃える首里城なぜ何故に
沖繩県 宮 すみれ
改ざんが自殺を呼んだ公文書
池田市 上山 堅坊
カラスから呼び出しかかるゴミ出し日
堺市 内藤 憲彦
呼び捨てにちくり寸鉄さんまちゃん
大阪市 大川 桃花

スイングジャズ聴いて昔を呼んでいる	土佐清水市	辻内	次根
春呼んで一皮むけた顔になる	鳥取市	中村	金祥
救急車呼べば気になる近所の目	三田市	幸田	厚子
いらっしやい客呼ぶ本音金よ来い	奈良市	宇賀	史郎
呼ばれてるうちは花かど何処へでも	神戸市	みぎわはな	
ベットより先に呼ばれたことがない	和歌山市	古久保和子	
間違えて貧乏神を呼び止めた	弘前市	福士	慕情
「おい」と呼び「あい」と答えて野良仕事	大阪市	森	廣子
ひとりずつ呼ばれ列から消えてゆく	大阪市	平井美智子	
呼名する練習だけは抜かりない	米子市	池田	美穂
遥かなる山が呼んでたハリウッド	三田市	松本ゆかり	
よそゆきの声でわたしを呼びにゆく	仙台市	月波	与生
あの世から呼んでいるのは志村けん	岡山市	丹下	凱夫
そっくりの飼い主 犬を呼んでいる	豊中市	きとうこみつ	
呼び鈴がチーズケーキの出来上がり	芦屋市	新早	義明
呼んでない運も私の人生だ	尼崎市	近兼	敦子
生きてるか回覧板がベルを押す	神戸市	山崎	武彦
呼んだって戻らぬあの日あのシーン	男鹿市	伊藤のぶよし	
メモ一枚がわたくしを呼び戻す	越谷市	久保田千代	
幾つでも呼ばれて嬉しお嬢さん	大阪市	落葉	ふみ
旦那はんと呼ばれりゃ尻もこそばゆい	高槻市	初代	正彦
逃げかけた記憶必死に呼び戻す	橋本市	石田	隆彦

ナース呼ぶブザーを握り眠る祖母	尼崎市	山田	厚江
記念樹も招待されるクラス会	三原市	嶋田	昭紀
耳馴れた声で呼んだね不意の蝶	河内長野市	大島ともこ	
呼んでない奴がとなりで飲んでる	米子市	竹村紀の治	
呼び捨ての男と並ぶカツ丼屋	佐賀県	真島久美子	
妻の名を呼べば三人振り向いた	三田市	幸田	厚子
呼びかけは半音高く温かく	松山市	大内せつ子	
トランプ氏よ その呼びかけは駄目でしよう羽曳野市	大阪市	藤原	大子
子に呼ばれ三途の川を引き返す	大阪市	平賀	国和
フルネーム自分で呼んで入れる喝	黒石市	石澤はつ子	
目で呼ばれもらった席の背のぬくみ	神戸市	青山ひろし	
雨の日は駅の呼び出しよく聞こえ	京都府	北野クニオ	
本当の光は闇の中にある	弘前市	高瀬	霜石
番号で呼ばれ受験の顔になる	芦屋市	竹山千賀子	
俺の名を呼んでくれるな酒の瓶	安来市	原	徳利
野暮用で呼ばれついでにラーメン屋	東大阪市	西村	哲夫
呼んで来いなんて言われて責任者	大阪市	柴本ばつは	
十二桁の数字で呼ばれ僕は誰	大阪市	井丸	昌紀
学期末呼び出されては頭下げ	大阪市	横山	里子
別々に呼んで言い分聞いてやる	西子市	黒田	茂代
医学界に波紋を呼んだコロナ策	河内長野市	藤塚	克三
雷の雄叫び雪を呼び起こす	米子市	伊塚美枝子	

呼び水になるかもしれないぬ小さな灯
 呼ぶ声にこたえないのも操作術
 妻の名を呼ぶこともなく金婚日
 わたくしをおいと呼べる人はひとり
 呼び寄せた母の退屈そうな街
 春よはる呼びかけしてる雪の下
 おねだりの時はさんから様にする
 オーイ友コロナに負けず生きてるか
 バンクシーを呼んでる様な白い壁
 名を呼べばロボット犬はやって来る
 妻が呼ぶ何がばれたか辣む首
 緋けば疑問ふくらみ謎を呼ぶ
 お呼びあり尻尾も振った若かった
 まだ呼ばないできつと貴方の傍に逝く
 キッチンで風呂で呼びます電子音
 ちゃん付けで呼ばれる里の墓参り
 呼ばれても返事ためらうケンカ中
 呼びすてにされて嬉しい恋はじめ
 吹雪く夜空耳か呼び声にする
 呼び捨てにされて絆が太くなる
 僕の句だ呼名はつきりどや顔で
 肩書で呼ぶと返事がすぐ返る
 早く来いこんなに広い空が呼ぶ

尾崎市 藤井 宏造
 大阪市 近藤 風羅
 三田市 足立つな子
 大阪市 田中ゆみ子
 神戸市 米田利恵子
 津山市 高橋由紀女
 黒石市 北山まみどり
 鳥取県 竹信 照彦
 尾崎市 永田 紀恵
 神戸市 上田 和宏
 寝屋川市 伊達 郁夫
 和歌山市 松原 寿子
 神戸市 横田 次郎
 羽曳野市 徳山みつこ
 大阪市 宇都満知子
 三田市 福田 好文
 鳥取市 奥田 由美
 大阪府 大浦 福子
 倉吉市 大羽 雄大
 宇都市 平田 実男
 高槻市 松岡 篤
 横浜市 菊地 政勝
 京都市 都倉 求芽

楽しんで作ったマスク友を呼ぶ
 冥府から呼ぶ声補聴器を外す
 地獄の釜開けてコロナが呼んでいる
 皺くちやのメモが呼び覚ました記憶
 魂胆がやさしい声で僕を呼ぶ
 コロナ退治いよいよドラえもん呼ぼう
 議員らの自粛破りが波紋呼ぶ
 呼んだって行つてやるかと待つ電話
 じいちゃんと呼ぶなお前の亭主やで
 呼んでも来ないけど居ないわけじゃない
 下の名で君に呼ばれた日の動悸
 日に何度呼んだ我が子も遠い空
 春を呼ぶマスクも仕切りもない春を
 ピンポンまた通販が届いたぞ
 山彦が答えてくれた好きやねん
 ばあさんがささいな用で呼び立てる
 おばあさんと呼ばれ私も振り返る
 あの世から呼んでいるのは志村けん
 呼び声が届く範囲で黄昏れる
 新財布買って論吉を呼び戻す
 僕の句だ呼名はつきりどや顔で
 大雪を連れてきたのは餡子餅
 嫌なのは成績順に呼ぶ教師

寝屋川市 富山ルイ子
 大阪市 高杉 千歩
 河内長野市 村上 直樹
 高槻市 初代 正彦
 寝屋川市 廣田 和織
 尾崎市 藤井 宏造
 河内長野市 中島 一彌
 松山市 宮尾みのり
 堺市 村上 玄也
 大阪市 原田すみ子
 大阪市 島田 明美
 鳥取市 飯野 菫子
 大阪市 田中ゆみ子
 三田市 堀 正和
 奈良県 中堀 優
 広島市 岸本 清
 寝屋川市 森 茜
 岡山市 丹下 凱夫
 岡山県 田中 恵
 奈良県 長谷川崇明
 高槻市 松岡 篤
 石川県 堀本のりひろ
 弘前市 稲見 則彦

呼んでない少し大きな独り言
八幡市 武田 悦寛
「その人」と呼ばれつついつい身構える
鳥取市 池澤 大鯨
支払いの時は私を呼ぶ夫
岡山市 工藤千代子

スタッツと呼ばれているが時間給
池田市 奥園 敏昭
先生と呼ばれてただの数合わせ
名古屋市 山本三樹夫
今治市 永井 松柏

大物と呼ばれ続けた固い椅子
河内長野市 辻村 ヒロ
背の丸み過去がチラチラ呼びとめる
佐賀県 真島久美子

呼び捨ての男と並ぶカツ井屋
大阪市 寺井 弘子
口笛をびゅうびゅう吹いて春を呼ぶ
大阪市 川端 一步

新コロナだーれも呼んでいないのに
枚方市 藤田 武人
笛吹けばマグマ大使がやって来る
堺市 村上 玄也

じいちゃんと呼ぶなお前の亭主やで
松山市 宮尾みりのり
呼んだって行ってやるかと待つ電話
三原市 笹重 耕三

人間を続けたいから呼ぶナース
羽曳野市 吉村久仁雄
呼ばれるより先に正論吐きに行く
和歌山市 まつもととも三

君の名を呼べば空砲になる闇
安来市 原 徳利
俺の名を呼んでくれるな酒の瓶
和歌山市 三枝眞智子

呼び声の高い一座はオンライン
豊中市 齋藤奈津子
父呼びに行った息子もパチンコ屋
神戸市 奥澤洋次郎

暗闇の狼母を呼んでいる
鳥取県 斉尾くにこ
なにもない真昼きんぎよが呼んでいる

秀句

そっくりの飼い主 犬を呼んでいる
豊中市 きとうこみつ
うっかりとオイッに返事してしまう
藤井寺市 太田扶美代

父呼びに行った息子もパチンコ屋
豊中市 齋藤奈津子
だからも御呼びじゃなくて隠る日日
三田市 足立つな子

俺の影を大きな声で呼び止める
吹田市 太田 昭
呼ぶ声を辿れば光る星ひとつ
大阪市 小野 雅美

呼ばぬのに貧乏神と老いが来た
喜屋川市 川本 信子
水仙に呼び止められて絵筆とる
河内長野市 木見谷孝代

下の名で呼べば故郷の風が舞う
三田市 稲角 優子
お帰りは何時と鸚鵡呼び止める
唐津市 山口 高明

バンクシーを呼んでる様な白い壁
尼崎市 永田 紀恵
いきなりの呼び捨てスマッシュが決まる
橿原市 居谷真理子

天国の妻がときどき僕を呼ぶ
阿南市 小畑 定弘
ひとりずつ呼ばれ列から消えてゆく
大阪市 平井美智子

いつからか私は「おい」になりました
大阪市 岡田 恵子
年輪と呼ぶ人生の錆びの跡
高槻市 富田 保子

寒中の告別式へ救急車
池田市 太田 省三
ハート盗みました警察呼びますか
大阪市 内田志津子

秀句

日常を呼び戻したいロスタイム
河内長野市 穂口 正子

呼び子吹くこの指たかれ寄つといで
藤井寺市 高田美代子
放課後の土手にトランペット響く
岡山市 水見 心咲

「机」

(投句 235名)

石田隆彦選



現実が嘔って砕く机上論
 テレワーク机の下はパジャマです
 宿題はママとテーブル一年生
 勉強のふりを机は知っている
 机ってすつきりしたら風邪を引く
 あと三日やっと机にかじりつく
 鉛筆と絵筆机はバラダイス
 机のキズ思い出胸に粗大ゴミ
 主の居ぬ机に在りし日の軌跡
 友が逝く机並べた日々遙か
 今年こそを嘔って聞いている机
 清浄な空気流れている机上
 深呼吸受験の海となる机
 朝夕に亡母と語らう経机
 引き出しに夢一杯の子の机
 哲学書積んであくびをする机
 物置になった机の愚痴を聞く
 机の下にどうやら睡魔居るらしい
 窓ぎわの机に夢と涙跡
 窓際の机は今日も舟を漕ぐ

河内長野市 中島 一彌
 富士見市 中島 通則
 加西市 山端なつみ
 犬山市 金子美千代
 大板市 古今堂蕉子
 倉吉市 牧野 芳光
 河内長野市 木見谷孝代
 豊中市 小松くみ子
 東大板市 佐々木満作
 大板市 内田志津子
 池田市 上山 堅坊
 橿原市 居谷真理子
 和歌山市 松原 寿子
 大板市 島田 明美
 貝塚市 石田ひろ子
 奈良県 渡辺 富子
 米子市 中原 章子
 大板市 津村志華子
 寝屋川市 川本 信子
 寝屋川市 廣田 和織

お言葉ですが上司の机叩いた日
 正論が机叩いて食い下がる
 すぐ横に並び春来た 席替え日
 甦る机と椅子のバリケード
 文豪の机が華美を戒める
 一度だけ机下と印した封書来る
 スランプの机に落ちる流れ星
 女王の足 机の下の自由
 高望みそれでも机上の志望校
 志机に向かい鍛え上げ
 合格の机を撫でてそっと拭く
 晩学の机はいつもマイペース
 佳句
 ちゃぶ台から小さな幸が覗いてる
 整った机に遠慮する指紋
 机から落下している青い春
 懸命に向かった机サクラサク
 人生は机上プランと嘔み合わせぬ
 人
 満載の机は夢を生む宇宙
 地
 少年は机に眠り夢を織る
 天
 偏差値で輪切りされてる塾机
 軸
 コロナ禍にデスクプランで終る旅

大阪市 小野 雅美
 弘前市 福士 慕情
 岡山市 永見 心咲
 生駒市 饗庭 風鈴
 宝塚市 岸田 万彩
 弘前市 稲見 則彦
 佐賀県 真島久美子
 海南市 小谷 小雪
 堺市 矢倉 五月
 大板市 平賀 国和
 堺市 遠山 唯教
 三原市 笹重 耕三
 堺市 今井万紗子
 神戸市 富永 恭子
 笠岡市 藤井 智史
 東大板市 北村 賢子
 河内長野市 藤塚 克三
 箕面市 出口セツ子
 豊中市 水野 黒兎
 神戸市 山崎 武彦

「アクション」

藤澤照代選

(投句 227名)



大袈裟な涙にふっと乗せられる
手話同士十指駆使して弾む息
駄目元で体当たりするオーティション
息抜きのアクション映画見て疲れ
アクションを起こす勇氣は準備中
大仰な動きに話聞き落とす
翔んでいる妻のパワーに救われる
熱はいり身ぶり手振りで話す人
冬の朝覚悟を決めて出る布団
アクションを起こすと急に騒ぐ風
弾まない愛の音符にアクションを
柔らかいその物腰に騙される
限界を超えた我慢が破裂する
アクションを起こしてからの肩の凝り
ポンと花ごめんが言えぬ夫から
香水はほのかにちらとふり向かせ
行動と思いがずれてゆく老後
私が責任を持つやんなはれ
英語補う身振り大きい河内弁
人生は100年ジェットコースター

西予市 黒田 茂代
東大阪市 佐々木満作
大山市 金子美千代
岐阜県 喜多村正儀
河内長野市 大島ともこ
倉吉市 大羽 雄大
和歌山県 三枝眞智子
鳥取県 山下 節子
東京都 川本真理子
枚方市 藤村 亜成
倉吉市 岡崎美知江
塩竈市 木田比呂朗
奈良県 渡辺 富子
越谷市 久保田千代
大山市 関本かつ子
海南市 小谷 小雪
三田市 谷口 修平
高槻市 松岡 篤
羽曳野市 徳山みつこ
弘前市 高瀬 霜石

オーバーなアクション自信ないんだな
席譲りポイント今日は五倍デー
コロナ明け目指し朝晩スクワット
渦潮だ始動が近い春の海
間違いを犯したあとに見る夕日
バラの花買ってみようか倦怠期
大晦日夫婦喧嘩で越した年
死んだ振り聞こえぬ振りが上手くなる
踏み出せば同じ思いの人が居る
地獄へ墮ちる前にあなたを引っぱたく
カチンコが鳴るわたくしの分岐点
営業で苦労していると分かる酌

佳句

ねじ巻かれのっそり動く古時計
思い出を浄化するため紡ぐ嘘
ヨイショツと声をかけた腰が立つ
連続の二重跳びならまだ出来る
決心が変わらぬうちに書く手紙

人

ジェンダーフリー心のままに生くと決め

地

無駄のない動きが母の台所

天

言い訳に身振り手振りをプラスする

軸

おぶわれた母の小さな背を流す

羽曳野市 吉村久仁雄
大阪市 小野 雅美
三田市 堀 正和
大阪市 柴本ばつは
大阪市 田中ゆみ子
大阪市 平井美智子
横浜市 加藤 佳子
富田林市 中村 恵
神戸市 奥澤洋次郎
和歌山県 まつもとともこ
佐賀県 真島久美子
大阪市 高杉 力
大阪市 今村 和男
宝塚市 岸田 万彩
倉吉市 牧野 芳光
三田市 村田 博
防府市 坂本 加代
大阪市 内田志津子
横浜市 菊地 政勝
八王子市 川名 洋子

初見教室

題一発見

高瀬霜石

前回の担当（1月号）の冒頭に、「弘前にもクラスタ1発生。2021年1月。弘前の、大阪の、日本の正月は、さて？」と書いた。

去年の暮れも押し迫った頃、計報が届いた。

昨年10月。弘前の高級クラブで発生したクラスタ1に巻き込まれ、重症化し、2カ月は入院していた友人が、とうとう亡くなった。

彼とは高校の同期。お互い、父の会社を引き継ぎ、青年会議所（JCC）の仲間でもあり、よく飲み、よく語った。長いつきあいだった。

彼は、関連会社社を立ち上げ、幾つもの肩書を持ち、観光協会会長やら、商工会議所会頭なども務めた正に地元の名士だった。

一方の僕は、50代で、半分仕事をほぼり出し、川柳や、映画や、ラジオにうつつをぬかず不逞な輩。光と影のように対象的だった分、ずーっと友達でいられたのかもしれない。

い。

①いつものように、上と下を入れ替えてみる。

（▼は原句。▽は参考句）

▼八十路婆まだ好奇心旺盛で 風露

「婆」はイケナイ。美しくないものさ。

▽好奇心旺盛わたしたち八十路

▽この映画なんかいい見ても新鮮や 崇史

上に「新鮮」を持つてくることで、読者は

新鮮なモノは何かなあと、気になる。

▽新鮮だ何回見てもこの映画

▼定年後隠れた自分を発見す 秀 爺

▼もひとりの自分を探す定年後

▼足のマヒ靴も脱げないもどかしさ えい子

この句も、上に「もどかしい」がくれば、

読者は、何がもどかしいのと、気になる。

▼もどかしい靴も脱げない足のマヒ

▼四十五年連れ添いよくも動く妻 澤良 子

四十五という数をあえてカットするのは辛

いのだが、四捨五入してしまった。ご勘弁。

▼よくもまあ動く妻です半世紀

▼ボランティア人との出逢い嬉しい 義 明

会う、合う、遭う、逢う、いろいろあるけ

れど、この句だと、素直に「出会う」でい

いのは、「出逢う」だと、色っぽ過ぎる。

▽たくさんのお会い嬉しいボランティア

②不要な言葉を（タブっている語も）カットして、シンプルに。そして、時には、大げさにも。これも川柳の伝達力と、僕は思う。

▼考古学遺跡発見土を掘る ひとみ

土偏の「堀」は、間違い。ここは手偏の「掘る」

でなくちゃダメ。簡単な字だと、案外、辞

書引かないんだよなあ。ここは、とにかく

シンプルに。

▽まず土を掘らねばならぬ考古学

▼コロナ禍に断捨離の服袖通す 開 子

ここは、涙を飲んで「コロナ」をカット。

▽断捨離の服にもいちど袖通す

▼歩き出し毎日発見一歳児 弥 生

▼毎日が発見である一歳児

▼票入れた議員があんな人だとは 櫻良 子

誰もが思う。広島あの夫婦なんか特にね。

▽わたくしの一票 あんな人だとは

次の3句。これでOKなのだが、僕ならば

▼好きな事見つけて伸ばせ子供の芽 川信 子

▼好きな事見つけて伸びる子供の芽

▼カプセルの中味に期待はやぶさ2 一 平

▼カプセルの中味気になるはやぶさ2

▼はやぶさ2地球の起源探す旅 三樹夫

▼はやぶさ2宇宙の起源探す旅

③もっと適切な言葉がないか。あえてドラマ

チツクに仕立て変えたり、時には、わざとカタカナを使つたり(軽薄にもなるが)。

▼自爾して家事の苦勞を思い知る 行久

▼ステイホーム妻の勞苦を思い知る

▼君サウスポー食べるの右手知らなんだ一弥

▼食べるのは右手 ほんとはサウスポー

▼親父似発見風呂屋の大鏡 蟻日路

これだと説明。ドーンとデイフォルム。

▼銭湯の鏡 親父がそこにいる

▼ワクチンに凌ぎを削る研究が マユミ

これも説明。こは、嘘でも具体的に。

▼ワクチン開發凌ぎを削る米・中・露

▼海底にロマン求めて潜る人 照枝

想は面白いのだが、「潜る人」は苦しい。

こは、やむなし、カタカナで逃げよう。

▼海底にロマン求めるシユノーケル

▼躓いて初めて分かる筋トレを ひでお

こはユーモアで、上手に切り抜きたい。

▼躓いて分かる 筋トレしなくっちゃ とか

▼躓いて分かった 筋トレしよう とか

▼未だ発見がたと有ります八十路坂(藁)廣子

ドカーンと大げさに。

▼今日も発見明日も発見八十路坂

▼断捨離のタンスの奥にラブレター 通則

こは、「の」の連発でたまたまかけた。

▼断捨離のタンスの奥のラブレター

▼そうなんだ納税で知る名産品 のぞみ

この制度を上手に利用している人も多いと聞いた。カタカナを使うと句が軽くなるが、

▼ふるさと納税名産品をゲットする

▼嫌われていかなかったんだこの私 不二夫

好感が持てる句。こも、軽薄に徹したい。

▼嫌われていかなかったんだなあヤッホー

(○)は佳句、(◎)は優秀句)

○染みの数こまで見える1:5 (加)佳子

面白い。上下入れ替えて「1:5こまで

見える染みの数」でも悪くはない。つまり、

「1:5」を下に置くと、乙女心が切ない。考

える(悩む)楽しみ。

○新しい化石求めて夢を掘る (貝)正子

○諦めていたら出てきたネットワーク 紀美代

○あらいヤダ招かざる客類にシミ 閑

○二丁目に安くて旨いピザの店 千賀子

○リモートで気づくやっぱ君が好き 風羅

○ウィルスにこんなに弱い私達 ゆき

○新薬をステージ4が待っている 尚

○小さな発見少年の夢成就する 眞智子

一読。少年が主人公だから、「成就する」

ではなくて「スタートだ」くらいの方がいい

のではと思つたのだ。が、違う。発見したのは、少年(研究小僧)が、大人に——ひよつ

として老人に——なつてからなんではないかと、遅ればせながら気づいた。

今回の卒業生は2人。まずは、大阪市の岡

田恵子さん。想は平凡だが、リズムがしつかりして、安定した実力ありと推察した。

◎押し入れの奥に内緒の恋がある 恵子

◎ポケットにあなただの嘘を見つけた恵子

昔は、マッチとは、花名刺とかだったけれども。一体何を見つけたのか。「見つけた」

で、作者も楽しんでる様子がいい。

◎家出した猫は隣の縁の下 恵子

もう一人は、尼崎市の山田厚江さん。厚江

さんは、ユニーク。恵子さんとは、好対象。

○工事現場壺が出て来てさあ大変 厚江

○銀婚式君の長所がやっと思え 厚江

◎ツタンカーメン発見されてうれしのか 厚江

「水煙抄」でのご両人の活躍に期待したい。

お詫ひ

2月号77頁中段前から6行目

原 雨後の虹心にコピーまた明日

の作者は、蟻日路さんです。

川柳塔鑑賞

同人吟 斉尾 くにこ

12月号から

コンソメを入れたらちよつと若返る

谷口 義

微笑みたくなる一句。少し華やいだ気持ちになれるのでしょうか。コンソメであれ音楽であれ口紅であれちよつと若返る魔法を持っていたいものです。

ドキドキをしなくなつたね影法師

柳田 かおる

トキメキでしようか緊張でしようか。たくさん経験を積み善くも悪くも落ちてきた大人になっている。でも、時には胸を躍らせる出来ごとに遭遇出来たらいいですね。

落ち葉掃き新芽膨らむまで続く

山岡 富美子

晩秋は落ち葉の季節。朝掃いた庭も、お昼にはもう一面の落ち葉。それが「新芽膨らむまで続く」樹木は新芽のために役目を終えた葉を捨てる。命の循環と、日々の暮らした落ち葉掃きながら思う。

ブライドの扉ひとつずつ崩れ

田賀 八千代

ブライドは厄介だけれど、有るから人間の魅力も増すのでしょうか。扉ほど強くなれば弱くなく、自分らしく。

爽やかな朝だ裁判勝っている

川端 一步

朝テレビから冤罪事件勝訴のニュース。一陣の爽やかな風が入った。虐げられていた人に朝陽が笑ったように射した。

冬の案山子やさしい顔に戻ってる

柿花 和夫

稲のナイト役を終え案山子もほっとしたのでしよう。戻ったと見た作者が素敵。冷蔵庫開けたら寿命ですの声

後藤 宏之

寿命は賞味期限の事でしょう。なんとも愉快な一句です。近未来ほんとうにそんな冷蔵庫でできそうです。「おつかれさま」とかも言ってもらえたら尚、嬉しい。

玉子さえあればちやちよつとばつぱつと

古久保 和子

楽しいリズム。和子さんの手際よさと、ご家族との朝の会話も聞こえてきそう。

転んだら起きるゴールが待っている

平井 美智子

平坦な道ばかりは無く時には転ぶ「転んだら起きる」。そんな時こそ自らを励まして近くのゴールを目指そう。ゴールがそこで待っている。

前歯より少し怒っている奥歯

太田 昭

だから奥歯は虫歯になりやすいのですね。「怒っている」の見解が面白い。

ジグザグの道だが足は前を向く

穂谷 和郎

ジグザグの道も凸凹の道も、気持ちも足も前へ向けないと進めない。困難な道を前へ前へ歩いている姿を誰かが見ている勇氣をもらう人がいるでしょう。

うらやましスマホ充電再起動

山口 不動

コトンと事絶えたスマホは充電さえすれば再起動。人間に充電器あればもう無敵。私も欲しいです。人間充電器。

信頼度低い無記名アンケート

谷口修平

署名しなくてもいいとなれば何事も無責任に言えてしまう。本音がでるか、偽りか。信じるか否かは主催者しだい。

ツアーバス止まればまずはマーケティング

福田好文

バス旅行のあるあるな一場面。パーキングへ止まれば連れ添って行く所は同じマーケティングにオリジナルのユーモア。

優しさを貰って優しさを返す

鴨田昭紀

目には見えない「優しさ」を貰ったことに気づき、そっと「優しさ」をさり気なくお返しする。倍返し待っています。

故郷から離れて気付く片思い

副井ゆたか

故郷への片思いは加齢とともに増していくよな。遠距離恋愛なら尚更でしょう。誰にでも響くものがあるはず。

三密もGOTOもない現住所

福西茶子

同郷の茶子さん。毎日ニュースのトップを飾る数字も話題もどこか他人事でしたが、じわじわと浸み込んできました。

中二階へ進み出てくる駆逐艦

石橋芳山

独特の表現にて人生の踊り場の小休止を詠んでいるよう。川柳の最前線へ向け戦闘開始です。プザー鳴っています。

早や師走大事な方の別れあり

伊藤玲峰

「川柳と詩」金築雨学作品集。私も昨年の四月に読み感動です。また大会でお会いしたかったです。残念で心残り。

あやまりたいことばかりある年の暮れ

川本真理子

来し方をふと振り返るとき急に懺悔しなくなるのは何故でしょう。その時そのとき自問自答しながら選び取り、最善と思いついてきたのに謝りたくなる。でも後悔ではないのだ。全方位に気配りが出来ていなかったとしても静かな理解者は居るはずです。

コロナ禍に国策出せる人居ない

菊地政勝

何方であったとしても難しいコロナ禍の国の舵取り。だからせめて総理大臣は直接自分たちの一票で選びたい。密室で一部の方の利益や思惑で無く。

点と線結んで出来た福祉の輪

岡崎美江

ボランティアや奉仕作業に自ら積極的に取り組んでおられる作者だからこそ一句でしょう。点だけでも線だけでも出来ないのだと実感を込めて。

人間を休みたいと思う時がある

藤井寿代

体の疲れたとき、心の折れたとき、ふとドロップアウトしたくなる。誰でもが。でも、そうしないで頑張るのには必要としてくれている人が居るからでしょ。一休みしたら幸福感がふわり。

書き溜めし十年日記もう五冊

山口高明

なんてなんて凄いがいらつしやるのでしょうか。十年日記が五冊ということはもう五十年も毎日、日記を書き続けていらつしるという言葉。日記を書くということ。それは、今日一日を振り返るといふこと。それを続けるということ。簡単に出来ることではないでしょう。どうぞ六冊七冊十冊と溜めていって下さい。

水煙抄鑑賞

—2月号から

川端 一步

無観客それでもやるか夏五輪

兄 玉 規 雄

通常国会の政府答弁は「東京大会は、安全安心な大会を実現するため、感染対策をして準備していく」です。世論は中止と延期が圧倒的多数。この国民と政府の乖離をどうみるのでしょうか。

メルケルさんの強い訴え心打つ

宮 本 千恵子

メルケルさんの訴えに世界中の人が感動しました。それに比べて菅首相の国会答弁は、木で鼻を括るようなものでした。

感染者の数を毎朝確かめる

坂 本 星 雨

実はわたしもそのタイプ。そして友人・知人・家族いや自分もいつか感染者になるのではないかの不安。身近の家族が濃厚接触だったので数字が怖い。

憤怒の赤で通天閣が悶えてる

森 廣 子

数ヶ月前までいつも青い灯だったのが今や、怒りで大阪のシンボル通天閣が悶えてるのです。ここはノーサイドでコロナと対峙しなければ……と思います。

百歳へお付き合いするジエネリック

中 田 尚

百歳に挑戦。ジエネリックも一つ。その他、医療制度の改善、生活の安定等々項目を明らかにして、おだやかにゆつくりと頂点をめざしましょう。

人生は笑った者が勝ちになる

太 田 としお

まったく同感です。チャップリンは悪政も労働強化も差別偏見もすべて笑いに変えました。(笑う門には福来たる)この言葉に嘘はありません。

一周忌中村医師の徳俵ぶ

岡 本 余 光

中村哲氏その生涯に学ばねば

本 田 さくら

「裏切られても裏切り返さない。誠実さが、人々の心に触れる(中村哲)」
『現代偉人伝』に入れて欲しい人。

積ん読を崩し始めたのはコロナ

倉 橋 悦 子

愛読書が出番ないのは悲しいことですが、それを憎いコロナに機会を作られたのは皮肉なこと。まあ全国でこれに似た良いことがあれば声を出さずに拍手。

好奇心あれば衰え寄りつかぬ

山 根 邦 代

川柳に勢いを感じました。作者の実体験の句と受け止めました。『若さの秘訣は好奇心』に相通じていると思います。

また負けた一人コツソリ夜の酒

岡 本 勲

飲むまいという自制心が負けたということでしょうか。この際、一人酒また楽しんで行きましょう。ちびりとやりながら、今日逢った一人ひとりの顔を思い出しましょう。明日はこの続きを。

暇なようですべきことなら山とある

鳥 居 宏

そう言えばそうなんだ。でも人間の弱さ、ついついやるべきことを明日へ明日へと持つて行く。『長いこと働いて来たのだから』自己弁護に、遠くて鳴っている木鐸の音が聞こえます。



お酒いろいろ (1)

お酒の歴史は古くて、紀元前四千年頃にはメソポタミアでワインが作られていたという記録が残っています。日本酒の歴史については明確な記録はありませんが、紀元前一千年頃の縄文式堅穴から酒造りに使ったと思われる器が発見されていて、その頃からはないかと推定されています。

以来、世界中にさまざまな種類の酒が生まれて悲喜劇の原因となり、数多の詩歌に詠われてきました。我が川柳でもまた多くの句が生まれています。ここでは「日本酒」「ビール」「焼酎」「ワイン類」に分けて楽しんでみたいと思います。

人肌の酒が恋しい星月夜

三浦 強一

一人居に人肌爛が丁度いい

吉村久仁雄

一合も飲めば妻など怖くない

鈴木いさお

熱燗の二合が今日を過去にする

山野 寿之

熱燗が好きなら女でいごっそう

北村 賢子

酒二合理想の僕ができあがる

辻内 次根

あと二合飲ませて欲しい全没日

村田 博

感謝感謝三食昼寝酒二合

稲見 則彦

八代亜紀のヒット曲「舟唄」の出だしは、♪お酒はぬるめの燗がいい(作詞・阿久悠)ですが、この「ぬるめ」はすなわち「人肌」で、ゆっくり寛ぐときにぴったりです。

一方、ぬるめより熱燗が好きという人も多く、温め方を変えて楽しめるのも日本酒の良いところ。このように燗をする酒は世界的にも珍しく、日本酒の他では紹興酒ぐらいです。

浅漬けの胡瓜さくさく酒はひや
酒を注ぐともどうもでもう仲間
寄り合って酒を片手に村おこし

村上 直樹
郷田 みや
前田 楓花

ぐい飲みのお酒もうれしがる
大笑いすればお酒もうれしがる
酒バック非常袋に三日分

福士 慕情
伊達 郁夫
岸本 清

日めくりと一升瓶は早く減る
糖尿は覚悟一升瓶を抱く

福田 好文
藤井 智史

寒い時期には燗酒ですが夏場は「冷や酒」がベスト。見知らぬ人でも注ぎ合うだけで直ぐに旧知の仲になるのも、仲間の連帯感を強めてくれるのも「お酒の力」でしょう。

しかし、日本酒は糖質が高いため高血糖の人は要注意。糖尿覚悟は天晴れですが、水と交互に飲むようにしましょう。

熱燗を飲んだほりも久しぶり
ヒレ酒に隠れています青い鳥
飲兵衛が銚子の口で遠眼鏡

北野 哲男
古今堂 蕉子
坂上 淳司

末席の酒は大吟醸の味
お開きと聞いて注ぎ合う残り酒
四人掛けベンチに五人カップ酒

岡本 昇
樋口 輝夫
横山 捷也

百葉の長と信じてワンカップ
主軸打者日本酒代打芋焼酎

小谷 集一
成田 雨奇

諸酒とは、フグや鯛などのヒレを炙って熱燗を注いだもの。
香ばしい風味とコクでファンが多い。飲兵衛が銚子を覗きだすと寝もたけなわ。お開き前に注ぎ合うのも飲兵衛の習性。

カップ酒は昭和39年発売の「ワンカップ大関」が最初。自販機でも気軽に買えるので公園のベンチと仲良しこよし。

カッパ酒は昭和39年発売の「ワンカップ大関」が最初。自販機でも気軽に買えるので公園のベンチと仲良しこよし。

カッパ酒は昭和39年発売の「ワンカップ大関」が最初。自販機でも気軽に買えるので公園のベンチと仲良しこよし。

カッパ酒は昭和39年発売の「ワンカップ大関」が最初。自販機でも気軽に買えるので公園のベンチと仲良しこよし。



(投句216名)

緊急事態宣言が出たり、その期間が延びたりしてウンザリしています。

商売をされている所は

大変、でも、そんな中で株価が上がって莫大な利益を得る人や、新しい形の売買で大儲けをしている企業もあるとか。

一方で、アルバイトも無くなってしまった大学生が授業料も払えず、退学を余儀なくされるニュースを見たりすると、やりきれなさがまた募るのです。では、ナビを。

奈良市 山本 昌代

沸沸とアツカンベエーをしたくなる

(評)今の世の中、とりたてて誰にといいうわけでもなくとも腹立たしい事で溢れかえっていやしませんか？

松山市 大内せつ子

どちらの味方になろうかなと迷う

(評)迷います迷います。この判断が後

あと響いて来るんですものネ。ところでどちらに致しましょう。

三田市 村田 博

句会には出たいしコロナは怖いし

(評)ホント、長いこと皆さまのお顔を拝見していません。ああ、早く句会に出たい。

大阪市 磯島福貴子

鯛焼きを食べるのいつも尻尾から

(評)頭から食べるのかわいそうな気がするけど、かといって尻尾からだといつまでも睨まれてるようでコワイ。

松江市 石橋 芳山

重いのは豚マンなのか愛なのか

(評)もちろん、豚マンの方が確かな重みがあります。愛なんて吹けばどっかに飛んでいくんだもんね。

吹田市 山本希久子

預貯金と寿命バランスとりながら

(評)本当はお金が無くなるのと命が尽きるのが同時であればいいんですが。こればっかりはねえ。

丹波篠山市 酒井 健二

最期まで損や得やとやかましい

(評)人間、生きてるあいだはどうしようもないみたいです。続きはあの世で、と言えればいいんですけど。

可見市 板山まみ子

つまらない事で悩むな青い空

(評)くよくよしている時、ふと空を見

上げれば青い空。まるで自然の大きさに諫められているように思えます。

西宮市 福島 弘子

そばにするかうどんにするか雪雉い

(評)寒空に身体を温めてくれるのはうどんかそばか、あつたかーいおつゆにすればどっちだっていいんだい。

大阪市 森 廣子

日暮れまで父と一緒の遊園地

(評)母との思い出より、たぶん数少ないだろ父との思い出、なぜか辺りはセピア色、切なさが募ります。

横浜市 菊地 政勝

父さんに叱られ母に励まされ

大阪府 古今堂蕉子
ソロキャン地球を一人占めにする
弘前市 福士 慕情

甲乙がつけ難いから二兎を追う

堺市 坂上 淳司
見比べて交互に選ぶ形見分け
尼崎市 清水久美子
今更に無いと思う男運

河内長野市 山岡富美子

金魚売りそんな時代もありました

弘前市 高瀬 霜石
共和党でも民主党でもないコロナ
池田市 上山 堅坊

地震にもバランスをとるノッポビル

枚方市 藤田 武人
昭和史を飾る我らのキャンディーズ

尼崎市 近兼 敦子
本当の答えはボクの中にある

米子市 八木 千代
ビタゴラス様とお見受けいたします

大阪市 平井美智子
妻という椅子軋ませている夜更け

唐津市 仁部 四郎
子宜わくバランスこそが人生だ

土佐清水市 辻内 次根
軍事バランスの狭間で考える

鳥取県 山下 節子
親と妻ヤジロペーでは安泰だ

池田市 太田 省三
広大な森を相続秘境の地

大阪市 江島谷勝弘
経済も大事ですけど先ず命

榎原市 居谷真理子
タワーより通天閣はぬくいがな

香芝市 大内 朝子
万物へ公平に射す日の光

大阪市 田中ゆみ子
平均的市民で退屈な日々だ

箕面市 酒井 紀華
恋人がふたり居ますのバラと菊

奈良県 長谷川崇明
喝采を浴びて始まるこの試験

東京都 川本真理子
ボクの中のアリとキリギリスを量る

仙台市 月波 与生
善悪で計れぬときは好きかな方

大阪市 柴本ばつは
天秤で調べています毒の量

箕面市 出口セツ子
A判定信じ挑戦する受験

神戸市 奥澤洋次郎
延べ棒がなかったかいな金高値

鳥取県 斉尾くにこ
リラックスすれば崩れるチョモランマ

防府市 坂本 加代
再会に高鳴る胸は震度3

松山市 郷田 みや
誤差少し大目に見てもいいですか

神戸市 みぎわはな
顔と金どっちも欲しい現代っ子

鳥取市 山下 凱柳
おばちゃんの眼はしつかりと見えています

藤井寺市 鴨谷瑠美子
ねじ一本あれば完成するお城

米子市 後藤 宏之
真ん中に軍配あげた行司A

岡山市 永見 心咲
ヒマラヤに物干し竿を掛けて完

三田市 北野 哲男
上院の採決同数なら議長

松山市 柳田かおる
選ぶのはどちら私が試される

尼崎市 藤田 雪菜
また一つ夢を拾って歩き出す

大阪市 寺井 弘子
春近し五感も五味も研ぎ澄ます

佐賀県 真島久美子
B型の男を監視しています

枚方市 栃尾 奏子
良心がほんのすこおし重かった

米子市 池田 美穂
あと一つ札束積んで黙らせる

大阪市 小野 雅美
自分史の表紙明るい色にする

三木市 山口ヨシエ
ていねいに一日を織る春おぼろ

八幡市 武田 悦寛
止まらないポテトチップス午後3時

香芝市 山下 純子
砂金とりめざせ名人大富豪

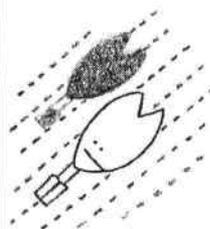
大阪市 高杉 力
シーソーの軸のあたりに母がいる

堺市 澤井 敏治
尻尾さえ切れば私は生きられる

倉吉市 牧野 芳光
比べてもさして変わらぬ辛不幸

尼崎市 永田 紀恵
いつまでも寝たふりできぬ腹がへる

5月号発表
(3月15日締切)



(平本 霧石人 画)
柳箋に2句

二〇二一年（令和三年）

一月本社誌上旬会

投句者246人

兼題「お洒落」

齊尾くにご 選

オードリーの泥棒ならば大歓迎 大阪 大島ともこ

着倒れの京都で育ったのア・タ・シ 兵庫 山田美春日

お洒落してもどこへも行けません 青森 小野 澄子

さりげなくマフラーだけのペアルック 鳥取 新家 完司

ブランドの口紅塗ってするマスク 山口 上村 夢香

マスクに刺繍ちよっとお洒落に決めてみる 大阪 片山かずお

カラフルなマスクお洒落の顔並ぶ 大阪 佐々木満作

お洒落して妻は行き先明かさなない 大阪 片岡智恵子

お洒落だが何と気になるご挨拶 岡山 椎葉 勉

公園はまるで仔犬のファッションショー 大阪 廣田 和織

逢う人の序列知ってる化粧台 富山 伴 よしお

昨日今日明日もウィッグ変えて出る 岡山 藤澤 照代

化粧箱ひっくりかえし探す紅 兵庫 野口真桜子

お洒落した言葉遣いで初デート 三重 竹島 晃

老いの恋お洒落心を呼びさます 岡山 戸田まさこ

お洒落して会いたい人はみな遠く 兵庫 吉村めぐみ

荒れた手に母のお洒落は桃の花 大阪 山野 寿之

お洒落して競いあつてるケアハウス 大阪 きとうこみつ

お洒落した写真の母の背が丸い 大阪 中島 一彌

八十路坂背筋を伸ばすのがお洒落 大阪 松岡 篤

恋詩集抱えて百歳のおしゃれ 大阪 平井美智子

素の私壊さぬように薄化粧 大阪 北川ヤギエ

スーツ捨てやっとお洒落ができました 大阪 秀 斧

街並が変身をした歳の暮れ 鳥取 山本ふみ子

ミステリー秘めたお洒落な家のツタ 奈良 渡辺 富子

ランナーのピンクシューズに見るお洒落 大阪 碓氷 祥昭

検眼五分フレイム選び一時間 大阪 今村 和男

お洒落して来たので焼芋は遠慮 愛媛 黒田 茂代

病床で米寿の母が紅をさす 兵庫 福田 好文

定年に見れば遊び着ないタンス 兵庫 奥澤洋次郎

ベレー帽は黒肩には赤とんぼ 兵庫 緒方美津子

花柄の杖とハルカスを散歩 大阪 高田美代子

さりげないコーディネットに一時間 山口 坂本 加代

バレンタインちよつとお洒落な句を贈る 兵庫 大坪 一徳

今風にちよつと小粋なお葬式 兵庫 生田 頼夫

断捨離に敗者復活するお洒落 岡山 清水 克俊

クラス会プレタポルテが物静か 広島 松尾 信彦

お洒落してお好み焼を裏返し 大阪 谷口 義

お洒落だと誉めれば寝巻きだと言われ 大阪 江見 見清

ハイセンス見せるマスクとエコバッグ 兵庫 岸田 万彩

ジーンズをはいて行くんだ老人会 兵庫 敏森 廣光

百歳のすみれの花が誇らしい 大阪 酒井 紀華

帯止めのおかめひよつとこ粋な人 愛知 小松くみ子

お洒落って鼻にも耳にも穴あける 岡山 大石 洋子

錯角の美学頼りにするおしゃれ 大阪 澤井 敏治

グレーヘアあなたらしさが素敵です 兵庫 上田ひとみ

おめかしは淑女紳士の代名詞 大阪 阪本 秀子

コロナ逃げるほど思いつきのお洒落 大阪 阪本 昌紀

メリージェーン聴くときだけのブランドー 島根 石橋 芳山

ダイヤよりもベルシャ猫の瞳に負ける 兵庫 みぎわはな

マスクの上ベティーのような付け睫毛 兵庫 幸田 厚子

父が逝き日ごとお洒落になった母 兵庫 山田 厚江

住

休会が続きお洒落ができません 岡山 工藤千代子

千円の床屋で仕上げ恋に会う 徳島 小畑 定弘

着飾って出かけたいたいの寂しい日 京都 山田 葉子

紳士たるお洒落くどくど愚痴らない 兵庫 糀谷 和郎

お洒落した跡です晩秋の案山子 広島 笹重 耕三

人

匿名という名でボンと寄附しはる 兵庫 太田としお

地

服に合わせて二十四色あるマスク 広島 村上 和子

天

断捨離をしました生き方のお洒落 大阪 荻野 浩子

軸

刺繍するところの皮膚の薄いとこ

兼題「ぼろぼろ」

杉野 羅天 選

ポロポロと散る花びらも春を待つ 奈良 長谷川 崇明

ぼろぼろの涙に弱い男ども 大阪 江島 谷勝弘

慰めたらあかん涙が落ちてくる 大阪 鈴木 栄子

ハクシヨンで前歯二本を吹き飛ばす

大阪 谷口 東風

涙ぼろぼろ I C U から帰還

岡山 清水 克俊

幼児がぼろぼろ話す内緒事

和歌山 石田 隆彦

匙老いてポロポロこぼすこはん粒

大阪 太田扶美代

榧の実ぼろぼろ遠い日の道下校道

兵庫 奥澤洋次郎

ぼろぼろと二歳のこはん握り箸

兵庫 萩原 狸月

山茶花のぼろぼろお隣の噂

大阪 田中ゆみ子

離職する看護師ポロポロと本音

大阪 荻野 浩子

パンの屑こぼして父は国憂う

兵庫 山崎 武彦

穿ればぼろぼろ嘘の二つ三つ

大阪 初代 正彦

妥協してぼろぼろ消えていく意欲

大阪 小野 雅美

ぼろぼろと記憶が欠ける昨日今日

宮城 木田比呂朗

ぼろぼろと涙重ねて海の青

兵庫 稲角 優子

満月のしずくクラゲになりました

奈良 居谷真理子

ぼろぼろと時を零した悔いがある

大阪 中村 恵

降水確率ゼロへぼろぼろ降ってきた

愛媛 黒田 茂代

食べ物ぼろぼろ零す老いの膳

奈良 木嶋 盛隆

ぼろぼろと本音が漏れる三回忌

兵庫 長川 哲夫

あの何かこぼれています心から

東京 川本真理子

ブツツリと真珠飛び散る胸さわぎ

愛知 小松くみ子

失言がぼろぼろマスコミが拾う

広島 笹重 耕三

しぶちんが泪流して悔しがる

和歌山 三枝眞智子

蓋がこわれたばあちゃんの涙壺

兵庫 緒方美津子

マスクでも隠せはしない恋心

兵庫 上田ひとみ

読書百回鱗ぼろぼろ落ちて行く

大阪 坂上 淳司

ぼろぼろと欠ける歯列も友達も

鳥取 新家 完司

網目からぼろぼろ助かった魚

大阪 藤村 亜成

ぼろぼろと愚痴を並べてみる墓参

広島 田辺与志魚

ドンマイの声が飛び交う草野球

大阪 阿部 俊八

カツ丼に負けてぼろぼろ吐く余罪

兵庫 梶谷 和郎

ぼろぼろと歳をこぼして生きてます

大阪 谷口 義

ぼろぼろと流す涙にある甘え

大阪 森田 旅人

想い出ぼろぼろ零れて黄昏れる

広島 小川 道子

涙ぼろぼろ私綻びだしてきた

兵庫 中岡千代美

中流の意識ぼろぼろ剥けている

広島 田中 敬子

ぼろぼろと山羊さん真似ておすこやか

佐賀 仁部 四郎

飯粒を零した母よそれでよし

大阪 柿花 和夫

ぼろぼろの涙は喪服脱いでから

大阪 石田ひろ子

ぼろぼろと涙落せる膝恋し

鳥取 岡崎美知江

御堂筋銀杏並木へ笈持つて

兵庫 みぎわはな

ぼろぼろと浮かぶレシビで生きている

兵庫 米田利恵子

酒の席ぼろぼろこぼれ出す本音

佐賀 坂本 蜂朗

ぼろぼろとうすれる脳が憂つてる

兵庫 福田 正彦

八ツ手の花ぼろぼろわたしも泣きたいの

奈良 安土 理恵

ポロポロと箸と口とのタツチの差

大阪 横山 里子

フランスパン品よく食べたはずなのに

奈良 大久保真澄

飯粒が散らかす俺を馬鹿にする

兵庫 生田 頼夫

議事堂にぼろぼろ嘘がこぼれ落ち

大阪 水野 黒兎

悲しみの極みぼろぼろ涙出す

大阪 西出 楓楽

佳

過去剥がす明日の私になるために

大阪 石田 孝純

ぼろぼろとこぼした愛が跳ね回る

鳥取 伊塚美枝子

指硬くなってぼろぼろよくこぼす

大阪 樋口 眞

被害者にばかり冷たい雨が降る

青森 高瀬 霜石

ぼろぼろの涙が覗く胸の奥

大阪 上山 堅坊

人

舞台裏のピエロの涙君知るや

大阪 高杉 力

地

鳥取の砂像は北風へ向かう

鳥取 斉尾くにこ

天

こぼれ出た言葉散らかり長い冬

兵庫 富永 恭子

軸

人間陶冶垢ぼろぼろの術ならん

兼題「数」

三浦 強一 選

数々の無礼を詫びる舌の先

兵庫 生田 頼夫

四捨五入すればびっくり九十だ

大阪 川端 一步

賽銭の五円も同じ鈴の音

岡山 藤澤 照代

三十六度五分と毎日書く日記

青森 高瀬 霜石

九十九折りいくつ越えたか指を折る

大阪 東 敬朗

愚痴の数ふえて自粛の年が暮れ

大阪 山本希久子

一・二・三隣発力を持つ数詞

大阪 森田 旅人

数病と折り合いをつけつがなし

大阪 増原 文子

悔いの数他人の指も借りている

兵庫 野口 修

数打って当てた男と五十年

大阪 横山 里子

音数を読む指ことは拾う足

鳥取 斉尾くにこ

指握る袋の中のふぐの競り

大阪 中島 一彌

ガラケー派また一人減り二人減り

京都 山田 葉子

計算通りリュウグウ砂礫持ち還る

大阪 丹後屋 肇

早春の風を五感が受けとめる

愛媛 黒田 茂代

数字には弱くて貯まらないお金

大阪 出口セツ子

未知数だと言われファイトが燃え上がる

大阪 藤井 則彦

場数踏みリーダーの舌よく滑る

福井 羽生 悦郎

私かて数に入れてと潜りこむ

大阪 入江 秀雄

小さな手クリスマスイブ数えてる

大阪 玉山 智子

数列に私の首がひとつある

大阪 太田 昭

数の内それだけでよい趣味仲間

兵庫 山内 迪

恋をする数が命を輝かす

大阪 鈴木 栄子

感染者のグラフが伸びる闇の中

和歌山 木本 朱夏

周波数妻と合わせてから平和

大阪 伊達 郁夫

正道を逸れ多数決大手振る

大阪 田中ゆみ子

数の子の数あるひと粒の命

大阪 藤村 亜成

握手した数を味方と見た誤算

兵庫 山崎 武彦

ひとつでいいんです良いところあれば

大阪 岡本 遊風

年だから好かれるように返事する

和歌山 村中 悦男

新札を三度数えてお年玉

兵庫 緒方美津子

一ミリに拘る人の細い指

大阪 内田志津子

分かち合う数には心とけている

大阪 阪本 秀子

ライバルに薬の数は負けてない

大阪 村上 玄也

役者でも七つボタンは苦しかろ

大阪 太田 省三

脳トレにひと日の終わり九九唱え

兵庫 富永 恭子

偶数が好き割り切れる事が好き

大阪 富田 保子

ばあちゃんの脳トレ数独に嵌まる

大阪 佐々木満作

数学は苦手金勘定は得手

大阪 古今堂蕉子

とりあえず一点豪華主義でいく

東京 川本真理子

一番好きなのが真っ白なご飯

大阪 谷口 義

なぜかしら応援したい少数派

大阪 西田喜代志

一本のタクト無言で呼ぶ歓喜

大阪 藤田 治雄

字余りも字足らずもある人生譜

広島 小川 道子

十本の指で数える唄がある

奈良 安土 理恵

勝算は裏で渡した館の数

広島 松尾 信彦

六番目で待つ方舟定員五

奈良 大久保眞澄

算数は1でも体育は5です

埼玉 中島 通則

感染の数へメルケルさんの檄

大阪 鈴木いさお

村あげて一人を送る卒業歌

二人だから掛け算だった青春期

六文を残して後は使い切る

佳

算数が数学になり声変り

星一つ増えてわたしの母が逝く

因数分解しても解けない恋ごころ

千両の笑の数ほどの幸福度

手不足も医療現場の使命感

人

太陽を貰う一人に一つずつ

地

皺の数少し笑いが過ぎたよう

天

あと一つ折れば飛び立つ千羽鶴

軸

歳の数食べ切れません鬼は外

兼題「キユン」

はやぶさ2の帰還が胸をつまらせる

徳島 小畑 定弘

大阪 石田 孝純

大阪 森 廣子

兵庫 萩原 狸月

大阪 中村 恵

大阪 山岡富美子

兵庫 上野多恵子

大阪 内藤 憲彦

大阪 平井美智子

島根 伊藤 玲峰

福井 西谷 公造

岩田 明子 選

大阪 碓水 祥昭

まだ生きていけるわ炭治郎にキユン

コロナ禍の白衣に胸がキユンと泣く

グレタさんの環境訴える言葉

コロナ禍に失業野宿する姿

会えぬ孫動画で届くメッセージ

災害の爪痕という孤独な死

きいつけて孫のラインでバアはキユン

今日こそはキユンを仕込んで紅いバラ

触れられた手からほんのりピンク色

マスク取るまではキユンキユンしてたのに

幼な子の画用紙いつも母の顔

真心に触れてたちまちキユンと来る

愛の賛歌今もキユンとするのです

かたづけを始める胸がキユンとなる

障害を越えて得意の道を行く

キユンキユンで結婚したらマザコンで

キユンキユンキユン連れ帰つてと鳴く小犬

顔じゃなく優しい人に今はキユン

感動のラストシーンを再度見る

大阪 田中ゆみ子

大阪 山岡富美子

大阪 村上 玄也

奈良 宇賀 史郎

兵庫 新阜 義明

兵庫 緒方美津子

大阪 山内規子子

青森 むらのひとり

大阪 小野 雅美

大阪 谷口 東風

大阪 入江 秀雄

大阪 樋口 眞

兵庫 中岡千代美

奈良 安土 理恵

大阪 石田ひろ子

大阪 平松かすみ

大阪 齋藤奈津子

大阪 宇都満知子

大阪 大浦 初音

メールならハートマークも送ります

兵庫 能勢 利子

叶っても叶わなくとも恋は恋

青森 高瀬 霜石

泣きべそが運動会でVサイン

大阪 松岡 篤

似た傷を持つ人と知り胸がキュン

大阪 太田扶美代

ときめきは君と出逢ったその日から

兵庫 山崎 武彦

天国のあなた思えば今もキュン

奈良 大内 朝子

カトレアに胸熱くするまだ若い

宮城 木田比呂朗

さりげなくやさしい声をかける人

山口 上村 夢香

パヴァロッティ何度聴いても胸がキュン

大阪 西出 楓楽

ときめきじゃなかったみたい心電図

青森 稲見 則彦

献血の命のリレーつなぐ列

大阪 穂口 正子

髭面のパパが坊やをあやしてる

兵庫 住吉美和子

壁下のあなたに胸キュンのわたし

大阪 阿部 俊八

ママと呼ぶ声に母性をくすぐられ

神奈川 加藤 佳子

部下からの花束受けた退職日

大阪 西田喜代志

振り向けば心残りのシルエット

大阪 中村 恵

元気かと思わぬ人の初電話

兵庫 上野多恵子

エレベーターなんと美魔女と二人きり

大阪 中島 一彌

たらればがホントになった老いの恋

大阪 増原 文子

雛を抱く羽は大きく暖かい

兵庫 富永 恭子

婆様のマスクを直すお爺さん

兵庫 松本ゆかり

トキメキは前ぶれもなく落ちてくる

鳥取 斉尾くにこ

ときめいた思いをしかと抱きしめる

奈良 渡辺 富子

足音がわたしの胸を締めつける

兵庫 みぎわはな

不安です僕の辞書には「キュン」がない

佐賀 仁部 四郎

ただいまを花が待ってた誕生日

兵庫 萩原 狸月

カラスから必死に我が子護る猫

大阪 鈴木 栄子

佳

七十の夫へときめいています

和歌山 柏原 夕胡

サファイア婚薔薇一輪のメッセージ

大阪 石田 孝純

恋です胸に響きたいいい返事

大阪 内田志津子

少しいびつな手づくりチョコをくれた君

大阪 山本希久子

寂聴の教えにいつも胸がキュン

大阪 川端 一步

指切りの指の先からする動悸

兵庫 野口 修

この恋を想い出になどするものか
ケンカしたまさかの友が来る見舞い

兵庫 上田ひとみ
大阪 藤村 亜成

白杖へつくすペットのつぶらな目
歓喜の歌一万人の一の僕

大阪 津守 柳伸
大阪 吉村久仁雄

人

一本のバラとワインとラブレター

大阪 植野 繁子

母さんの糠漬けの味変わりなし

大阪 岡田 和枝

一徹で寡黙な父の頼り甲斐

広島 村上 和子

地

ラストダンス僕でホントにいいですか

大阪 北川ヤギエ

安心の形に父がかく胡坐

大阪 平井美智子

天

寒いねえ逢いたいねえと来たメール

大阪 美馬りゆうこ

阪神が勝ったビデオを見ています

奈良 木嶋 盛隆

軸

絶版の書に古書街で巡り合う

二週間平熱味覚異常無し

大阪 坂上 淳司

青信号でも安心は禁物だ

大阪 津守 柳伸

若葉マークが戻り居間にも笑みが出る

大阪 片山かずお

五欲まだ安心の壁越えたがる

大阪 中村 恵

万歳が済んで自由になる幹事

鳥根 中筋 弘充

時価のない寿司屋で友と酒を飲む

大阪 鈴木 栄子

安心と不安軋揺れやまず

大阪 西出 楓楽

千手菩薩の妻が我が家を仕切ってる

大阪 吉村久仁雄

五十年つづいた友がいちばんや

大阪 江島谷勝弘

一年中スノータイヤをつけている

鳥取 新家 完司

ありがとう亡夫の日記みて安堵

大阪 平松かすみ

徒歩二分コンビニ出来て生き延びる

岡山 工藤千代子

兼題「安心」

小島 蘭幸 選

退院の妻を迎えて初春祝う

大阪 川端 一步

ラインから元気な孫の声届く

大阪 松尾美智代

免許証を返納父からのメール

兵庫 緒方美津子

じい・ばあちゃんごめんネ帰省止めました

兵庫 幸田 厚子

歩けるし酒は呑めるし妻元氣

兵庫 堀 正和

セーフティゾーン妻との三が日

兵庫 長川 哲夫

戦せぬ九条を持つ国に住む

大阪 平賀 国和

年金に貯蓄もあるぞ二千万

福井 西谷 公造

定刻にかえるコールが鳴りました

兵庫 山田 耕治

三角錐底にどんと妻がいる

大阪 古今堂蕉子

心配が無くなり急に老け込んだ

大阪 鈴木いさお

駐輪場に灯が点いただけのこと

大阪 高田美代子

親戚に医者和尚がいる安堵

大阪 伊達 郁夫

戸締りはしたし女房旅行だし

兵庫 奥澤洋次郎

安心を擲る毎朝の説経

大阪 丹後屋 肇

安心のできぬ男だから任す

大阪 井丸 昌紀

トラ優勝までは禁酒という夫

大阪 澤井 敏治

日本には世界一の富岳がある

兵庫 福田 好文

手術室笑みを浮かべて出る白衣

福井 羽生 悦郎

再放送美空ひばりも若かった

兵庫 斎藤 隆浩

ほっとする度に毛皮を脱いでいる

長野 西沢 葉火

佳

兵庫 斎藤 隆浩

安らかにになった抜け殻にもなった

鳥取 八木 千代

補聴器を外せば何も恐くない

兵庫 山崎 武彦

東京の空頑張っているらしい

大阪 高杉 力

安心がほしくて結婚を決めた

兵庫 山田 厚江

わたくしの明日へ杖も肩もある

広島 笹重 耕三

安心が届いた歳末のポスト

大阪 太田扶美代

老老介護妻が約束してくれた

宮城 木田比呂朗

この世には安心できる場所はない

岡山 藤井 智史

つながっている安心をして眠る

和歌山 木本 朱夏

メタボでも七福神になる布袋

大阪 藤田 治雄

三階の我が家明かりがついている

大阪 田中ゆみ子

人

大阪 藤田 治雄

入室可三十六度五分でした

鳥取 斉尾くにこ

陽だまりがあった 笑い声があった

青森 高瀬 霜石

食卓に家族四人の箸がある

大阪 山岡富美子

地

奈良 居谷真理子

クラスター避けて一人の忘年会

大阪 川口 明

辞世の句でできたお次は恋を詠む

奈良 居谷真理子

嫁はんや言うて安心出来まへん

兵庫 太田としお

天

奈良 居谷真理子

筆筒には常に諭吉が二千枚

兵庫 生田 頼夫

この服を着ると安心するのです

大阪 谷口 義

古い二人今日もコロナを無事回避

鳥根 原 徳利

軸

大阪 谷口 義

安心を数える指が足りません

鳥根 石橋 芳山

熟睡が出来るはがきをいただいた

冬也

毎月24日締切・35句以内厳守
掲載は原稿到着順となります。
楷書で誤字のないようにお願い
いたします。
編集部

川柳塔みちのく(青森) 稲見 則彦報

裸婦像の無窮に宿るふくよかさ 隆樹
ふくよかな乳房を吸って安堵の児 初枝
マネキンの釣合とれぬ胸の位置 則彦
逝くときは逝くふつくらも瘦せすぎも のぶよし
嗚呼夕日人魚に恋をしたようだ 黙人
ふくよかな音色広がるコンサート 真由美
ふつくらは志功女神にまかせよう 柳子
ふくよかに煮えたとら豆お隣へ ふさゑ
根の折り叶えてくれた大輪だ 荔
四十路過ぎ焦った気持どこへやら 澄子
おいしいと誉められ野菜つい配り 英子
熱爛の酔い本当のことを云う 花峯
ボジティブな汗がかけない病み上り きよし
吉日に式あげたから続いている 孝子

ふくよかなおっぱい大好き赤子たち 京子
自爾後の顔見た鏡笑ってる 重虎
あの時のあの真つ白なにぎり飯 霜石
ゴールが見えぬ一生だから焦らない 洋子
勝焦り丸い土俵に落し穴 一呑
口角を上げて吉運呼び寄せる 風来坊
焦るでないイイ男なら星の数 和香子
棟方の女人画像のふくよかさ 慕情
雪囲いつばみ安堵の息づかい 美鈴
平凡を吉日と読みのんびりと 規子
訂正印焦り始めた脱ハンコ ひとし
ふくよかと言えば私も救われる 吹喜
吉と出すおみくじ何の罪もない 龍馬
りんご挽く若妻たちは吉祥天 ひろ
赤ちゃんの声が聞かれぬ過疎の町 呑舟
試験官焦る手汗をじっと見る 友二

はびぎの市民川柳会(大阪)藤原 大子報

デバ地下の高級おせち観て帰る ちづる
山羊を掘って途中でギブアップ 洋一
地下鉄に乗って通った小学校 一文
退社ベルすかさず地下の暖簾街 久仁子
地下鉄はモンローのすそ吹き上げる 正義
呼びかけも控え目に地下街のセーラー 美籠

へそくりはこっそり地下に埋めてある こみつ
オキナワの地下に数多の霊眠る みつこ
地下鉄の鏡がわりに見ている窓 宏造
夜のホテル昼はメトロの奥の奥 理恵
地下鉄を上げれば九条ミュージック いさお
地下に眠るまでの歳月まだ続く 瑠美子
地下足袋は祖父のシンボル瓦葺き ゆみ子
市役所の地下食堂という穴場 久仁雄
余り寒いので冬眠中と札つける 扶美代
兄弟愛失わされる億遺産 冬のト
何も彼も失ってから目が醒める 美代子
親亡くし愛の深さを思い知る ひとみ
会う機会コロナ邪魔したクラス会 千鶴子
失業が増えてコロナの罪深し かつ美
コロナ禍の失業救済は自前 一歩
いやいやをしながら髪が抜けていく さくら
失恋のたんびに怖くなる女性 まつお
失ってはじめてわかる深い愛 フジ
いいんです一人はぼっちが好きだから 勝弘
つらいである悔しいだろう店閉じる シルク
失った方がサバサバする自信 専平
失うも覚悟で友に言う意見 大子
風の向き気にして私見失う ダン吉
失って知る平凡と言う宝 ひろ子

竹原川柳会(広島)

古田比呂子報

認知症宇宙行ったり来たりする
未だ出来るもう限界と揺れる農
地球儀を丸ごと揺らすコロナ菌
ローソクの炎の揺れは母の笑み
泣いてるか笑っているか揺れている
決心が揺れると風に叱られる
行く道の限界を知る曲がり角
人生の曲がり角かも墓洗う
迷いつつついには決める曲がり角
ネクタイを直し結婚申し込む
曲がり道登って山頂空と風
忘れても良いことばかり覚えてる
雑草の力だ春を忘れない
今置いた鍵忘れるな忘れるな
セーブすることを忘れてる財布
雑踏の中に心を置き忘れ
一つずつ忘れて一つずつ老いる
政治家の忘れ上手は許せない
甘め味噌に変えてはっこり根菜汁
心せく日の車椅子のストレス
辛丑カウベル響く虹の丘

輝 恵
弘 子
幸 子
慶 子
蘭 幸
鬼 焼
節 生
笑 子
夢 香
淑 子
京 子
宣 之
比呂子
千代美
栄 香
敬 子
昭 紀
節 夫
歩 美
貞 子
厚 子

せつかな私マイペースなあなた
かみをのばしますくびがさむいから
史 子
五 歳 ち か

和歌山三幸川柳会

西川 千鶴報

一番の敵が心の隅に棲む
愚痴聞いてくれるコップは離せない
青かったみかんが熟れて嫁に行く
久々に文化手帳を読み返す
この先も手探りながら歩む道
温暖化ガラスコップに四季がない
なみなみと注ぐほどうまいコップ酒
何があろうと妥協はしないマイコップ
ネイティブの魂宿る食文化
年毎に金木犀は香り立つ
文化の日馴れぬマンガにふれてみる
食べ頃を知って狸のみかん狩り
赴任地へあれこれ詰めたみかん箱
明日の絵の中にコップを二つ置く
同じ木のみかんも個性ある糖度
言の葉の深さに溺れ昏黄れる
コップ酒同じ小言をまた言わす
色付いたみかん絵となる唄となる
敏 照
菜 摘
昭 枝
かず子
八重子
美枝子
当 代
日 出 男
一 雄
ま き
ひろ子
宏 枝
幹 子
起世子
純 子
智 三
准 一

鈴木 いさお 選

この話したかと聞いてから喋り
生きるのも死ぬのも金の要る話
女僕ですたまに詩人もしています
人好きになつてだんだん若がえる
安来節も貝殻節も踊れます
買った女の顔で生きてゆく
乳の張り置いて来た子が責めている
大空へマスク外して深呼吸
居ないのに娘の部屋を覗いてる
家族みな違う寒さを持ち帰る
シマ子
加代子
ひとみ
一歩
くにこ
瑠美子
輝 恵
万紗子
桐 子
弘委智

佳句地十選

(2月号から)

上田 ひとみ 選

ローン完済建具が淡くなり出した
日曜日さらに虫歯が疼きたす
青空の奥から溜息が洩れる
グーグルでそっと見てます元の家
いい人だ点滅しだす恋心
多数派に遠くで拍手だけ送る
冷やかな体温計の指示を待つ
十二月夫の電池入れかえる
白い息吐いて切り出す貸した金
録画しておきたい程の夢でした
慕 情
重 忠
芳 山
宣 子
まつお
ダン吉
一 平
ゆみ子
弘委智
良 種

握手した途端に消える蟬り
お譲りをします私の静電気
富香 打ち水に万来願う招き猫
志津子 オイコラに反骨の血が騒ぎ出す
俊雄

芒が原まだ迷路から抜けられぬ
和子 打つ手みな使い果たして旗下ろす
公誠 裏方の黒子の胸にある誇り
満作

身のほどをわきまえてる紙コップ
理恵 むらむらと又満塁にゼロの虎
直子 白黒は閻魔につけてもらいましょう
久仁雄

乾杯の下戸にも持たず紙コップ
保州 サイコロを見てむらむらとする病
郁子 板切れかと思う魚が膽に乗る
シマ子

保存地区文化の匂いする微風
義泰 短気ですいらちですすぐ怒ります
勝弘 タイガース大物指名ドラフト1
小枝子

働いた汗に乾杯コップ酒
明子 バイデンの壁にハリスがなる覚悟
晴男 くらむらとこみ上げてくる一言が
重信

もつたいない精神わたくしの文化
知香 いは黒子ソバカス増えて皺ふえて
里子 むらむらとしても上司に逆らえず
五月

さりげなくコップの中の嵐だと
ダン吉 任命拒否むらむら怒りこみ上がる
いさお 適当に打ったあいつち墓穴掘る
大子

縄文の遺跡に文化意識見る
みつ江 黒一色派手にもなるしシツクにも
舞夢 南大阪川柳会 松岡 篤報

コ罗纳桐へ文化継承記事にする
眞智子 共に古い壁も無くなる嫁姑
妙子 一ヶ月会わぬと伸びた孫の背な
あや子

計量カップおいしい味をさがします
悦男 白壁に落書きするなど書いてきた
まつお 曲がり角背伸びしてきた日本国
国和

隆盛を想い切りに酒を注ぐ
彦弘 老いてなお最後に残る高い壁
萌 甘い物禁止されてもちよとだけ
直子

選別にもれたみかんの旨いこと
よしこ 黒い服が好きや細う見えるもん
昌紀 九ヶ月前に予約の花芽出す
東風

豊作も不作も困るみかん業
剛 壁の耳隣の爺は聞いているな
たかこ 極楽にもう予約席取っておく
ルイ子

方言も地方に残る文化です
康則 壁幾度とっこいこらしよ四股を踏む
ふりこ 彼岸への旅の予約の列にいる
志華子

自己主張し過ぎませんか青蜜柑
千鶴 白と黒混ぜて玉虫色にする
克博 研いだけど炊飯予約押し忘れ
柳右子

すみよし川柳会(大阪) 古今堂蕉子報
美世子 白壁が夕日に映えて胸を打つ
廣子 三月ごと歯医者うれしくない予約
通江

壁の向こう楽しそうだな笑い声
進 太鼓打つごとくに授乳期の乳房
裕之 おはようとおやすみなさい明日も又
よしみ

世の中の壁にぶつかる白い杖
進 頬を打つ雨は私の罰なのか
朝子 コロナ重症センター予約できまへん
昌紀

札の束いっしか黒を白にする
ゆみ子 意思弱く手の打つ方にすぐ靡く
玄也 来年も豊作祈る木守柿
柳伸

思い出は皆美しい壁のしみ
ゆみ子 白黒をハッキリしたら友が去り
としお 刺一つささったままの恋終わる
弘子

ひさ乃

ひさ乃

ひさ乃

もう少し終わりがたくない今佳境

勝弘

会える日の幸せ気付くコロナかな

裕子

ふる里の山河に詫びて暮しまい

敏治

しみじみと飲みたい友が陽性だ

照彦

川柳ふうもん吟社(鳥取)山下

凱柳報

好きやねんと母はいつでも終い風呂

一步

捨てられず溜まるばかりの包装紙

公恵

ジグザグの縫い目はおしゃれマイマスク

幸子

年内にまだしたきこと二つ三つ

弘委智

大根を包まず置いてくれる留守

重利

ジグザグに歩け行く先決めてある

善平

おだてられほろほろこぼす隠しごと

亜成

川柳に包み込まれて心晴れ

紀子

ジグザグに壊れたハート温める

真理子

ぼろぼろと出てくる夫の隠し事

満作

屋根包むブルーシートに雪が降る

重忠

ジグザグの列が正義を主張する

金祥

あれもこれもとほろほろ涙家処分

シマ子

はやぶさが宇宙のチリを持ち還る

富隆

放置した愛の傷跡消せません

隆浩

ボロボロの涙に嘘も二つ三つ

ダン吉

包み紙なくてもよいと袖の下

滋

玄関に放置されてる午前様

振作

ネットからぼろぼろ洩れるセキユリティー

博

柚子の香が包む至福の仕舞風呂

龍枝

タンポポが語ってくれた放浪記

八千代

コロナ禍で預金ボロボロ減つて来て

篤

故郷を包む大きな冬の虹

美ツ千

コロナ禍に蟹もマスクをしてもらう

蟹郎

投函し達成感がわいてきた

峰子

一括りから食み出す少年の野心

三津子

酒の力を借りて堂々と書く

一粹

飽食のカラス見過ごす木守柿

歌留多

経済も情も絆も抜けた冬

野蒜

童謡の花は時代を超えて咲く

美恵子

納得はしないが多数決だから

いさお

コップ酒愛が底から語りかけ

紀美恵

私の助っ人スマホ抱いて寝る

天翔

愛してる朝昼晩と言わされる

克己

釜底のおこげ香ばし塩にぎり

大鯰

疑えばやっぱり愛がぶれている

惠

二枚目の舌にたっぷり砂糖塗る

楓楽

へソクリも暮れが近づき底が切れ

岳人

手伝うの一語で温い輪ができる

紫陽

年末に自粛もせず鬼が来る

実

川の底ゆらりゆらりとポリ袋

たけ代

いろはのいチケット二枚手のひらに

蘭幸

服新調店に任せて気に入った

悦子

笑顔だが心の底が気にかかる

清

天と地と話しをしよう葱坊主

拓治

地区の事協力せずに人任せ

久芽代

私には私の底がわからない

貴恵

ポケットに悪友という常備薬

美智子

任せても報告はなし気が揉める

陽之助

どん底で空ばかり見て肩が凝る

芳光

助っ人は酒の飲めない奴がいい

かずお

任せてたお耳この頃そっぽむく

美知江

どん底は今日か明日か来年か

義人

誰よりも熱烈だった母のハグ

完司

ロボットに任せて後は楽隠居

節子

今は底これからジワリジワリ浮く

完司

父の拳は下ボルザークの波頭

棒一

川柳塔打吹(鳥取)

斉尾くにお報

笑顔だが心の底が気にかかる

清

いろはのいチケット二枚手のひらに

蘭幸

服新調店に任せて気に入った

悦子

笑顔だが心の底が気にかかる

清

天と地と話しをしよう葱坊主

拓治

地区の事協力せずに人任せ

久芽代

私には私の底がわからない

貴恵

ポケットに悪友という常備薬

美智子

任せても報告はなし気が揉める

陽之助

どん底で空ばかり見て肩が凝る

芳光

助っ人は酒の飲めない奴がいい

かずお

任せてたお耳この頃そっぽむく

美知江

どん底は今日か明日か来年か

義人

誰よりも熱烈だった母のハグ

完司

ロボットに任せて後は楽隠居

節子

今は底これからジワリジワリ浮く

完司

父の拳は下ボルザークの波頭

棒一

川柳塔打吹(鳥取)

斉尾くにお報

笑顔だが心の底が気にかかる

清

いろはのいチケット二枚手のひらに

蘭幸

服新調店に任せて気に入った

悦子

笑顔だが心の底が気にかかる

清

天と地と話しをしよう葱坊主

拓治

地区の事協力せずに人任せ

久芽代

私には私の底がわからない

貴恵

ポケットに悪友という常備薬

美智子

任せても報告はなし気が揉める

陽之助

どん底で空ばかり見て肩が凝る

芳光

助っ人は酒の飲めない奴がいい

かずお

任せてたお耳この頃そっぽむく

美知江

どん底は今日か明日か来年か

義人

誰よりも熱烈だった母のハグ

完司

じんわりと痺れてきます君のハグ
にんげんを放置した神の失策

人間の子も育ててる牛の乳

誰一人線など引けぬ青い空

マスクしてみんな綺麗になりました

日だまりに放置しました風の私語

大好きな方へふらつくことにする

敗色濃厚敵陣に妻がいる

トンカツソースみたいな味の夫です

ジグザグとわが足音を道連れに

おろそかに生きるなど夕陽が叫ぶ

幸せも愛もふらつく程要らぬ

愛と憎ジグザクにくる人生譜

究極の助っ人やはり金に妻

和郎

昭紀

天遊

すみれ

かこ

仁美

せつ子

ねえね

眞澄

美ツ千

博子

楓花

一瑤

凱柳

老いの意地すんなり行かぬ低姿勢

使にくい錆びた針です頑固者

頑固です押すに押されぬ心意気

報告へ自慢も少し混ぜておく

少しでも希望を抱いて九十四

密さけて少人数で飲み会を

ギャグなのに難しそうな顔してる

ぎよっとした君も昔の美少年

もう少し生きてゆきたい観世音

何気なくすべったギャグを知らん顔

おやじギャグ横で解説する私

軽い口ギャグのつもりが火事の元

パロディー化されて私が崩れだす

逆境もギャグに変えると楽になる

富美子

晶子

ほのか

夕胡

悦男

タカ子

よしこ

明

紀子

小雪

佳子

八茶

知香

精子

靴紐は空まで伸びるスニーカー

アドリブの咄嗟満座の日本晴

スナックのママが足つけ鬨り寄る

軒下の雛の鳴き声抱いて春

微笑んだポテトサラダが皿の端

生かされて祈り果てない夕茜

指切りの指に舞ってる別れ唄

ほろ酔いでコロナ対策説く飛沫

にっこりを増やす達人母の知恵

上役がゆとり世代の世話に泣く

灯を消した今日も安堵の深呼吸

放置せずグレタの叫び温暖化

かこ

欣之

清

きみ子

由夏

幹和

常男

隆充

きよみ

良恵

章子

圭

川柳塔わかやま吟社 小谷 小雪報

富柳 会(大阪)

山野 寿之報

無洗米だけどやっばり洗います

頑固者視野の狭さに気付かない

譲らない君の痛みがよく判る

ウナギ屋の煤にまみれた換気扇

明治生まれ一筋縄でいかぬ父

ブライドの捻じれ姿か頑固者

禁煙を医者に言われてやっど止め

保州

准一

寿子

日出男

節子

和弘

尚美

潰されるままの男の体たらく

闘わせ怪獣の腕もげました

菜の花に胡麻播り潰し香の朝餉

泣いて笑って今日の暦を埋めて行く

幻想の水面に映える月の影

夫の顔潰さぬように化粧する

意固地みな潰してくれる飲み仲間

恵

武人

寿之

和子

壽峰

一文

澄子

川柳茶はしら(愛知) 関本かつ子報

七度目の干支へ恥じ入ることばかり 週行

正座した美脚の膝が痛みだす まみ子

コロナ禍にラインで友と酌み交わす 三樹夫

これからもきつと何とかなるだろう 美千代

コロナ禍に自粛で暮らし丸くなり 雅美

知らぬ間に時を刻んで喜寿の坂 かつ子

川柳塔まつえ吟社(鳥根)相見 柳歩報

輪の中で天狗になって浮いている 久絵

張り切つて派手な服着て浮いちゃった
あきら

友達のままがよかつた発車ベル
美智子

地球から逃げる逃げるよと非常ベル
芳山

真夜中のベルクリップで留める耳
とも子

時々私の位置のベル鳴らす
知恵子

螺旋階段登れば未来見えますか
桂子

階段の途中で指切りゲンマン
徳利

不揃いの手打ちの麺にある至福
米估

ラーメンを学びに来たよ中国人
瑞人

一玉の追加体力ふりしほる
青帆

黄色信号走る私と停まる友
モナカ

黄色ならお洒落着にして旅に出る
富紫美

くちばしが黄色い方に任せたら
柳歩

汁だけを搾られレモン捨てられる
みちを

それなりに黄金時代あつたかな
豊仙

たそがれの雲にみとれる枯ススキ
邦代

赤よりも心が広い黄信号
弘充

地球儀がイエローカードで喘いでいる
雪代

ブラザ川柳(大阪)

献体の覚悟今だにできずまま
正子

牛よりも豚にしといてパワハラ嫁
五月

穂口 正子報

牛歩なみ手つなぎ散歩花を見る
和代

コロナ禍を清め鎮める牛祭り
政夫

過ぎし道牛の歩みに悔いは無い
弘光

初詣体の不調牛を撫で
景子

コロナ寒波ダブルパンチで年が明け
清乃

コジユ鶏がちよつと来いよと我を呼ぶ
園子

真つ直ぐもぼつんと侘し冬木立
克三

父も牛もその目に涙出荷の日
淳司

出たおいで小春日和が呼んでいる
一彌

山彦におーいと呼ばれ返事する
悦夫

川柳塔唐津(佐賀)

新聞の一面飾る知人の死
高明

清濁を日替わりで吞むコップ酒
四郎

日の丸を掲げ変人だと言われ
蜂朗

練習の成果試合があつてこそ
實

倉吉川柳会(鳥取)

雪の日に生まれたユキちゃん三年生
鬼一

大雪でお地蔵頭重かるう
智恵子

そろりそろりまるで花嫁通る道
龍枝

雪かきを新聞届く二時前に
さちこ

竹信 照彦報

動くたびギシギシ錆びた骨の音
完司

どっこいしょ動けるうちが華です
石花菜

ありがたい口も手足もよく動く
由紀子

賽銭の音に神様起き上がる
麦青

古くても律儀に動く腹時計
野蒜

政治家は口より先に金動く
道春

朝ドラを見てから動く日課なり
祐子

めでたいな雪で清めて寝正月
風露

一人居て第九を歌う風呂の中
萩江

百歳を超え屈託のない慶び
日出子

九十四歳慶びがわく誕生日
重忠

ダイヤ婚済んで二人は染みだらけ
隆昌

米寿まで生きて慶ぶ初詣
醉芙蓉

新年の祝いコロナが消して行く
茂夫

慶びの小豆雑煮は孫子パス
玲子

和やかな夫と出合い五十年
紀美恵

僕の留守どうも我が家は和むらし
雄大

和の為と戦争をする人の業
次男

着物などついで無縁の男です
大鯨

コロナ無き平和な世界希う
凱柳

なかなかだ世界平和は望めない
けいこ

川柳は和む心で吐く名句
明友

除雪車の除雪の雪を除雪する

照彦

きやらぼく川柳会(鳥取)後藤

宏之報

花のある人には花が寄ってくる

久直

入れものでいろんな型になれる水

宏之

僕がした掃除で雨は降らせない

俊久

老眼を味方につけて大掃除

令位子

鍋奉行コロナのせいで失業だ

美穂

バスツアーしずまりすぎて夫婦旅

奈々

故障かな電池切れですほっとする

恵子

寒いのに小豆バーを食べる夫

美緒

大雪に気づかない電話ありがとう

博子

三密で本家の嫁はひまらしい

瑞枝

裏庭の千両の実がよき日呼ぶ

治代

コロナ機に御節作るの止めにする

宣子

コロナ禍もいつも通りの寝正月

汪

身体重く口は元気に働かせ

多美子

しみじみと見ればやっぱりお爺さん

紀の治

愛妻と書いてみたいな続柄

雨奇

老人は遠慮しながら生きている

千代

川柳塔さかい(大阪) 内藤 憲彦報

夏は脱ぎ冬は着脹れエコ自慢

八千代

蛍光灯水い間のエコの騎士

堅坊

エコ生活忘れぬ笑顔思いやり

蕉子

エコロジー星空キラリ満ちてくる

志津子

商品よりエコポイントを先ずチェック

憲彦

エコロジー脱原発を叫ばねば

朝子

エシカルに徹すバリコレエコロジー

敏治

小うるさい妻だがボクの宝物

いさお

お互いを宝と思う老いふたり

雅明

我が家では仲がいいのが宝物

唯教

指を折る時間脳への宝物

輝子

ここ掘れワンとなく犬飼いたいな

敬子

歎異抄こころを洗う玉手箱

満作

寶石にご縁なくとも妻逢者

和夫

宝とも気付かず無駄にした青春

扶美代

攻めてこい北風冬は冬らしく

ゆみ子

ごちそうが攻める正月のウエスト

としお

駅伝の手に汗握るせめぎ合い

廣子

柔らかな言葉の綾に攻められる

みつ江

軍艦マーチ聞くとびファイト湧いてくる

光雄

攻め方が雑で最後に躲される

玄也

新しい景色を見たいから攻める

美津子

金銀も黙る子という宝物

(横) 清

通学路日本の宝はしゃぐ声

佳子

正倉院うっとりさせる至宝満ち

憲

健康が宝と知った卒寿です

舞夢

人生の余白宝にして生きる

ひろ子

この難儀医療従事者こそ宝

満知子

失って宝だったと知る伴侶

時雄

見て聞いて噛みしめやと分かる味

五月

民話から哀しい過去が湧き上がる

進

ミスすると間髪入れずわしや知らん

素頓馬

店仕舞い感謝で客と別れましょ

みつこ

皆おいで金は無いけど輪ができる

さくら

ミスは秘書と会見しても悪あがき

勝弘

六甲川柳会(兵庫) 梶谷 和郎報

和郎報

確かめ牛歩コロナ縮みの足のばす

弘

八十路すぎ牛歩のくらし心地よい

千賀子

食べて寝て牛になってた三ケ日

道子

牛後より鶏口目指す老いの夢

廣光

川柳を牛歩で学び続く道

美恵子

天気予報狂って欲しい時もある

博

ぴったりと口うら合す内緒ごと

弘華

あなたにはわたし運命なんだもの

ひとみ

どん底でびったり添ってくれた妻
びったりとついて来た妻ただ感謝

武彦 正彦

八尾市民川柳会(大阪) 中園

清報

健康で憎しみのない明日待たれ
年一度生きてる証年賀状

三和子
おくみ

コロナ過ぎ飲めや歌えの夢を見た
だんだんと好きな物さえ控え目に

隆浩 芳江

子の寝息寝顔確かめ仕舞風呂
寒風もいとわぬ園児素手素足

信子 高鷲

孫にだけ呼ばれてもいいおばあちゃん
バーゲンセールでんやわんやの掴み合い
つんでれな猫は呼んでも知らんぶり

和代 靖博

胃カメラに企業戦士の傷消えず
無料です使い放題ポランティア

次郎 義明

コロナ終息明るいニュース待っている
賑わっていた頃思う箸二膳

清 常男

年寄りに言葉飾って騙し来る
無理をして飾る必要ない気楽

幸子 登美子

南天の赤い実鳥を憩わせる
聞いてしまった本音は胸に仕舞い込む

恭子 光久

百八つ鳴って一新する心
長い旅路を支えて曲る妻の指

欣之 耀一

飾らずにすべて本音で生きていく
口八丁飾る言葉の下心

千代 隆彦

みえすいた嘘にすがってみた私
インターネットつい道草をしてしまう

真桜子 和宏

倦怠期過ぎていつしか助け合い
冬うらら森吹き抜ける風さやか

卓郎 壽峰

八度目の干支へ敢然こって牛
履歴書に東大受験と書き加え

光弘 直樹

知らぬ間に鶴が折れなくなっている
もう一度ほしいと思う給付金

利子 公輔

間の抜けた風がわたしの中に棲む
朝の窓今日の空気の初しほり

涼子 恵

冗談は止せと払った恋や惜し
手を握り一言好きと言う勇氣

洋二 由子

大吟醸二本届いた誕生日
ありがとですまぬプレゼントが届く

正和 美穂

朝の窓今日の空気の初しほり
なりゆきの風と遊んでいる眉間

幹和 かこ

好きですと呼べど訝はかえらない
苦勞でも好いた惚れたの恋女房

和子 純風

父の日にちゃんとクロネコ来てくれた
招待状届きドレスや美顔術

哲男 狸月

冬晴れの青一色に塗る絵筆
あかり

あかり

一日に天国地獄見てしまう
患者様と呼ばれ何だか落ち着かず

ゆき 正美

お説教くどくど言えば効果なし
続きなら明日にしてんか日が暮れる

和郎 美津子

牛歩から老いを愉しむ知恵が湧く
牽牛と出会えと願うはやぶさ2

ヒロ 弘美

宝箱よりも大事な薬箱
コロナ対策何処へ行っても線と円

淳司 隆明

くどくても言わんとおれぬ老婆心
玄関先マスク持ったかカネあるか

利恵子 洋次郎

今宵また町のネオンは俺を呼ぶ
会食の言い訳ルール国会で

孝 邦夫

コロナでメロコナで明ける去年今年
終息の願いあらたにコロナの春

孝代 由夏

くどくどと言わぬ親父の喝が飛ぶ
盛夫

盛夫

たかがニキビ一喜一憂若かった

敬二

終息の願いあらたにコロナの春

澄子

待ちわびるコロナ新薬ノーベル賞 規之

岩美川柳会(鳥取) 山下 節子報

今日もまた自肅私が消えている 一 瑤
 核廃絶感謝の兆まだ見えぬ 一 平
 反撃のチャンスを持つている拳 重 忠
 酒自肅したらとたんに偏頭痛 完 司
 真相がうやむやになり消え去った 弘 六
 自肅疲れ動き始めた春の虫 凱 柳
 日々感謝してます愚痴もこぼします 美恵子
 自肅中自分磨きの良いチャンス た む
 老いてまだチャンス逃がさず明日を生き 菖 子
 透析で生き延び五年ありがとう 幸 安
 大雪の日の配達に感謝する 敏 子
 どん底のその又底を楽しまん 茶 子
 臆病でチャンスの手たたけない 真理子
 自肅しても梅も桜も呼びに来る 振 作
 うやむやや私の性に合いません 雅 女
 大ピンチチャンスに変えたのは金だ 彰 夫
 ありがとう手放す金はうやむやだ 一 粹
 自肅せよと言うがわが家は四畳半 蟹 郎
 結論はうやむやにして先進む 節 子

西宮北口川柳会(兵庫) 緒方美津子報

二千万あるし体は元氣やし 千賀子
 スマホが持てる2980円 洋次郎
 優しさと温もりがあるみつをの詩 野 鶴
 うっかりとしてたんだねと抱いてやる 昭九朗
 金星に肩で息する若い鬚 健 彦
 また明日と別れた友がもういない 廣 光
 毒なのか葉なのかと酒二合 野 薫
 うっかりもほんやりもみな歳ですわ 富 次
 世の中は公助共助自助だろう 勝 弘
 集まれば肩腰ひざと花が咲く 弘委智
 大好きな人に見られた大あくび 雅 美
 こうなれば祈るしかない第三波 武 彦
 ぼんやりと雲の形をながめてる 伯 備
 消しゴムに甘え気楽に書き損じ 堅 坊
 今のうちうんと遊んで待つ最期 光 久
 知恵しほり父を説得する姉妹 敦 子
 がんばった僕の命に感謝状 正
 返品にうっかりナイフ入れたかも 康 弘
 うっかりと生きてきました百二歳 宏 造
 幸せは肩に重さを残さない 正 彦
 真赤なショール女心の大冒険 靖 夫

うっかりで済まぬアクセル踏み遠え 氷筆

うっかりしてたカラスが告げるゴミ出し日 良 種

人員整理厭な役目の肩たたき 盛 夫

麻酔から覚めたら側に妻がいた 新 録

気兼ねせず自由気ままな一人旅 美津子

淋しさを気楽にかえてミケと居る 黒兎報

ほたる川柳同好会(大阪)水野 順 子

鉄鍋の牛肉めがけ箸乱舞 春 代

鉄腕アトム世代には無理炭治郎 宏 造

孫たちに被せてならぬ鉄兜 一 弥

フィギュアは華麗鉄棒難度悲鳴出る 勝 弘

賭け事は一切しない負けるから 郁 子

果籠もりは遊び心も遠くする 正 子

いつからか怪我せぬように段差見る 則 彦

生かされて敬老の日に大往生 黒 兎

インドから結構な香のダージリン 純 子

いつ来るか見当つかぬ脱コロナ 奈津子

流れ星ジャングルジムの上で待つ 守 啓

ローン終えすつきりさせた二十年 正 報

城北川柳会(大阪) 近藤 賢 子

新しい年へ夢抱くカレンダー

新しい命笑顔かこまれて
 盤と駒磨いて新春を迎え
 朝採りの野菜生き生き道の駅
 生死の境抜け真つ新な朝が来る
 辻井伸行に指揮棒いらぬリズム感
 戸惑いつつ暮しのリズム立て直す
 土に触れ五感のリズム整える
 母の手の不思議なリズム子が眠る
 一歩ずつリズム刻んで富士登山
 ゆるゆると牛の歩みか三が日
 折り合いを世界とつける難しさ
 片目閉じればこの世も捨てたものじゃない
 収束へ笑顔の華の咲く世界
 部屋に鍵ボクの世界に閉じ籠る
 まだ知らぬ世界へ孫の好奇心
 それぞれの蕾が抱いている世界
 世界地図ここが燃えてる飢えている
 万国旗コロナの風にあおられる
 四世代生きて元気なうば桜
 一粒の涙にまどう男達
 GoToは不要不急の旅でした
 コロナ禍で手持無沙汰の鍋奉行
 死にたいと言いつつ今日もマスクする
 運と医師任せてあがる手術台

ルイ子 一歩 信子 星雨 博 満知子 杵香 廣光 克己 正 峰子 万紗子 朝子 かずお 満作 野鶴 洋志 俊雄 志華子 堅坊 勝弘 峰子 五月 宣子

神様に貰う試練を受け止める
 たくさんの道があるけどここを行く
 一二七避難袋の点検日
 百歳もマスク消毒板につく
 動くとも動かさざるとも時を待つ
 肝腹を照らした友の訃報聞く
 初夢はワクチン打った帰りの道
 社殿の前消毒液が待っている
 コロナ禍は辛抱しかない処方箋
 胡蝶蘭レンタルですが届けます

川柳塔鹿野みか月(鳥取)福西 茶子報

廣子 修 和夫 利子 弘委智 肇 実 榮子 正彦 郁夫 小鹿 甚緑 盛桜 鈴 文道 すみれ 正昭 ゆたか 重忠 完司 照彦 茶子

吉と出たこれから食べるエビフライ
 乾杯の前に練習二三杯
 菓立ちする子供を祝い乾杯だ
 私をふるい立たせる乾杯だ
 しっかりと指切りしたが待ちぼうけ
 一人旅頭の中で地図描く
 人生の地図に死火山活火山
 雪の下地図に思いで花盛り
 生真面目は横断歩道はみ出さず
 大吉を逃げないようにホッチキス
 雷に幼児しっかりと抱きしめる
 地図よりも複雑ヒトの相関図
 忘れん坊しばしばなのでレットルがつき
 しまり屋でしっかりと過ぎてけちん坊
 おみくじは分相応の吉が好き
 乾杯の音頭小さな声で言う
 吉日の写真無口のセピア色
 朝いちの化粧仕上がり吉とする
 牛の角吉を信じて歩くのみ
 丸椅子も一緒に聴いたガン告知
 お説教されてしまった遠い耳
 安らかに眠れ私の中の鬼

大山滝句座(鳥取) 新家 完司報

英子 楓花 草文 美ツ千 恒 瑞子 弘子 孔美子 蟹郎 一平 弘六 慎一 大鯰 実満 孝子 宏章 ちかし 静恵 熊四郎

ああ夫婦一足す一も答えぬ
汚職する議員先生無くならぬ
次の世は生まれ変わってヘッブパーン
隣の猫不倫の子供産んでいる
命産む森の鼓動が聞こえない
雪ダルマ俺の芸術性を生む
無農薬天然のもの的大マジメ
寝正月再生の日を決めました
幸福も不幸も生んでいるお金
金持ちが金持を生む国づくり
中止です椅子だけ並ぶコンサート
せつかくに生まれた命使い切る
名句生めずそれでも川柳止められず
遠く住む子より隣が頼りです
にわとりはいとも簡単卵生む
トイレに座ると名句が生まれる
モナリザになるまで椅子で夢を見る
父母の弾んだ電話安心だ
コロナでの経済の策だね生む
図書館の椅子で宇宙の旅をする
卵産む産まない鶏は肉になる
我が夫婦会話はすべてラインのみ
安心を破る夜中に鳴る電話
なぜ産むの虐待の悲劇母性は

余光
みちを
寿代
寛
八千代
芳山
くにこ
順子
正人
麦青
富隆
雄大
風露
由紀子
けいこ
石花菜
美ツ千
隆昌
道春
重忠
久子
清明
俊文
希楽良

机椅子あっても読書寝転んで
佳作生む打ち出の小槌ないものか
雪とけて見慣れた道が現れる
豊中もくせい川柳会(大阪)初代
オリオン星座この時節でも鮮やかだ
旅の半分土産探して終わってる
老老のなかで充電令和ゆく
寒椿落ちて鮮やか赤を撒く
四Kで四季折々の鮮やかさ
玄関に靴は乱れぬ三ヶ日
生き様を置き土産とし父召さる
鮮やかな退き際に舞う紙吹雪
コロナ禍も色は褪せない水中花
6Bを削り続けて自粛する
一生も一秒二秒の積み重ね
どんな時も切り札になるお人柄
鮮やかに繕うだけで若返る
正論が光り出すまで世は待たぬ
手を合わす一合までの御墨付
安心はまだまだと苦勞性
角番に立つと無類の力出る
幸せな笑みこそ土産里帰り

コスモス
規雄
完司
憲央
多美子
時子
武彦
健二
英三
真理子
歌留多
きらり
敏昭
堅坊
忠子
求芽
耕治
見清
満作
英旺

コロナ禍で見つけた虹に祈るのみ(岩)玲子
鮮やかにここぞで締める撥搦き
どうしてもあなたでないとダメだから
雪の上にひとつ真つ赤な落ち椿
世の変る今がチャンスと風の声
初空に心の筆で夢と書く
何事もおもしろがって生きる主義
孫婦省やんちや落書置きみやげ
鮮やかな筆勢清水の舞台
新年に朝日を浴びて鶴が舞う
通天閣の赤く輝く灯の悲し
振り向くと色鮮やかに大落暉
旅費よりも高くつきます土産代
覚悟した男の顔に宿る鬼気
助け合う心が光る被災の地
あかつき川柳会(大阪) 磯島福貴子報

ふりこ
ひとみ
美智代
初正彦
洋志
かずお
弘委智
肇
福正彦
美津子
野鶴
勝弘
黒兎
則彦

忍
小惠美子
堅坊
秀夫
一步

あたらしい日で待つている初日の出 夢草
 転移なし仏に見える医者の顔 征之
 幸せの手前になると良く転ぶ (寺) 弘子
 何回も転んだ割に角取れず 太郎
 コロナ禍で転送開悟爾爾と (川) 信子
 エネルギー転換せねば地球危機 (近) 正
 逆転へコツコツためておく力 (立) 信子
 転ばない九条と言う太い杖 ひろ子
 万端の準備きつちり雨が降る 保州
 自肅中イメージだけの旅支度 (河) 正
 人生百才支度は要らぬ自然体 九条男
 古い支度先ずは肩書から捨てる 楓 楽
 派手を買いたさあ退院へ身構える 和子
 天命は預けて支度などしない 比呂志
 植山を登る脚力つけている 栄子
 旅仕度恋の新芽も期待する 蕉子
 穏やかな曲を選んで寝る支度 明子
 GOTOのチラシ丸めてゴミの中 昌芳
 ワクチンの実験台に高齢者 康信
 右上がり血圧コロナ消費税 チョロ水
 世知辛い世も梅林は凜と咲く 鉄心
 スマホですか原稿ですか管総理 常男
 三人と四人に分けてする宴会 勝久

支え合い励まし合って生き残れ 心平太
 カレーとおでん後はよろしく旅に出る (松) 敏子
 転落は都会の甘い蜜の味 克己
 自分の見合のよう娘について行く シマ子
 案の定秘書が秘書がで茶を濁す 北朗
 パーゲンで目当ての品へまっしぐら 福貴子
 川柳藤井寺(大阪) 鈴木いさお報

初アートのどんな姿で来るのかな 一文
 パーゲンと聞けばわくわく弾む足 ひろ子
 露の臺の黄が笑ってる雪の下 美代子
 定年後ワクワクしてる自由の身 征志
 わくわくもときめきもない冬こもり 絹子
 わくわくもときどきもない父の日よ まつお
 開ける迄期待膨らむ福袋 壽峰
 おみくじに良風ありと書いてある 喜代子
 初めての恋文貰い舞い上がる 芳子
 わくわくとライン動画で孫と会う フジ子
 わくわくと毛虫明日は蝶になる ゆみ子
 わくわくの好きな鏡と暮してる 扶美代
 冬うらら空まで届け私の手 みつこ
 わくわくもときどきもする子の出番 ちづる
 ぜひ一度お会いしたいとある手紙 かずお

茶柱が少しわくわくさせる朝 婦美枝
 綱渡りしてる感じのこの平和 彦弘
 平和ボケと言える平和に感謝する 大子
 世界平和とまず嫁はんと仲直り 六点
 さるすべり平和と語るとき多弁 瑠美子
 タマゴ割る平和な音のする冬日 あかり
 戦争と平和はいつも紙一重 キーキー
 健康で衣食住足りこれ平和 正義
 外出のできぬホームの中和平和 シマ子
 若き日の苦難乗り越え今平和 真澄
 思いやり波風立てず平和です 香代子
 掴めない平和が空で踊ってる しげ子
 光さすそこに見える平和かな 華
 平凡が一番平和だと気付く いさお
 助け合う平和な時を木偶達 みつ江
 徴兵制があつて平和を噛みしめる 久仁雄
 コロナ戦やつと世界の息が合う ダン吉
 牛歩でも平和の道へ一歩二歩 一歩
 川柳塔なら 大久保眞澄報
 商いの上手へ財布背伸びする 希久子
 岡持がまた売れ出すか令和の世 武人
 ビリケンさん撫でて儲かりますように いさお

完売になって一息つくワゴン	美智子	飲み歩き痛いと言えぬ膝と腰	崇明	味のある字だと楷書を誉めちぎる	武人
縁日の子供目当ての小商い	弘子	白寿までしかと歩こう趣味の道	堅坊	さしすせ味の決め手は愛情よ	あかり
閑古鳥鳴いてコロナの小商い	満作	食べて寝て歩く私のルーティーン	志津子	味見する言うてポトルを空にされ	博
特売品買ってインフルもろてくる	見清	ばあちゃんの歩幅へ合わす十五歳	昌代	味よりも量と頬張る食べ盛り	信子
百均で儲け出るのが摩訶不思議	敬子	自国ファースト歩み寄れない国ばかり	久仁雄	大丈夫味も解るし熱もない	賢子
小商い大方妻が仕切ってる	シマ子	懸命の汗歩行器の一步二歩	欣之	甘辛の味を取り混ぜ世を渡る	武彦
量り売りちよつと多めに小商い	恭正	百歳を生き切る一步への氣迫	ふりこ	白星の陰の努力を見てやろう	一步
商学部出たのに店はまた破産	則彦	支え合いコロナ禍の道歩む日々	江里子	白星は無理完全に呑まれてる	亜成
シンドラーが商う救命のリスト	亜成	時の流れに牛の歩みも速くなる	恭昌	老いてなお白星ひとつ探す道	麗
飽食の時代に稼ぐライザップ	雅美	川柳ねやがわ(大阪)	惠子報	封筒が立つほど欲しい一時金	彰一
お試しセット買ったら後で電話攻め	かずお	み仏になる人間のゴールイン	壽之	予定した家計狂わず賞与ゼロ	壽峰
こだわりが味に出ているがんこ店	賛郎	自粛街の帰路急がせる白い星	千賀	初夢はコロナ終息した報せ	銀杏
小商いいつもはしゃいでいる小銭	すみれ	ボーナス出て一際旨い屠蘇の酒	玲子	思うこと叶えひとりの祝酒	弘委智
若旦那になったら若い客が増え	保州	どん底を真つ直く生きて神に会う	仁	一年間杖使わずにありがたい	ルイ子
ふぐ提灯コロナの風が消してゆく	惠美子	這ってでもゴールに向かいたどりつく	清	目覚めれば深夜ラジオがしゃべってる	さち子
旨いもの作れど店は閑古鳥	優	ゴールまで貧乏神がストーカー	弘一	役立たぬ五体支える句の力	秀雄
終章は手を携えて虹の橋	惠	母さんとゴールで待ったにぎり飯	かすみ	元氣だけそれが取柄の独り者	一文
リュウグウの砂の解析待っている	元子	一本の薬に縋っているゴール	郁夫	ついて来る犬で散歩がやめられぬ	博泉
胎動をうきうきと聴くカレンダー	誠	合格がゴールじゃないと論ず絵馬	常男	介護棟数多数の愛で支えられ	勝弘
土起こし春の息吹が匂う土	寿之	人生のゴールへ悔いを残すまい	朝子	子守歌のようブーさんの絵本練る	高鷲
逢える日は花にたつぷり水をやる	ひろ子	頑張つて卒寿ゴールと一万歩	尚世	孫からのお年玉にはついほろり	茜
ときめきのキャッチボールをするグラス	柎子	ゴールなど決めてはいないシャボン玉	和織	世界中笑える明日がきつとくる	高志
家族みんなの視線を浴びて歩き初め	昭				

句会名	日時と題	会場と投句先
豊中 もくせい 川柳会	15日(月) 13時50分締切 耳・喜ぶ・わざわざ・自由吟	豊中市立中央公民館 3F 阪急宝塚線「曾根」駅 徒歩5分 〒569-0073 高槻市上本町5-26 初代正彦
川柳 たちばな	19日(金) 13時45分締切 印象吟・迷う(互選)・結ぶ 自由吟	立花北生涯学習プラザ 尼崎市塚口町3-39-7 ℡ 06-6422-6741 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造
川柳 ねやがわ	20日を誌上句会に(20日締切) 綱渡り・財布・上役・カルテ 自由吟	〒572-0063 寝屋川市春日町9-9 高田博泉
岸和田 川柳会	20日(土) 14時 楽器・育つ・前・スイーツ	岸和田市立福祉総合センター 南海電鉄「岸和田」駅東へ徒歩5分 〒596-0076 岸和田市野田町2-13-19 中岡香代
川柳 藤井寺	21日(日) 14時締切 一流・待ったなし・席題共選	藤井寺市生涯学習センター・しゅらホール 3F 近鉄南大阪線「藤井寺」駅下車南へ徒歩10分 〒583-0007 藤井寺市林5-8-20-303 鈴木いさお
南大阪 川柳会	22日(月) 投句会 はしゃぐ、けったいな きっぱり・異色・雑詠	大阪市立住まい情報センター 5F 研修室 メトロ谷町線・堺筋線「天神橋6丁目」駅③号出口 〒569-1124 高槻市南芥川町9-28-901 松岡 篤
川柳塔 まつえ 社	26日(金)締切 2月3月誌上例会 2月:鳥・地・ひよこり・どろどろ・軽 3月:歩く・流す・レンタル・はつぽつ・素	投句先 〒690-0012 松江市長志原7-19-19 中筋弘充
川柳塔 すみよし	投句句会27日(土) 締切 理・助ける・ふわふわ・案外	住吉区役所内 住吉公民館 2F 〒580-0026 松原市天美我堂3-130-2-404 森松まつお
和歌山 三幸川 柳会	27日(土) 13時15分締切 卒業・嘘・場所 投句締切18日	和歌山商工会議所 4階 〒640-8570 ニュース和歌山編集部 「和歌山三幸川柳会」宛
川柳塔 みちのく	27日(土) 17時締切 鉢巻き・がたがた・雅	弘前市御幸町13-1「大成小学校地域交流室」℡0172-32-2591 〒036-8275 弘前市城西1-3-10 川柳塔みちのく事務局 稲見則彦 ℡0172-36-8605
はびきの 市 川柳会	28日(日) 14時締切 後味・緩む・うっかり・席題	陵南の森公民館 近鉄南大阪線「高鷺」駅下車 北へ徒歩10分 〒583-0864 羽曳野市羽曳が丘1-11-8 徳山みつこ
川柳 ふうもん 社	28日(日) 13時から 自由吟・高い・失礼・最大 席題	県民ふれあい会館 4F 鳥取市扇町2 1 〒689-0202 鳥取市美萩野2-171-3 中村金祥
川柳 さんだ	投句句会1日(月)締切 増加・近い・マナー・目指す 自由吟	投句先 〒651-1514 神戸市北区鹿の子台南町4-46-5 冨永恭子

★上記は年初計画です。諸般の事情上、詳細は各柳社にお問い合わせください。

3月各地句会案内

(開催日順)

句会名	日時と題	会場と投句先
川柳塔 な ら	2月末日投句締め切りました 配信・たぶん・心配	〒633-0341 磯城郡田原本町薬王寺150-21 中堀 優
城北会 川柳会	投句句会6日(土) 締切 夢・酸っぱい・マスク・下町 自由吟	投句先: 〒536-0001 大阪市城東区古市1-8-14 江島谷勝弘
川柳 とんだばやし 富柳会	6日(土) 14時締切 点・飾る	富田林市立中央公民館 近鉄南大阪線「富田林」駅南口から西へ200m 〒584-0064 富田林市不動ヶ丘8-31 山野寿之
倉吉 川柳会	6日(土) 14時締切 態と・慕う・きつい・席題	倉吉市明倫公民館 〒689-2221 鳥取県東伯郡北栄町由良宿2072-17 谷口次男
西宮北口 川柳会	投句句会8日(月) 締切 風・任せる・埴輪・がっかり 自由吟	西宮市立中央公民館 6F 講堂 阪急「西宮北口」駅南出口徒歩3分「ブレラにしのみや」 〒663-8141 西宮市高須町2-1-31-830 福田正彦
ほたる 川柳 同好会	9日(火) 13時30分締切 医者・歩く・あたたか	豊中市立蛭池公民館 阪急・モノレール蛭池 蛭池駅前ビル 5F 〒561-0813 豊中市小曾根2-4-1 水野黒兎
川柳塔 さ かい	9日(火) 投句締め切り ちゃらんぼらん・耕す・都 折句: よ・し・の	投句会
川柳 あまがさき	9日(火) 14時締切 出直す・保養・ざわざわ・自由吟	尼崎市女性センター・トレビエ 2階 阪急武庫之荘駅南へ5分 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造
六甲 川柳会	11日(木) 締切 誌上句会 鮮明・渡る・まだまだ・そして 自由吟	〒657-0011 神戸市灘区鶴甲4-11-11 上田和宏
あかつき 川柳会	12日(金) 14時締切 だんだん・変・加減・時事吟	大阪保育運動センター(新谷町第1ビル2F) メトロ「谷町六丁目」駅③番出口南へ3分(道路向い側へ) 〒543-0013 大阪市天王寺区3-6 木村ビル2階 あかつき川柳会
川柳大阪	休会します	メトロ・長堀鶴見緑地線・京橋駅 研修室 〒534-0021 大阪市都島区都島本通4-11-6 山崎珠生
川柳塔 わかやま 吟社	13日(土) 14時10分締切 兼 題=重ねる・席・三 課題吟=沈	和歌山商工会議所 4階 和歌山市西汀丁36 兼 題 〒649-6253 岩出市紀泉台366 藤原ほか 課題吟 〒592-8349 堺市西区浜寺浜詰町東2-208-5 桑原道夫
川柳塔 打 吹	13日(土) 13時30分締切 椅子・笑う・しつこい・席題	倉吉市上灘町9 上灘公民館 〒682-0034 倉吉市大原637-3 牧野芳光 方 川柳塔打吹 事務局
八尾市民 川柳会	14日(日) 14時締切 陽炎・ゆっくり・頼む・雑詠	八尾市安中町3-5-1 渋川・安中集会所 JR「八尾」駅から徒歩5分 〒581-0083 八尾市永畑町2-1-7 土田欣之

柳界展望

鈴木いさお
 ▽訂正とお詫び△
 ○2月号、P65下段8行
 目、大阪の↓大阪城の
 ○2月号、P110訃報・磯
 野↓磯野

★「第39回没句川柳供養
 誌上大会」主催ふうもん
 吟社。参加者209名。
 同人成績。

天位 大久保真澄
 トンカツソースみたい
 な味の夫です

○令和2年度本社句会年
 間賞は木本朱夏さん（和
 歌山市）に決定。

▽動向△
 ○藤井寺川柳会会長交代
 1月より 鴨谷瑠美子↓

○2月号、P1103段目、
 下雅意引六↓弘六
 ▽新誌友紹介△
 芦屋市 上野多恵子
 紹介者 西出 楓葉

三田市 東内美智子
 紹介者 北野 哲男

大阪市 大沢のり子
 紹介者 平井美智子

▽出版△
 ○澤井敏治川柳句集
 「鹿の声」A5判98頁
 発行・毎週Web句会

句会部よりお知らせ

川柳塔本社4月句会は、下記の要領で誌上句会といたします。
 皆さまのご投句をお待ちしております。

記

「川柳塔」3月号に投句用紙を同封します。
 （未読の方は川柳塔社事務所までご請求ください。）
 投句締切 3月31日（水）消印有効
 入選発表 「川柳塔」令和3年6月号
 投句料 1000円（切手不可）

兼題「空 気」	柳田かおる	選（愛媛県）
兼題「アウト」	松原 寿子	選（和歌山県）
兼題「忘れる」	仁部 四郎	選（佐賀県）
兼題「ペラペラ」	月波 与生	選（青森県）
兼題「立 場」	小島 蘭幸	選（広島県）

（各題2句出し）

問い合わせ・送り先

〒543-0052 大阪市天王寺区大道1-14-17
 花野ビル201 川柳塔社
 TEL 06-6779-3490

21 京都みんなの川柳誌上大会

宿題(各題2句)

「看 板」 大村 松石 選

「広 い」 福井 民雄 選

「うつつら」 宮井いずみ 選

「きっかけ」 川畑まゆみ 選

「素 直」 安土 理恵 選

「こだわる」 こうだひでお 選

投句締切 令和3年3月31日(水)

当日消印有効

投句要領

原稿用紙など一枚の用紙に
題と作品2句列記。郵便番号・
住所・氏名(ふりがな)・電
話番号を明記

1000円(定額小為替・
現金・切手不可)発表誌呈

令和3年6月予定

投句料

令和3年6月予定

発行先

〒606-8306

京都市左京区吉田中阿達町18
シオン6

中野 六助宛

京都川柳作家協会あて

TEL 075-752-8030

主催

京都みんなの川柳誌上大会実行委員会

竹原川柳会

創立65周年記念 誌上川柳大会

課題と選者(各題2句 3名の共選)

「酒」 高木 勇三 共選

弘兼 秀子 共選

新家 完司 共選

「竹」 弘津秋の子 共選

雲石 隆子 共選

田中 新一 共選

「自由吟」 小島 蘭幸 謝選

規定の用紙(コピー可)

※応募作品はコピーをします
ので、濃い鉛筆またはボール
ペンをご使用ください。住所・
氏名・電話番号を記入のこと。

1000円(定額小為替)

作品発表誌(川柳だけはら
10月号)

令和3年7月末日必着

投句締切

〒725-0022

投句先

竹原市本町3-3-7

賞 各選者三才(天・地・人)に
古田 比呂子宛

連絡先 竹原の銘酒屋

〒725-10022
広島県竹原市本町1-14-3

TEL・FAX 0846-22-6626
小島 蘭幸 宛

主催 竹原川柳会

▽訂正とお詫び△

○1月号 P16下段年賀広告

鳥取県川柳作家連盟 ↓ 鳥取県川柳協会

▽巻頭言訂正△

○2月号 P1下段15行目、

墓石の朱は褪せ未亡人長者

↓墓石の朱は褪せ未亡人長寿

編集後記

★春情やちまたに枝垂るもの多し 薫風

★被災地大植町の民宿に乗り上げたままだった観光船がついに解体されるという。あの日から10年、震災のモニUMENTとして保存の案もあったようだが、地元には地元の事情があるらしい。こうして震災の記憶は人々の脳裏から、風景から風化し、ついに砂粒のように跡形もなく消えてゆくのだろうか。「偏に風の前の塵に同じ」平家物語の一節が浮かぶ。

★一月号、二月号に掲載の「名句選・この一句」は清博美先生発行「江戸川柳」からの転載です。「江戸川柳」の表紙には「えとがわせんりゆう」と読まないでください。「えとせんりゆう」ですとわざわざ書かれています。

す。先生からのメールをご紹介します。

★：古川柳は今や絶滅危惧種です。(中略)若い人達の参加が全くなく、後継する人物が見当たりません。古川柳研究会の生き残りとしては、私の代で終わらせるのかと思うとゾッとします。「古川柳」を「ふるかわやなぎ」と読まれましたので、「江戸川柳」としましたら今度「えとがわやなぎ」と読まれました。笑えない事実です。……そういえば昔、川柳を「かわやなぎ」と読まれ、「お茶ですか」と言われたことがありました。嗚呼：★コロナ第三波、一部地域に発令されていた緊急事態宣言が延長された。終息は神のみぞ知る。4月7日に予定されていた本社句会も急遽中止、誌上句会となりました。108頁をご覧ください。

ユーモアのある風景

表紙の木彫りの円空仏の素材な微笑がほっこりと心に染みる「ユーモアのある風景」(織田正吉著)を読む機会があった。かるい読み物かと思つて手にしたのだが、「笑いの本質」を究めた内容で笑いの歴史を万葉集、古今集に遡つて掘り下げられた学問的記述で新しい知識を習得する部分が多かつた。

読み進めているうちに、どこか

(村上 玄也)

ひとつこと

★「ママ シュギョウガ 宅を訪問して、たもつさ タリナイネ」「つばやきんの蔵書ダンボール五箱の言葉です。5歳の瞳に大人はどう映っているのか。「ヘン シュウサン シュギョウガ タリナイネ」と言われないよう私も心を引き締めねば。

(朱夏)

□故前たもつさん(相談役)が亡くなられて一週忌後、西出楓葉相談役にお願いして、たもつさん

□蔵書には、私がいままにないものは保管して、その他については、今年

□蔵書は、川柳塔事務所など多数ありました。

の「俺に似よ〜」、生々庵師、薫風師、新子さん

前田伍健句集「野球拳」、東野大八句集「あかしん」、川上大輪・富湖句「川柳塔まつり」で、故塩満敏さんの蔵書とともに、参加者のみなさまにご披露して、貰っていた

集「青空もうひとつ」など披露して、貰っていた

早速ひもととき楽しんでみにしたい

(勝弘)

作品募集

5月号発表 (3月15日締切)

川柳塔 (8句)	小島 蘭 幸 選
水煙抄 (8句)	西出 楓 楽 選
愛染帖 (2句)	新家 完 司 選
檸檬抄「弾く」	石橋 芳 山 共選
(2句)	古今堂 蕉 子 選
インスピレーション「ナビ」(2句)	大西 泰 世 選
「まるい」	栗田 忠 士 選
「髪」	松尾 美智代 選
「鳥」(3句)	居谷 真理子 担当

初歩教室「鳥」は6月号発表

6月号
檸檬抄「リアル」
一路集「帽子」「群れる」
初歩教室「半分」

お知らせ

4月7日(水)に開催予定の本社句会は、残念ながら中止と決定しました。代わって誌上句会として開催いたします。

詳細は108頁をご参照ください。

三密を避け、ソーシャルディスタンスを守り、手洗い、マスク、消毒、換気を忘れず、ご安全にお過ごしください。

本社4月句会は誌上句会です
詳細は川柳塔3月号108頁ご参照
投句締切日3月31日、発表6月号
兼題「空 気」「アウト」「忘れる」
「ペラペラ」「立 場」

川柳塔柳篋

3冊 送料共 1,000円
事務所あてお申し込み下さい。

川柳・俳句・エッセイ・小説 新聞・広告・ポスター・伝票等

あなたの思いをかたちにします。



美研アート

〒531-0061 大阪市北区長柄西1-1-10
TEL (06) 4800-3018
FAX (06) 4800-3028
Eメール bikenart@ea.mbn.or.jp
ホームページ <https://www.bikenart.com>

〒543-0052

大阪市天王寺区大道一丁目一四一七
花野ビル201号室

発行所 川柳塔社

電話(06)六七七九一三四九〇番
振替〇〇九八〇一四二九八四七九番

定価 八百円(送料100円)

半年分 五千円(送料共)

一年分 九千八百円(同)

二〇二二年(令和三年)三月一日発行

発行人 小島 和幸

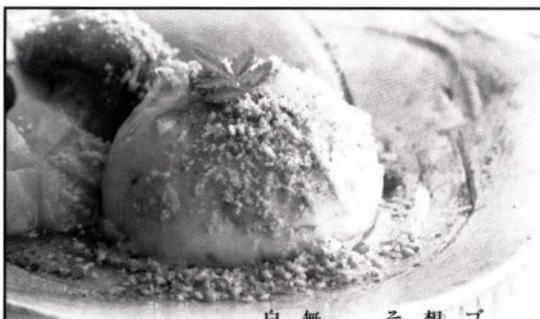
編集人 木本 朱夏

印刷所 美研アート

オニザキのプレミアムロースト

つぎま

杵つき製法の「すりごま」



袋を開けた瞬間に広がる、
香ばしい薫り。舌と記憶に
しっかりと残る、深いコク。
料理をより美味しくする
ゴマを作りたい、真つすぐな
想いから生まれた逸品。
それが「プレミアムロースト」。
素材本来の良さを余すこと
無く引き出した、オニザキの
自信作をお届けします。

株式会社 オニザキコーポレーションセールズ
〒862-0951 熊本市中央区上水前寺1-6-41 OCOビルディング

TEL 0120-30-5050

心を尽くし 思いを尽くし 知性を尽くし
力を尽くして全人的に仕える医療と福祉

医療法人社団 湯川胃腸病院



消化器科 放射線科 脳神経外科
緩和ケア（ホスピス）
デイサービスセンター併設



大阪市天王寺区堂ヶ芝2-10-2 TEL 06-6771-4861

<http://www.yukawa.or.jp>